クボタトラクタ

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ ✚ 安全五憲章

1・道路を走行するときは，
ブレーキペダルを連結します。

2・農道を走行するときは，
スピードを落とし路肩に注意します。

3・ほ場へ出入りするときは，
スピードを落としあぜに直角に走行します。

4・トラクタや作業機を点検調整するときは，
必ずエンジンを止め，油圧ロックをします。

5・補助者と共同作業を行なうときは，
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は，安全五憲章のとおりですが，これ以外にも本文の中で **安全ポイント** として説明のつどとり上げております。

更に，安全のポイントを抜粋した安全注意ポスタ・納入品安全説明書を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買いあげの製品がいつまでもすぐれた性能を発揮するようこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し，わからないことがあったとき取出してお読みください。

なお，製品の仕様変更などにより，お買いあげの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

また，この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので，お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ，おまちがいのないようお願いいたします。

- 大きさ別によって……「195仕様」「215仕様」「235仕様」「255仕様」「275仕様」「295仕様」「315仕様」「325仕様」
- 駆動方式によって……「２WD（二輪駆動）仕様」「４WD（四輪駆動）仕様」
- クラッチ方式によって……「シングルクラッチ仕様」「ダブルクラッチ仕様」
- パワーステアリング付き……「S仕様」
- モンローマチック付き……「M仕様」
- モンローマチックオート付き……「MA仕様」
- 耕深レーダ付き……「MAE仕様」
- 倍速ターン付き……「B仕様」
- ノンクラッチトランスミッション付き（F）……「GST仕様」
- 逆転PTO付き……「X仕様」
- レインガードキャビン付き……「W仕様」

説明はL_1-275を基本とし，L_1-275と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

34670-1921-8

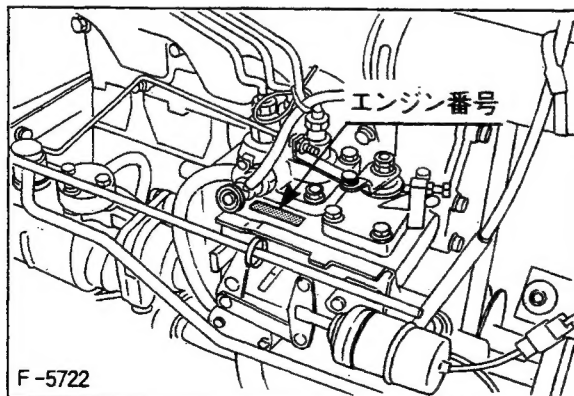
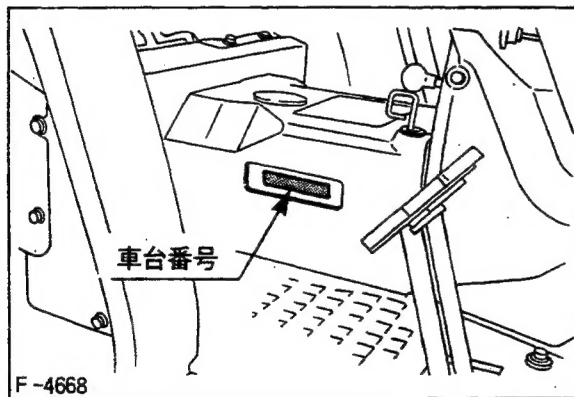
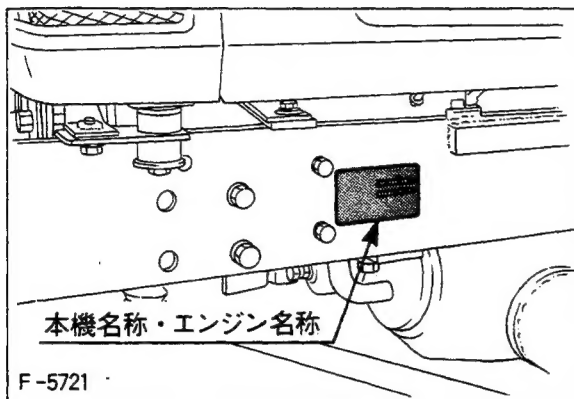
目次

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してあります。詳しくはサービスブックを御覧ください。
なお，御使用中の故障や御不審な点及びサービスに関する御用命は，お買いあげいただいた販売店・農協又は当社内燃機器支店に，それぞれ**「御相談窓口」**を設けておりますのでお気軽に御相談ください。
その際　(1)本機名称と車台番号
　　　　(2)エンジン名称とエンジン番号
を合せて御連絡ください。

F-5721

F-4668

F-5722

農機型式名	安全鑑定適合番号
クボタL1-195D	1301001
クボタL1-215D	1301002
クボタL1-235D	1301003
クボタL1-255D	1301004
クボタL1-255DF	1301005
クボタL1-275D	1301006
クボタL1-295D	1301007
クボタL1-315D	1301008

農機型式名	型式検査(国検)合格番号
クボタL1-255D	88023
クボタL1-275D	88024
クボタL1-295D	88025
クボタL1-315D	88026
クボタL1-325D	88027
クボタSF20 (安全キャブ及び安全フレーム)	88016
クボタSF24 (安全キャブ及び安全フレーム)	88017
クボタSF26M (安全キャブ及び安全フレーム)	88018
クボタSF28M (安全キャブ及び安全フレーム)	88019
クボタSF325 (安全キャブ及び安全フレーム)	88028

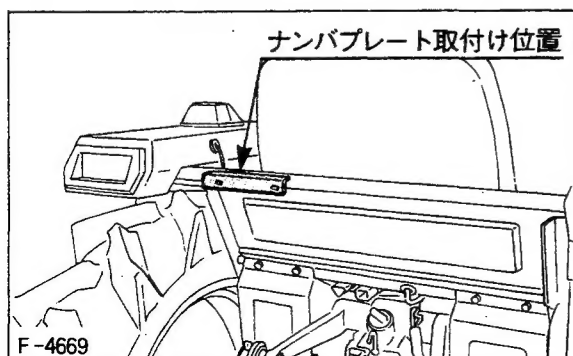
●検査成績表は，71～80ページを御覧ください。

小型・大型特殊自動車としての取扱い

小型特殊自動車について

■届出

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，販売店・農協に御相談ください。）

■運転免許

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を満足する構造を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特に御留意ください。

(1)認定を受けたエンジン以外は，搭載して運行することはできません。

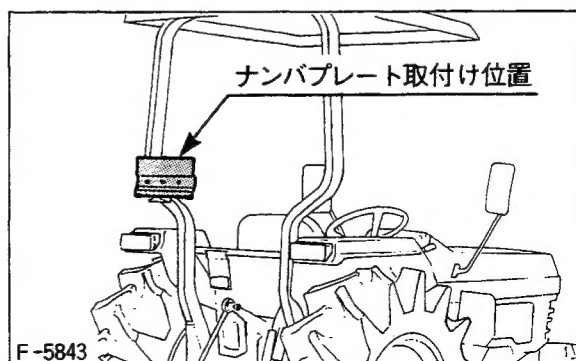
(2)認定時の構造を変更（大径車輪やドッキングローダなどを装着）した状態では，運行することはできません。

(3)エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印がはずされたと認められる場合は，一切の保証は致しません。

大型特殊自動車について【L1-325仕様】

L1-325仕様は，大型特殊自動車として認可されておりますから，次の手続きが必要です。

■登録

大型特殊自動車として登録申請し，ナンバプレートの交付及び封印の取付けを受けなければなりません。

■自動車保険

大型特殊自動車の運行には，自動車損害賠償責任保険が必要です。

■運転免許

公道を走行する場合は，必ず大型特殊自動車の運転免許証と自動車検査証を所持してください。

■整備

このトラクタを運転する場合，１日１回運転の前に点検をしなければなりません。

また，６カ月ごとに点検整備することが必要です。

なおくわしいことは，お買いあげいただきました販売店・農協におたずねください。

■車検

自動車検査証の有効期間は２年間です。有効期限が切れるまでに車検を受けなければなりません。

■輪距

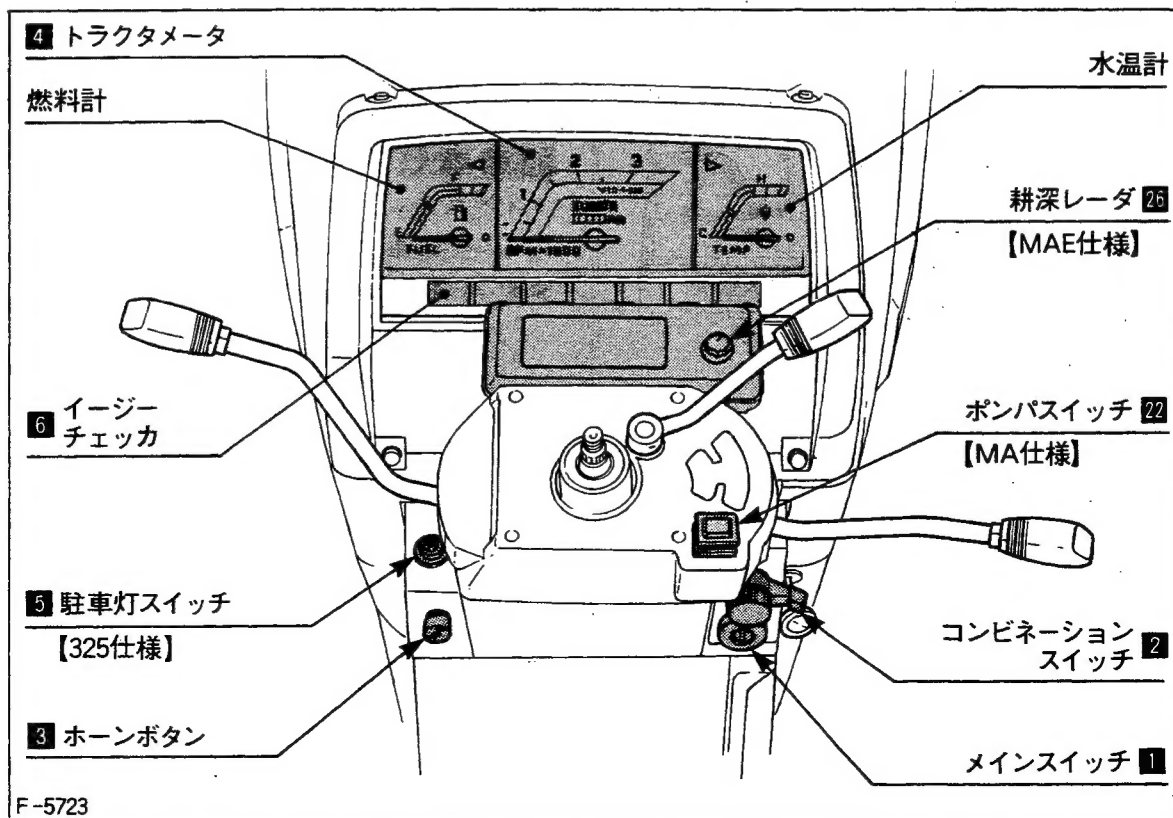
公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。

指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は「道路運送車両の保安基準」違反になり，道路を走行することができません。

	形　式	タイヤの呼び	輪距（mm）
前輪	L1-325	8－16 4PR	1190
後輪		13.6－24 4PR	1175

装置の知識について

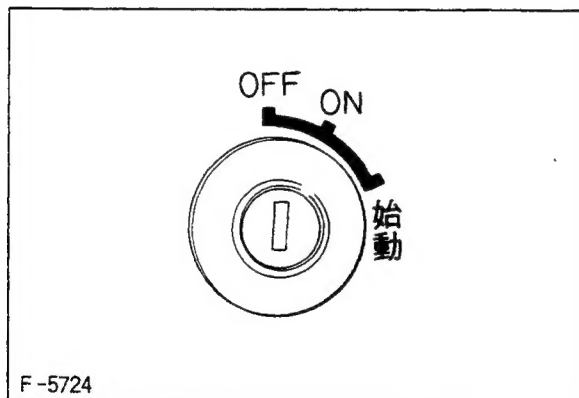
スイッチとメータの取扱い

F-5723

1 メインスイッチ

OFF……エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ON……エンジン回転中の位置。

始動……クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「ON」に戻ります。

F-5724

2 コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

≣D……ヘッドランプ上向き照射位置。

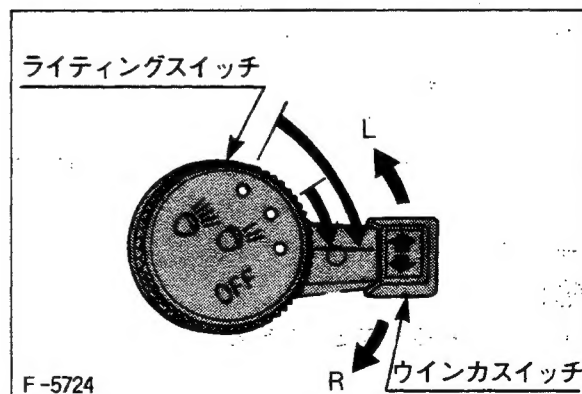
≣D……ヘッドランプ下向き照射位置。

OFF……ヘッドランプ消灯位置。

◆ウインカスイッチ

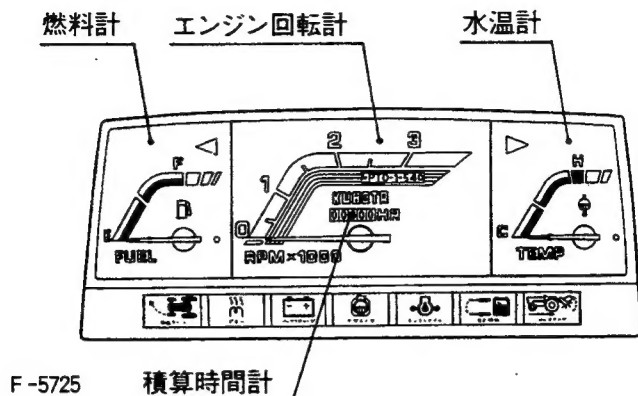
L方向に操作すると左ウインカが点滅します。

R方向に操作すると右ウインカが点滅します。

F-5724

3 ホーンボタン

メインスイッチを「ON」の位置にし，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

4 トラクタメータ

F-5725

◆積算時間計

エンジンを定格回転で使用した場合の時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。〔例〕0170(1)……170時間6分

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

◆燃料計

メインスイッチ「ON」「OFF」に関係なく，燃料タンク内の残量を示します。

注意

● Eに近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

◆水温計

メインスイッチが「ON」のとき冷却水温を示します。メインスイッチが「ON」以外では，指針は「C」より下の位置にあります。

指針がレッドゾーンを示すときは，

(1)冷却水の有無・漏れ。

(2)ファンベルトのゆるみ。

(3)防虫網及びラジエータに，泥やゴミが付着していないか。

点検してください。

注意

● エンジンを必ず停止して行なってください。

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒートしたときは，

❶作業を中止し，

❷エンジン回転を一旦アイドリング(約5分間)にしてから，

❸エンジンを停止して，

点検してください。

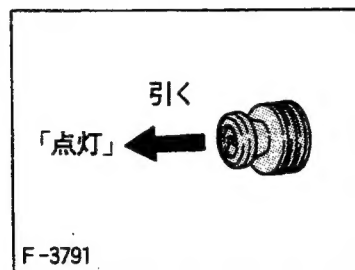
【L1－325仕様】

5 駐車灯スイッチ

メインスイッチを「OFF」にしてスイッチを

引く……駐車灯が**点灯**します。

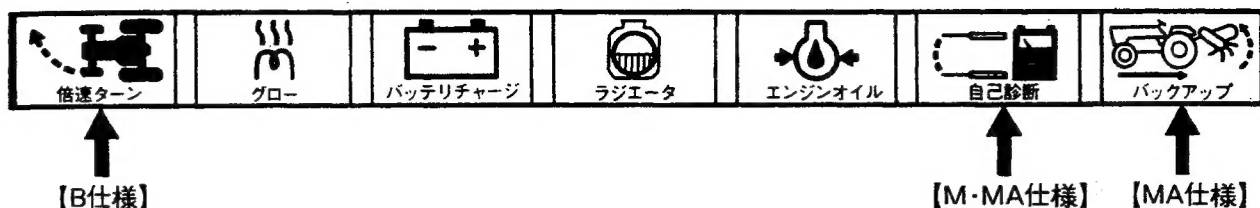
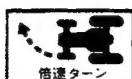
押す……駐車灯が**消灯**します。

F-3791

■バックランプ

シャトルレバーを「**後進**」の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ

ブレーキランプ左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

6 イージーチェッカ

F-5726

倍速ターンランプ(倍速ターン表示灯)
【B仕様】

倍速ターンに変速すると点灯します。

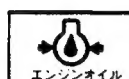
グローランプ

メインスイッチを「ON」にすると点灯し，燃焼室内の予熱が完了すると消灯します。

バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)

エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，始動すると消灯します。

ラジエータランプ(冷却水量警告灯)

冷却水の残量がリザーブタンクのLOW LEVEL以下になったとき点灯します。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，始動すると消灯します。

エンジンオイルランプ
(エンジンオイル油圧警告灯)

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。メインスイッチを「ON」にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

自己診断ランプ【M・MA仕様】

電子部品の診断時に使用します。
メインスイッチを「ON」にすると一回点滅します。

バックアップランプ【MA仕様】

スイッチボックスのバックアップスイッチを「ON」にすると点灯します。

◆チャージランプについて

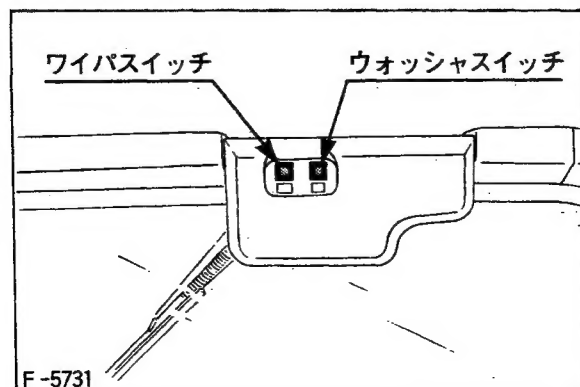
エンジン回転中，充電系統が異常のとき，ラジエータランプとバッテリチャージランプの2つのランプが点灯し，警告します。

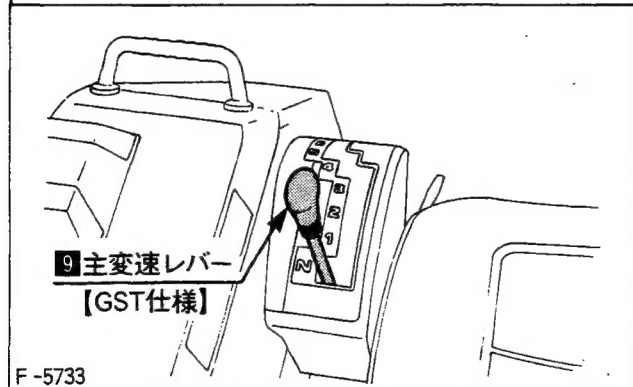
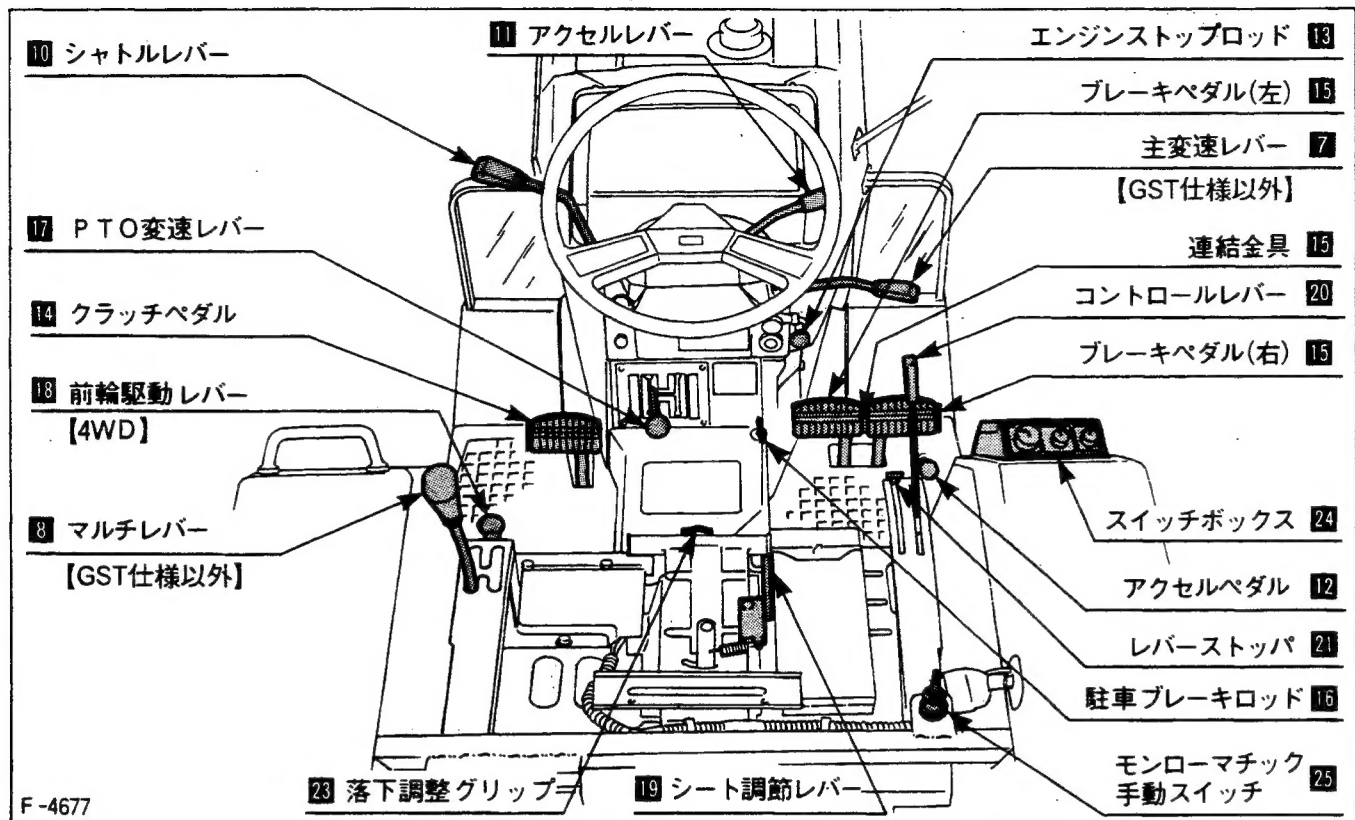
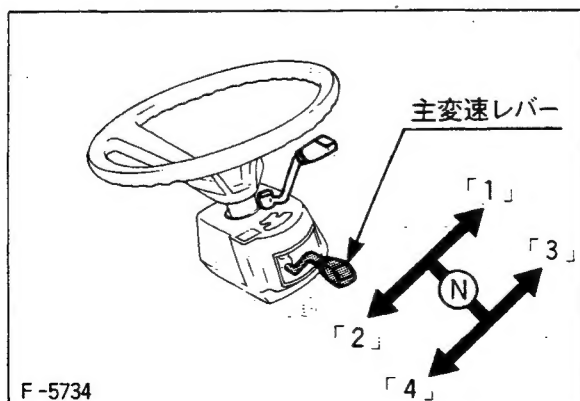
注意

- **イージーチェッカのみで日常点検は済ませず，点検は確実に行なってください。**

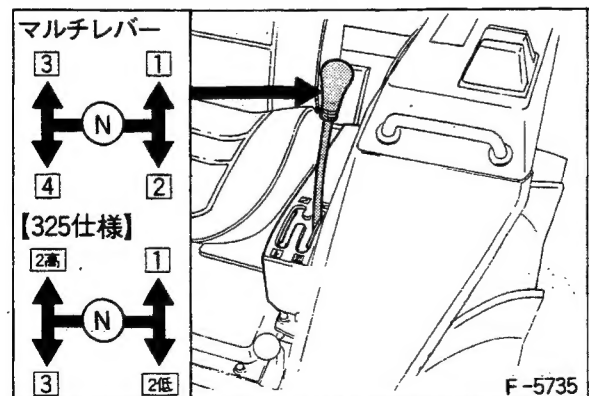
(35ページ「仕業点検」参照)

■ワイパスイッチとウォッシャスイッチ【W仕様】

ワイパスイッチを押すとワイパが作動します。再度押すとワイパが停止します。
ウォッシャスイッチを押すとウォッシャ液が噴射します。

F-5731

運転装置の取扱い

7主変速レバー【GST仕様以外】

8マルチレバー【GST仕様以外】

主変速レバーと操作を組合せることにより，前進16段・後進16段の車速が得られます。

マルチレバーの１・２(２低)速はクリープ速度になります。

(運転席側から見た状態)

注意

(1)マルチレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度マルチレバーを操作してください。

(2)また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバー又はシャトルレバーを「N」(中立)にしてから操作してください。

L₁−325仕様では細かい作業速度を得るため，マルチレバーに「２高」「２低」位置を設けています。次のような変速を行なうと，高能率作業が行なえます。

●「２高」速で作業中に少し車速を下げたいとき
マルチレバーを「２高」から「２低」にすると，車速が約20％ダウンします。

●「２低」速で作業中に少し車速を上げたいとき
マルチレバーを「２低」から「２高」にすると，車速が約20％アップします。

主変速レバー		１速	２速	３速	４速
マルチレバー	２高	1.5	2.0	3.2	4.7
	２低	1.2	1.7	2.7	3.9

◆超低速度〔マルチレバー1・2速（クリープ速度）〕の使い方

超低速度（クリープ速度）は，使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。

次のことに注意の上御使用ください。

(1)使用できる作業

●ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
●ロータリ耕うんで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
●プランタによる移植作業。
●農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
●車への積込み，積降ろし。

(2)使用できない作業（故障の原因になります）

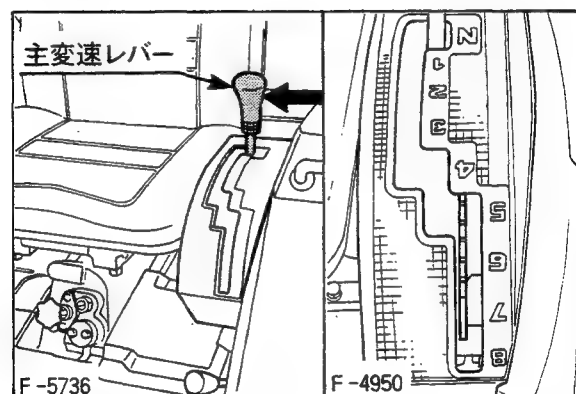
●湿田での沈没状態からの脱出作業。
●けん引・トレーラ作業。
●フロントローダ作業。
●フロントブレード作業（除雪作業）。
●土木作業。
●ほ場への出入り。

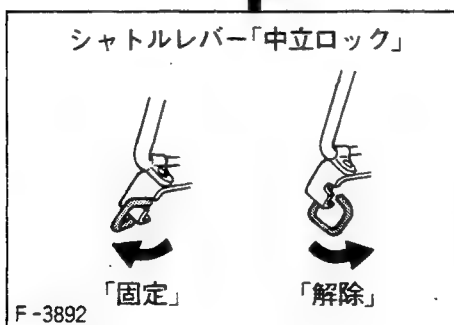
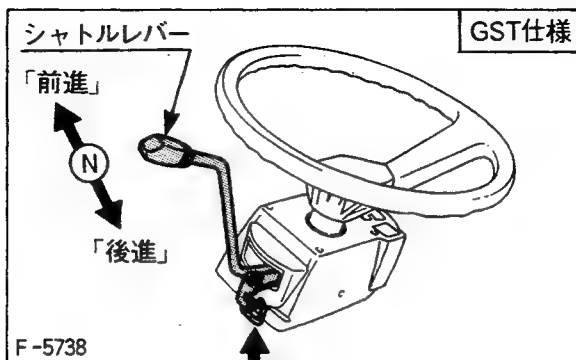
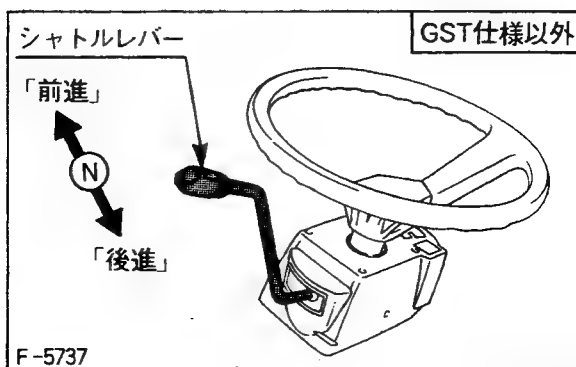
(3)超低速度（クリープ速度）を使用するときは，必ず次のことを守ってください。

●変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
●発進は，駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
●停止は，クラッチを必ず切ってからブレーキをかけてください。

（超低速度（クリープ速度）では車軸の回転力が大変強くなるので，ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。故障の原因になります。）

9 主変速レバー【GST仕様】

１本のレバー操作で，前進８段・後進８段の車速が得られます。

10 シャトルレバー

レバーを前に押して「前進」，手前（後）に引いて「後進」です。

注意

●停車する場合は必ずシャトルレバーを「N」（中立）にし，中立ロックをかけてください。【GST仕様】

11 12 アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用する。

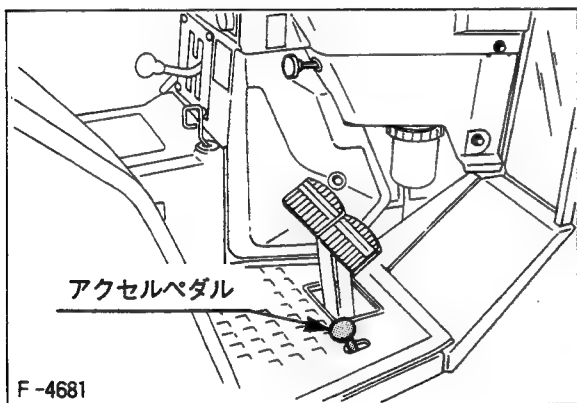
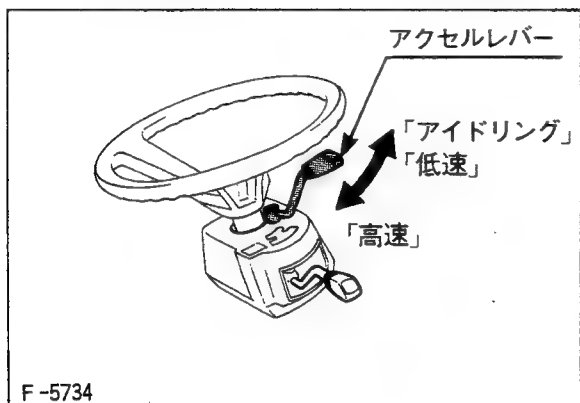
アクセルペダル……主に道路走行時に使用する。

アクセルペダルは,アクセルレバーと連動しており,

ペダルを踏込む…………エンジン回転が上がる。

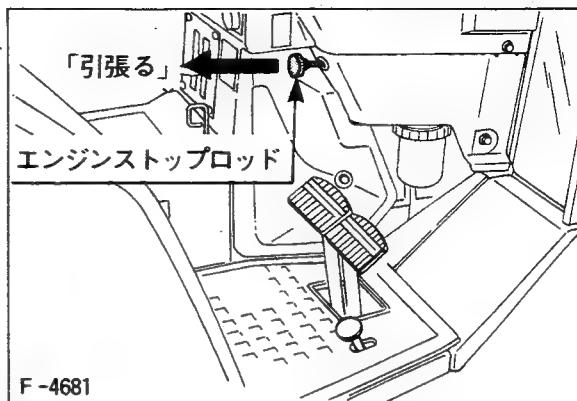
ペダルから足を離す……アイドリング状態。

F-5734

F-4681

13 エンジンストップロッド

メインスイッチを**「OFF」**にすると,エンジンが自動的に**「停止」**します。

万一停止しないときは,エンジンストップロッドをいっぱい**「引張る」**と,エンジンが**「停止」**します。

F-4681

注意

- **エンジンストップロッドは,エンジンが完全に停止した後,元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップロッドを引いた状態では,エンジンは始動しません。**

14 クラッチペダル

クラッチは,エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

◆シングルクラッチ仕様

ペダルを**踏込む**…………クラッチが**切れる**。

ペダルから足を**離す**……クラッチが**つながる**。

◆ダブルクラッチ仕様

ペダルを**1段踏込む**……**走行クラッチ**が切れる。

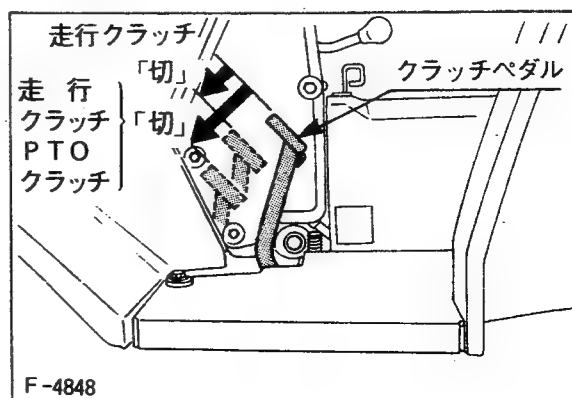
(PTOクラッチはつながったまま)

ペダルを**2段踏込む**

……**走行クラッチ・PTOクラッチ共**切れる。

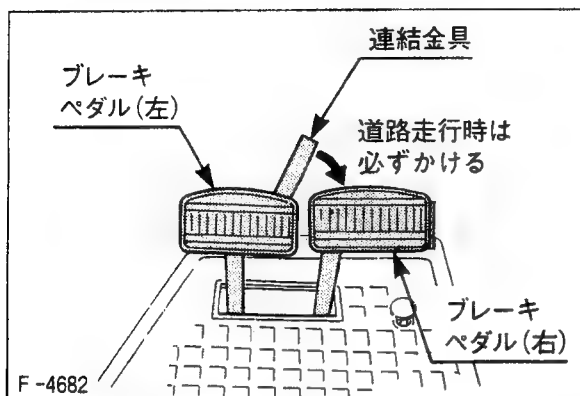
ペダルから足を**離す**

……PTOクラッチ,走行クラッチの順につながる。

F-4848

15 ブレーキペダル

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

連結金具をかけた状態………道路走行時。

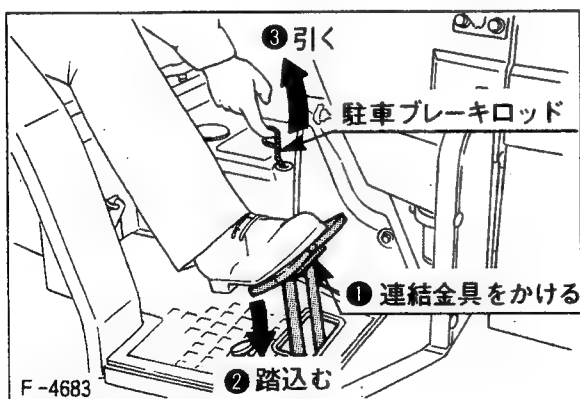
連結金具を外した状態………**農作業時。**

安全ホイント

● **道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。**

→ 納入品安全説明書14ページ参照

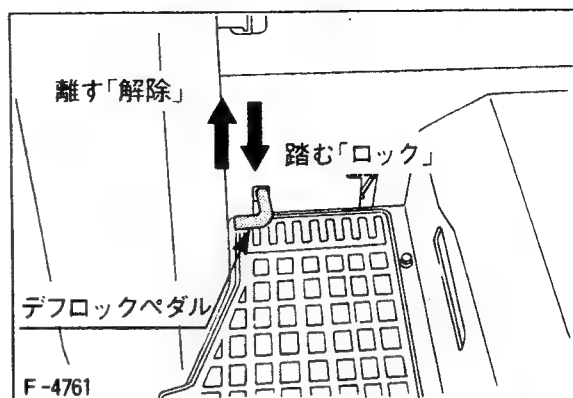
16 駐車ブレーキロッド

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，ロッドを引くと爪がみぞにかみ合い，駐車ブレーキがかかります。

外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む…………ロックされる。

ペダルから足を離す……自動的に外れる。

◆デフロックの使い方

デフロックは，下記のような場合には非常に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

(1)農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。

(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。

(3)プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，車輪がスリップしたとき。

注意

(1)デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

(2)抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

(3)使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

安全ホイント

● **デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず外してください。**

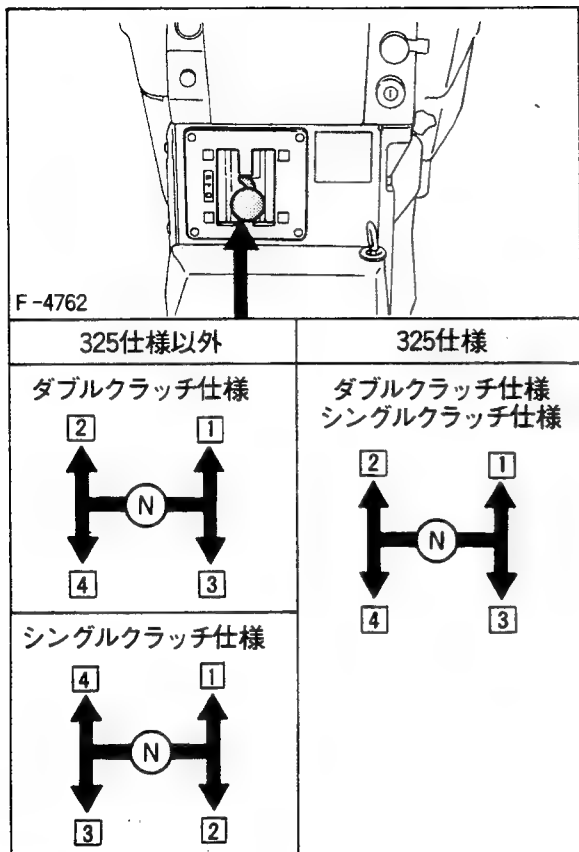
→ 納入品安全説明書12ページ参照

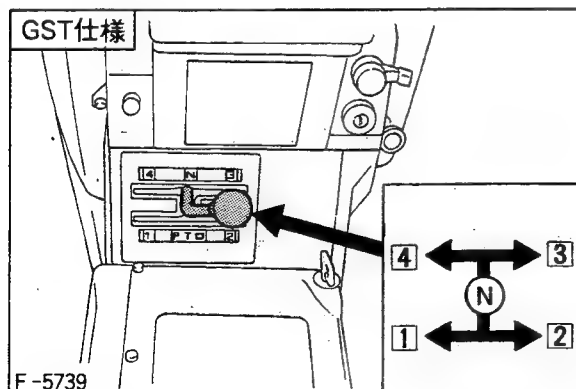
▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

17 PTO変速レバー

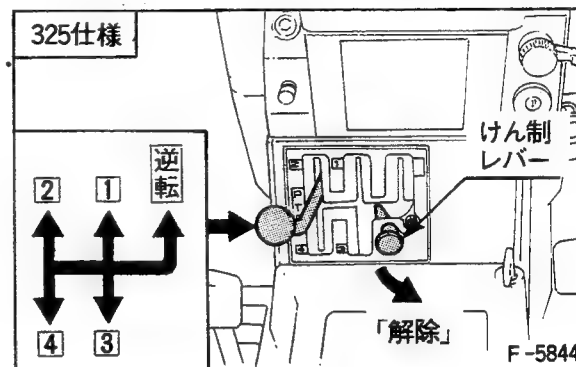
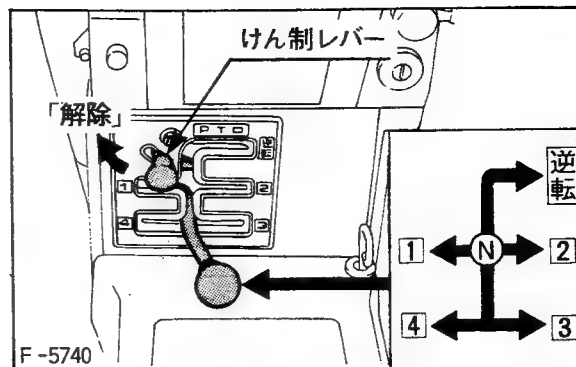
◆X仕様以外

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，4段階に変速できます。

注意

- 「1」「3」速のみダブルクラッチ用になっています。十分クラッチを踏込んで変速してください。

◆X仕様

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転4段階逆転1段階に変速できます。

(1)逆転に変速するときは，けん制レバーを解除方向に保持しながら変速してください。けん制レバーを解除しなければ，逆転に変速できません。

(2)逆転から正転に変速するときは，けん制レバーは自動的に解除されます。

◆PTO「逆転」の使い方

(1)使用できる作業機

- インプルメント一覧表(63ページ参照)のロータリに限ります。

注意

- インプルメント一覧表に記載以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

(2)使用できる作業

- 土寄せ作業
- 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

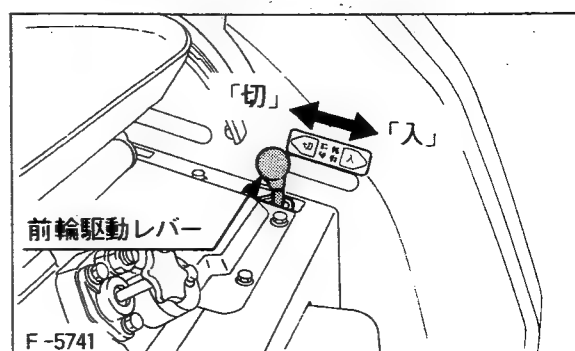
(3)使用できない作業

- 未耕地での耕うん作業
- ロータリの爪軸を逆に取付けて行なう耕うん作業

18 前輪駆動レバー【4WD】

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み，

レバーを前に押す……前輪が駆動される。

レバーを後に引く……前輪駆動が切れる。

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

(1)傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。

(2)砂地で作業をする場合。

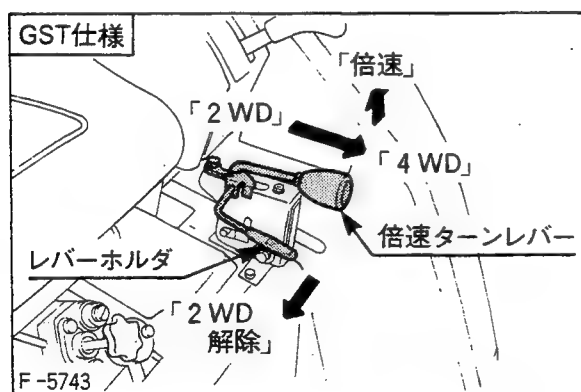
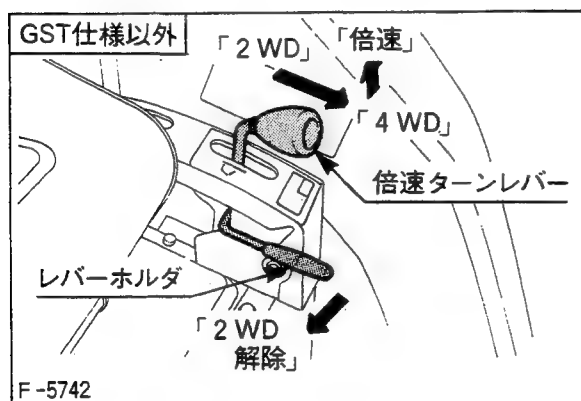
(3)固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

■倍速ターンレバー【B仕様】

前輪駆動の断続に使用するレバーで，

レバーを後に引く…… 2輪駆動になり，自動的に保持されます。

レバーホルダを解除して，

- レバーを前に押す…… 4輪駆動
- 更に上に引上げる……倍速ターンが入る。

◆倍速ターンの使い方

倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

注意

(1)倍速ターンの「入」「切」は，前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。

(2)ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかるときは，使わないでください。

(3)プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。

安全ポイント

- 倍速ターンに入れたままでほ場以外を走行すると危険です。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを4WD又は2WDに切換えてください。

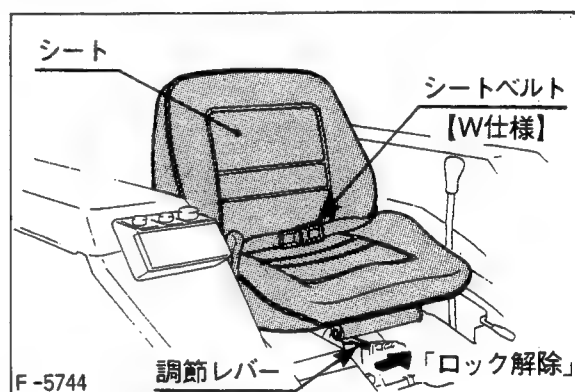
▶もし怠ると……

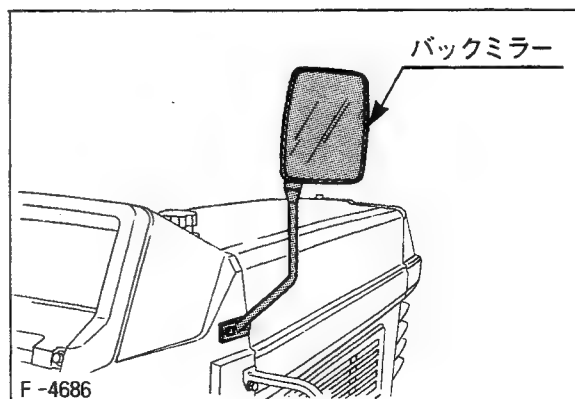
傷害事故を引起すことがあります。

19 シート調節レバー

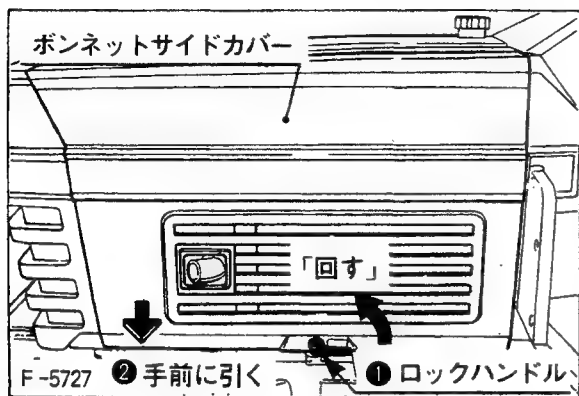
(1)シート下の調節レバーを左側に引くと，前後4段階に調節できます。

(2)雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。

(3)W仕様のみシートベルトは標準装備です。

■バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

■ボンネットサイドカバーの開けかた

❶ボンネットサイドカバー左右ロックハンドルを回すと外れます。そして，❷ボンネットサイドカバーの下部を手前に引き，全体を上に持上げると外れます。

F-5727

注意

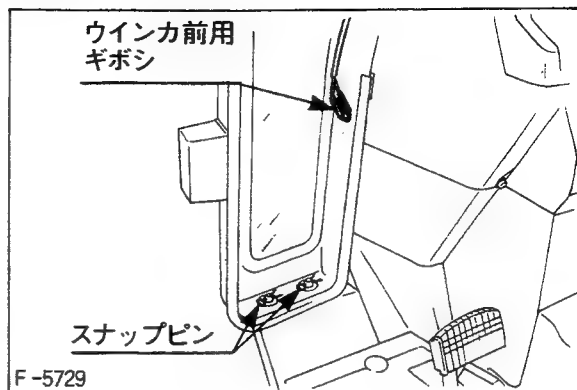
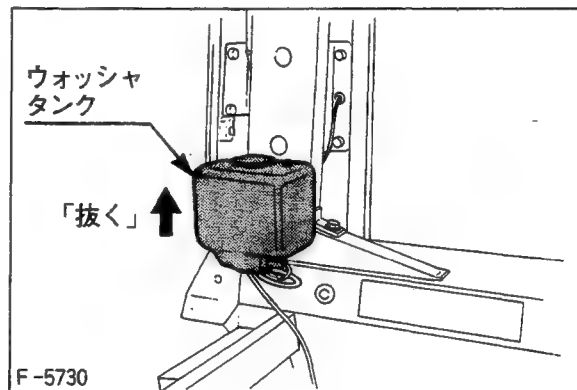
● ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

■レインガードキャビンの取付け・取外し【W仕様】

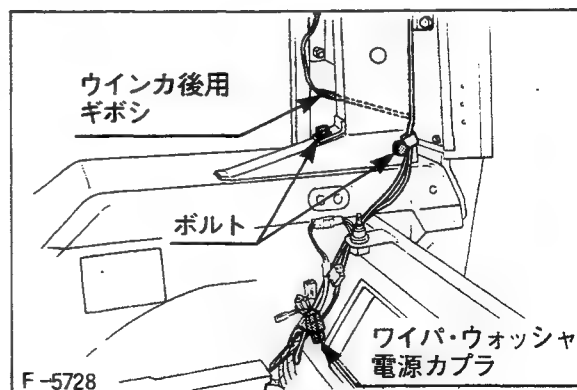
❶ウィンカ前用ギボシ(左右)を外し，スナップピン(左右各2本)を外します。

F-5729

❷ウォッシャタンクを外します。

F-5730

❸ウインカ後用ギボシ(左右)を外し，ワイパ・ウォッシャ電源カプラを外します。

❹キャビン支柱のボルト(左右各2本)を外します。

F-5728

❺キャビンを持上げて取外してください。

❻取付けは取外し順序の逆に行なってください。

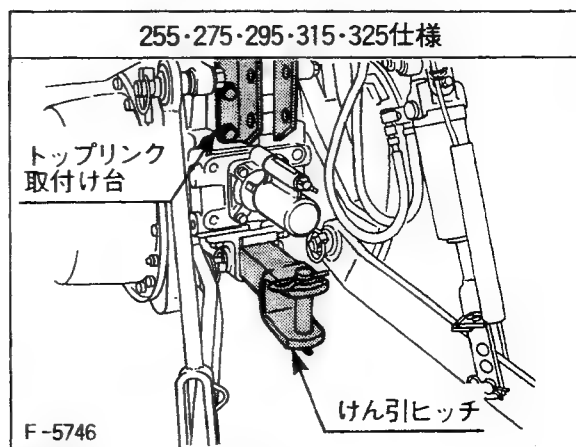
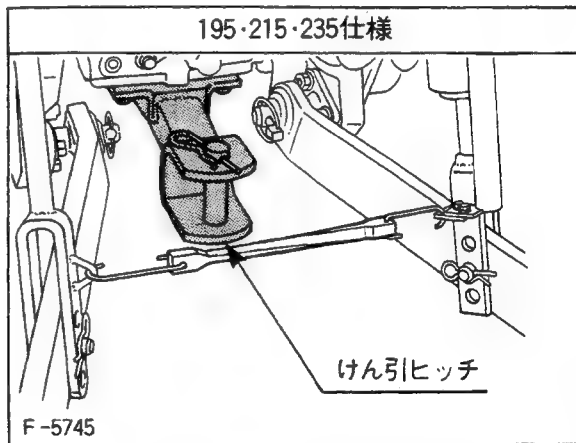
■けん引ヒッチ

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず販売店・農協に御相談ください。

195・215・235仕様

F-5745

255・275・295・315・325仕様

F-5746

注意

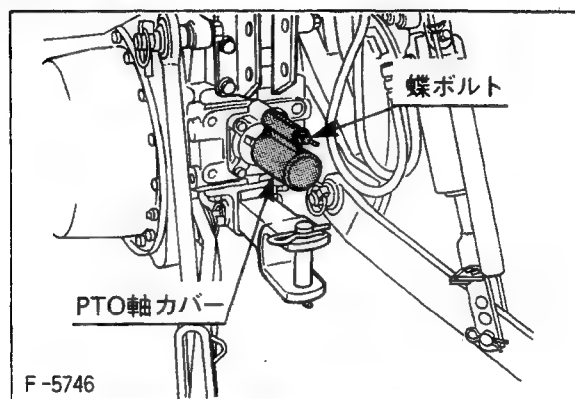
- けん引作業をする場合は，けん引ヒッチを引き出して御使用ください。【255・275・295・315・325仕様】

安全ポイント

(1)けん引作業をするときは，けん引ヒッチを必ず使用し，トップリンク取付け台で引張らないようにしてください。
▶もし怠ると……
転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。

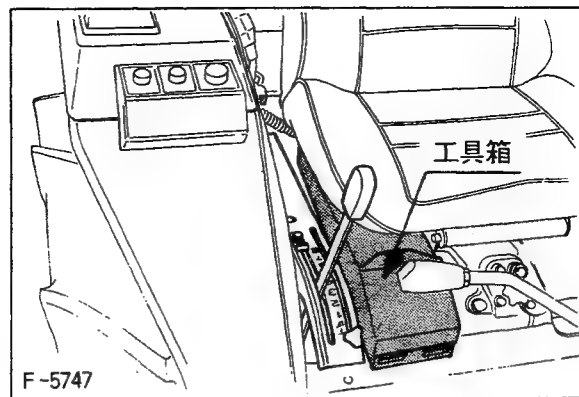
(2)3点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを下向きにして前へ押込むか，外してください。
▶もし怠ると……
ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，災害を起す危険があります。

■PTO軸カバー

F-5746

安全ポイント

- PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。
▶もし怠ると……
巻込まれによる傷害事故を引起す恐れがあります。

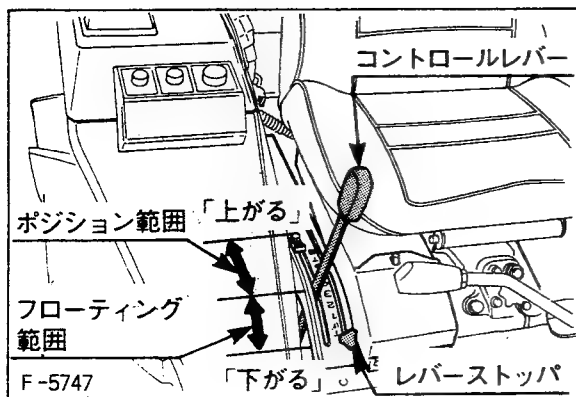
■工具箱

F-5747

作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

20 コントロールレバー

コントロールレバーで作業機を自由に上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機は上がらずいっぱいまで下がります。MA·MAE仕様ではオート耕うん作業ができます。

◆コントロールレバー【325MA仕様】

ドラフト耕深調節ダイヤルとコントロールレバーを併用することにより，プラウの降下位置が規制（ミックスコントロール）でき，作業を能率良く，きれいに仕上げることができます。

安全ポイント

- エンジン始動後，レバーを元の位置（エンジン停止時のレバー位置）へ操作するかポンパスイッチを操作しないと作業機の昇降はできません。　【MA仕様】

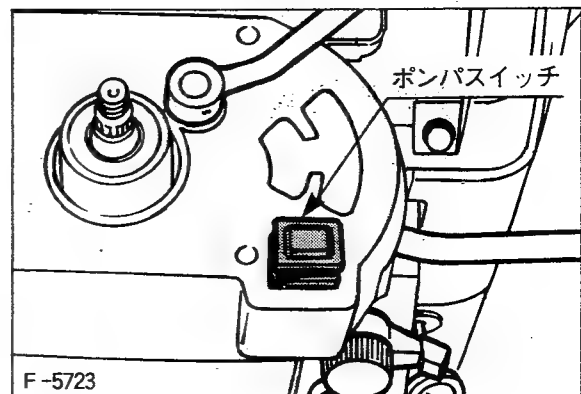
21 レバーストッパの使い方

❶コントロールレバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，コントロールレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。
（レバーストッパは，上げの規制にも使用できます。）

22 ポンパスイッチ【MA仕様】

スイッチボタンで作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
スイッチを押す（ランプ点灯）……作業機上昇
再度押し解除する（ランプ消灯）……作業機下降
ポンパスイッチで作業機上昇後，コントロールレバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ランプ消灯），ポジション制御になります。

◆ポンパスイッチの上手な使い方

スイッチを解除したときの下降位置はコントロールレバーで設定した位置になります。
例えばドライブハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，コントロールレバー位置をセットしたまま，ポンパスイッチにより昇降させることができます。【耕深位置制御】

注意

- 危険防止のため，ポンパスイッチの使用は，ほ場内作業のみにしてください。ほ場外（移動など）ではスイッチを必ず解除し，コントロールレバーを使用してください。

㉓作業機落下速度の調整

落下調整グリップを回すことにより調整できます。

注意

(1)MA・MAE仕様の場合，落下速度が速すぎるとスムースに落下しない場合がありますので，スムースに落下するよう落下スピードを調整してください。

(2)油圧をロックするときは，ネジをいっぱいに締込まないで軽く締込むだけにしてください。

安全ポイント

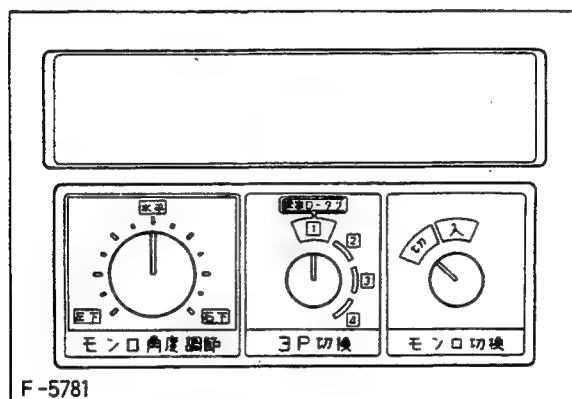
●ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップを締込んで，作業機の落下を防止してください。
グリップを締込んだ後，コントロールレバーを「下がる」の方向に動かして，作業機が落下しないか必ず確認してください。

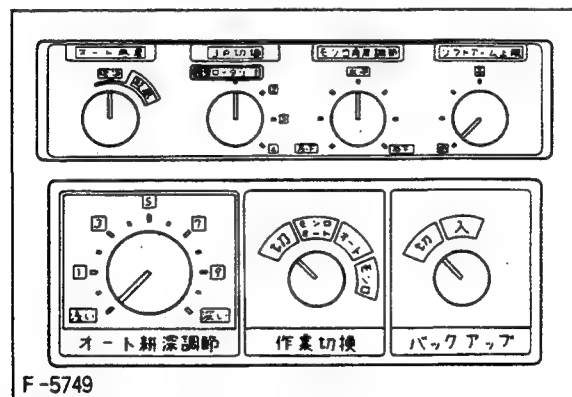
→ 納入品安全説明書12ページ参照

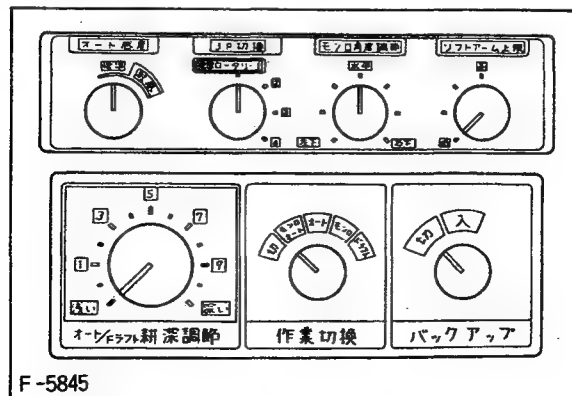
モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

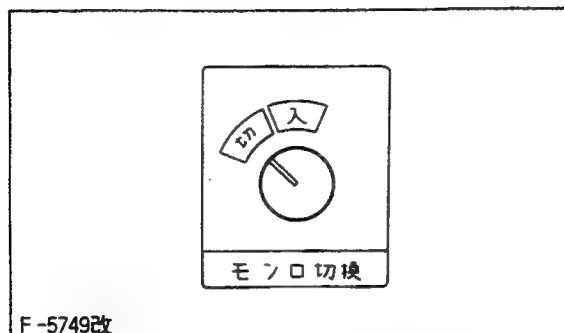
24 スイッチの取扱い

【M仕様】

F-5781

【MA仕様】

F-5749

【325MA仕様】

F-5845

◆モンローマチック切換えスイッチ【M仕様】

「自動」と「手動」の切換えを行ないます。

F-5749改

「入」…モンローマチックの「自動」制御を行ないます。

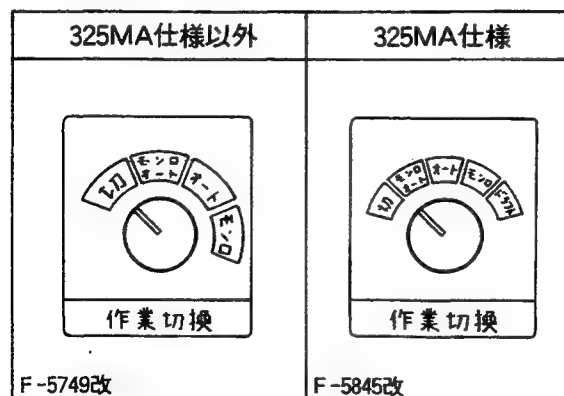
「切」…モンローマチックの自動制御が解除され，「手動」になります。

◆作業切換スイッチ【MA仕様】

【325MA仕様以外】

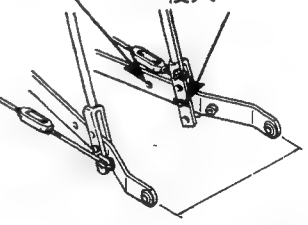
モンローマチックとオートの作業選択を行ないます。

【325MA仕様】

モンローマチックとオート，ドラフトの作業選択を行ないます。

F-5749改　F-5845改

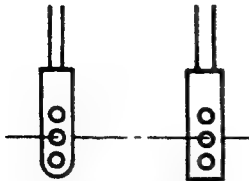
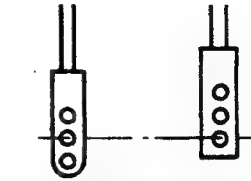
作業切換スイッチ	モンロ	オート	ドラフト【325MA仕様】
切	手動	切	切
モンローオート	自動	自動	切
オート	手動	自動	切
モンロ	自動	切	切
ドラフト	手動	切	自動

注意

● 畝立て作業などロータリカバー2を上げて作業するときは，「モンロ」又は「切」にしてください。

◆３Ｐ切換えスイッチ

３Ｐ切換えスイッチ1，2，3，4の切換えは，作業機によって定まる3点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて選択してください。

3Ｐ切換えスイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位置	作業機例
1	広	後	Aフレーム付ロータリ
2	広	前	プラウ
3	狭	後	Aフレーム無しロータリ
4	狭	前	代かきロータリ

F-5749改

ロアーリンク前穴
ロアーリンク後穴
ロアーリンクの幅
「広」…718mm
「狭」…590mm

F-3192

注意

● ロアーリンクにリフトロッド(リフトシリンダ)との接合穴が３コある場合は，後の2コをロアーリンク穴位置「後」として切換えスイッチを選択してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

◆モンローマチック角度調節ダイヤル

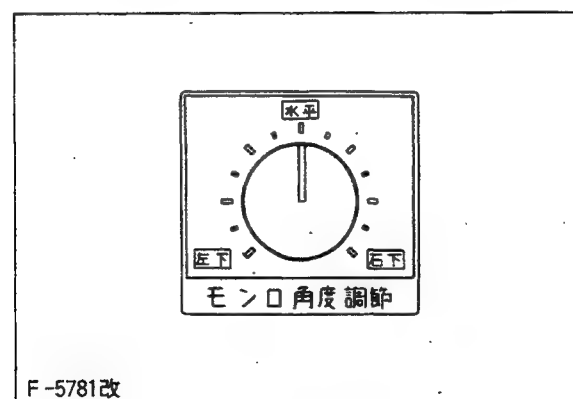
モンローマチック切換えスイッチが「入」の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

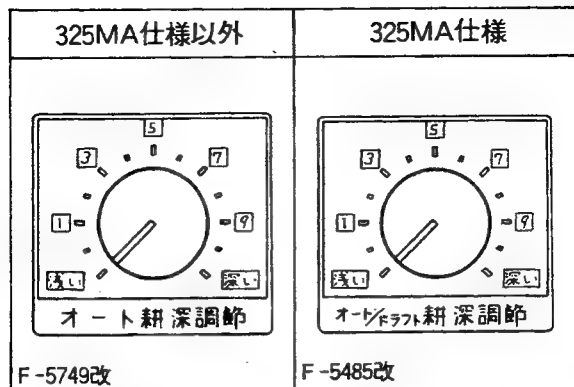
(1)ダイヤルを水平位置にしますと，作業機は**水平**に保持されます。

(2)ダイヤルを左下方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。

(3)ダイヤルを右下方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

F-5781改

◆オート／ドラフト耕深調節ダイヤル【MA仕様】

F-5749改　F-5485改

●オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合
ロータリの耕うん深さを調節するときに使用します。
(1)ダイヤルを「浅い」方向へ回すと，ロータリの耕深が浅く保持されます。
(2)ダイヤルを「深い」方向へ回すと，ロータリの耕深が深く保持されます。

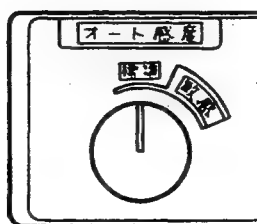
注意

(1)コントロールレバーで耕深を決めている場合はツマミを「深い」方向へ回しても耕深は深くなりません。
(2)深田での浅起こしは，オートでは限りがありますので，コントロールレバーを併用してください。

●ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合
プラウなどでの耕深を調節するときに使用します。
(1)ダイヤルを「浅い」方向へ回すと，プラウの耕深が浅く保持されます。
(2)ダイヤルを「深い」方向へ回すと，プラウの耕深が深く保持されます。

注意

●ダイヤルを「深い」方向へいっぱい回すと，フローティング範囲になります。また「浅い」方向へいっぱい回すと作業機が上端まで上昇します。

◆オート感度切換えスイッチ【MA仕様】

F-5749改

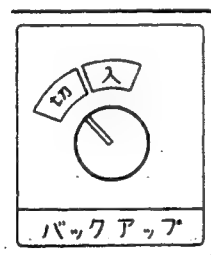
●作業切換スイッチが「オート」の場合
「標準」……浅起しから深起しまで，一般的な作業はすべてこの位置で行ないます。
「敏感」……湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上りの状態に応じて，この位置で行ないます。

●作業切換スイッチが「ドラフト」の場合
「標準」……一般的な作業はすべてこの位置で行ないます。
「敏感」……軽い土壌など，けん引負荷の小さい作業は，この位置で行ないます。

注意

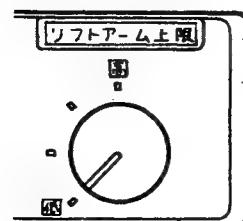
●感度を大きく変えたいときは，トップリンクホルダの穴位置を変えてください。
敏感……「上」の穴位置
鈍感……「下」の穴位置
(84ページ「◆感度調整要領」参照)

◆バックアップスイッチ【MA仕様】

シャトルレバーをバックに入れると作業機が上昇する装置です。
作業機を下げたままのうっかりバックから作業機を守ります。
バックアップで上昇した作業機を下げるときは，コントロールレバー又はポンパスイッチを操作してください。

F-5749改

「入」(ランプ点灯)…バックアップが働きます。
「切」(ランプ消灯)…バックアップが働きません。

◆リフトアーム上限ダイヤル【MA仕様】

リフトアームの上限位置を変えるときに使用します。

F-5749改

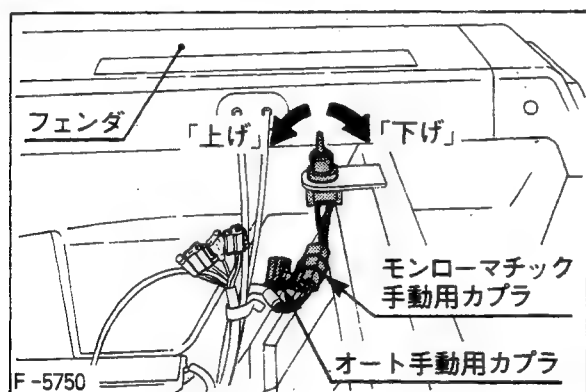
(1)ダイヤルを「低」方向に回すと，リフトアームの上昇高さが低くなります。

(2)ダイヤルを「高」方向に回すと，リフトアームの上昇高さが高くなります。

注意

●リフトアームの上限規制は，ポンパスイッチとの組合せでは作動しますが，コントロールレバーとの組合せでは作動しません。

25モンローマチック手動スイッチ

モンローマチック切換えスイッチが「切」の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

(1)「上げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。

(2)「下げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

注意

●スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック「入」(自動)では次のような作業に効果があります。

（トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機の傾斜が一定になります。）

(1)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 位置の場合

- ●水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
- ●整地板・ドライブハローなどによる均平作業
- ●畑での畝立て，畝崩し作業その他

(2)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 以外の場合

- ●プラウ作業，広幅畝立て，その他

◆モンローマチック「切」(手動)では次のような作業に効果があります。

- ●メロンなどの高畝作り，その他
- ●作業機の着脱

注意

(1)モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業などの場合)には，「切」で作業してください。

(2)「手動」で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

(3)チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に3点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

安全ポイント

●道路走行時には必ず「切」にして走行してください。
また，落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

◆オート手動スイッチとして使用する場合【MA仕様】

コントロールボックスが故障し，作業機を手動で昇降させる必要のあるときのみ，モンローマチック手動スイッチをオート手動スイッチとして使用してください。

オート手動スイッチとして使用する場合は，モンローマチック手動用のカプラを外してオート手動用のカプラにつけ換えてください。 (左上図参照)

（最上昇位置まで上げたとき，コントロールレバーでは下降しません。ポンパスイッチで下降させてください。）

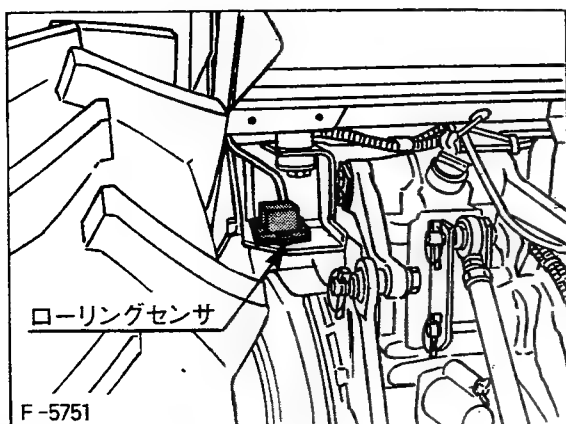
安全ポイント

●コントロールボックスが故障し，オート手動スイッチとして使用したときは，作業終了後，速やかに修理して，緊急時以外は絶対にオート手動スイッチとして使用しないようにしてください。通常はモンローマチック手動スイッチとして使用してください。

▶もし怠ると……

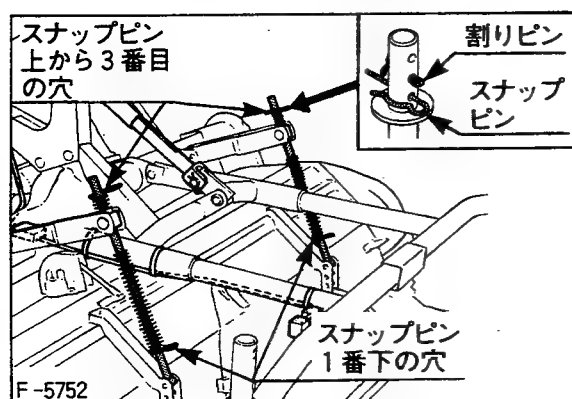
オート手動スイッチの誤操作によりロータリが落下し，傷害事故を引起すことがあります。

■ローリングセンサの取扱い注意

ローリングセンサは，車体の傾きを感知する電子部品です。

注意

● たたいたりして衝撃を与えると機能が低下しますので，取扱いには注意してください。

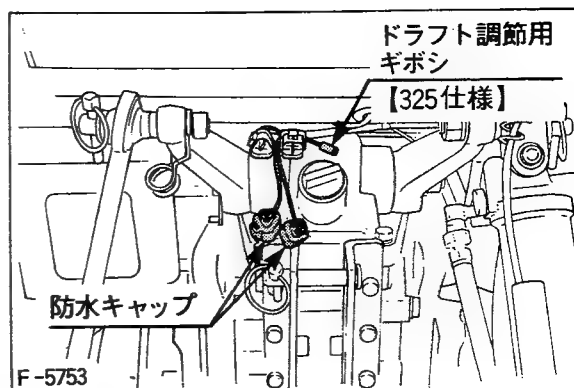
■ロータリカバーの調整【MA仕様】

◆標準的なスナップピン位置

安全ポイント

● 爪交換などでカバーをはね上げてスナップピンで固定した場合，エンジンを始動してコントロールレバーを「下げ」にしても下がらない場合があります。
このとき，スナップピンを抜くと急激にロータリが落下することがありますので，スナップピンを抜く場合は，エンジンを必ず停止し，メインスイッチを「OFF」にしてから行なってください。

■作業機の取扱い

◆ロータリを外す場合【MA・MAE仕様】

(1)カバーセンサ用の3P防水カプラを外した後，ロータリを取外してください。
MAE仕様の場合は，超音波センサ用の4P防水カプラも外してください。

(2)防水カプラはそれぞれ防水キャップをつけ，泥水やほこりから保護してください。

注意

● ロータリを外すときは，防水キャップをし，内部に水・泥が入らないようにしてください。
誤操作の原因となります。

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

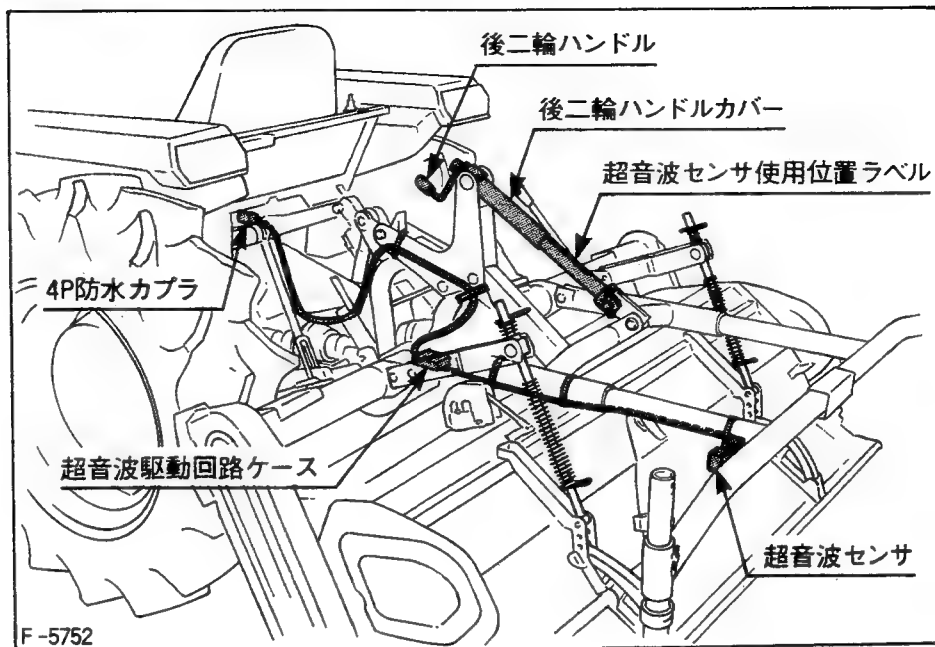
お買いあげいただいた販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

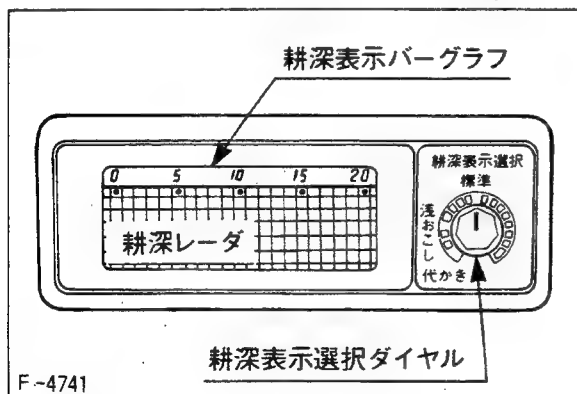
● 取外す場合は，下記部品が必要となります。

（別途購入品）

品　番	品　名	備　考
99093−9800−1	キャップアッシ	キャップ及びプラグを含む

耕深レーダ【MAE仕様】の取扱い

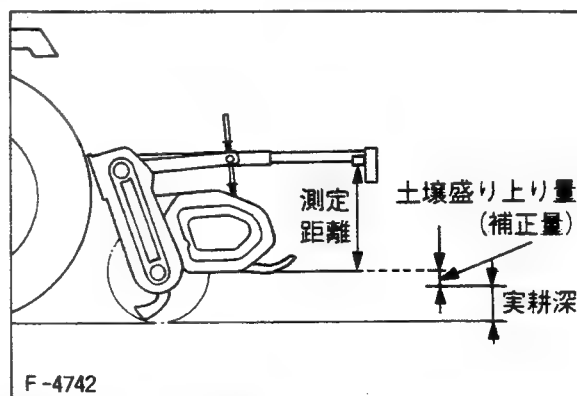
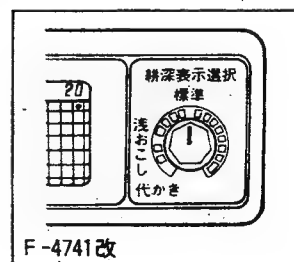
■耕深レーダ（超音波センサ）

26 耕深レーダ（モニタ）

耕深レーダは，耕うん中の耕深を表示する装置です。

注意

●透明板は，石やたわしなどかたいものでこすらないでください。傷がつき，見にくくなる原因となります。

汚れた場合は，やわらかい布でふいてください。

■耕深表示選択ダイヤルの使い方

耕深表示選択ダイヤルは実耕深を表示するために，耕うん後の土壌の盛り上りを補正するものです。

通常の使用では，次頁の表の位置にダイヤルをセットしてください。

標　　準	一般標準ほ場で実耕深８～12cmの荒おこし，細土耕うん作業時
浅おこし	５～７cmの浅おこし作業時
代 か き	湿田での耕うん，代かき作業時

【参考】

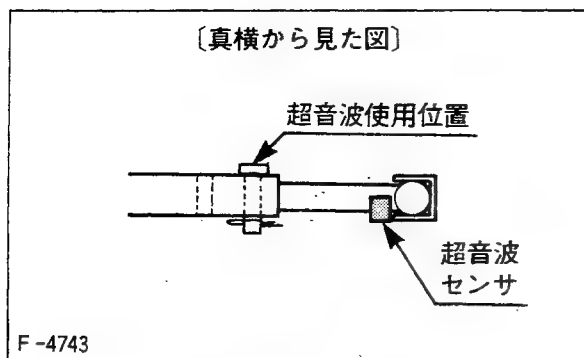
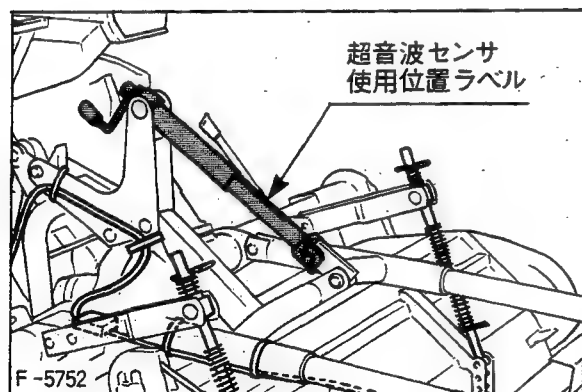
(1)ダイヤルを右方向に回すと表示が浅い側に補正されます。

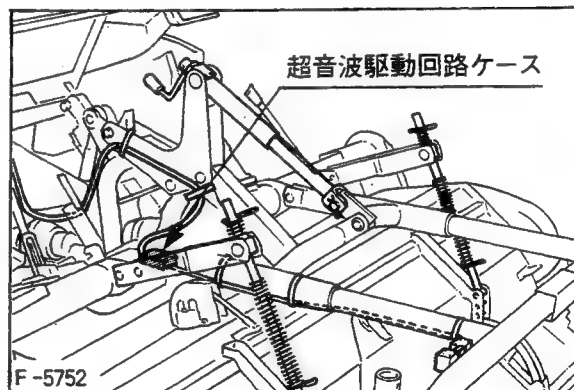
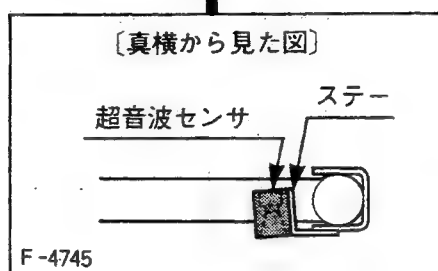
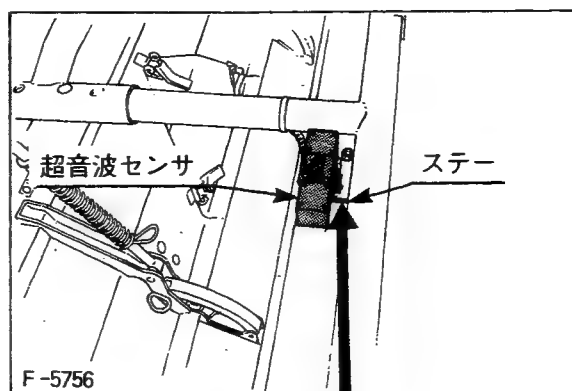
(2)ダイヤルを左方向に回すと表示が深い側に補正されます。

注意

● **耕深レーダは地表との距離を感知して表示していますので，施肥播種機・畝立機など，後二輪ホルダを前に移動したり，後二輪ホルダで深さを調節する必要のある作業では，使用できません。**

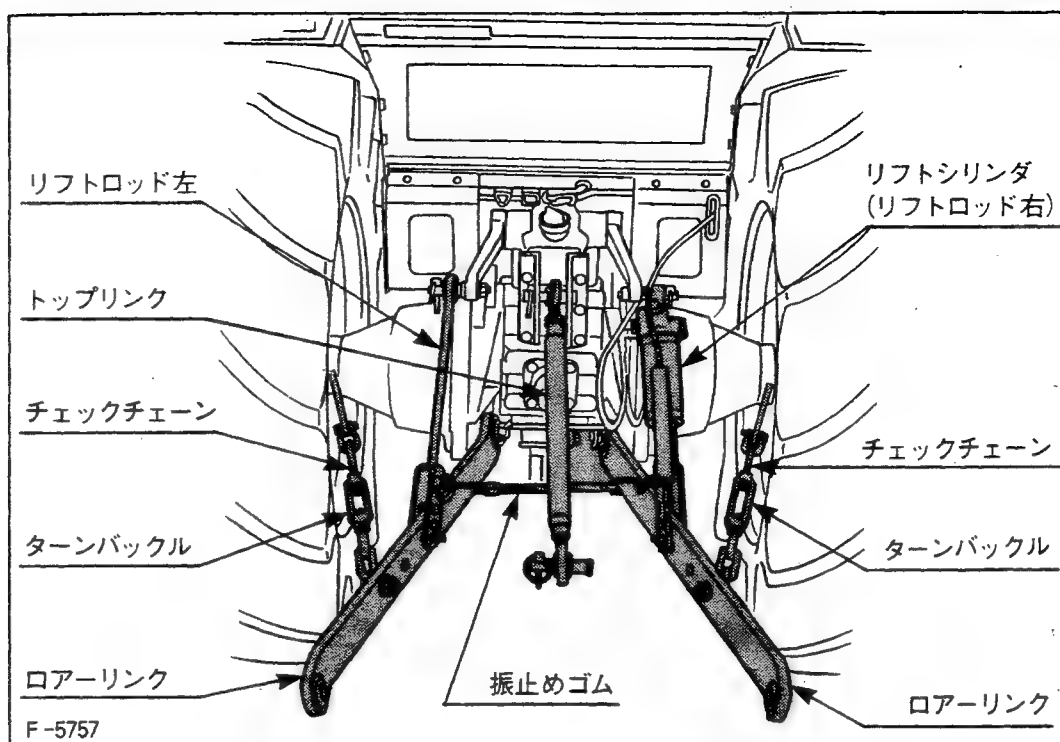
■超音波センサの取付け調整

(1)後二輪ホルダの取付け穴位置は最後部位置で使用してください。

(2)後二輪ハンドルを調整して，後二輪ハンドルカバー下端が超音波センサ使用位置ラベルに合うようにして使用してください。

注意

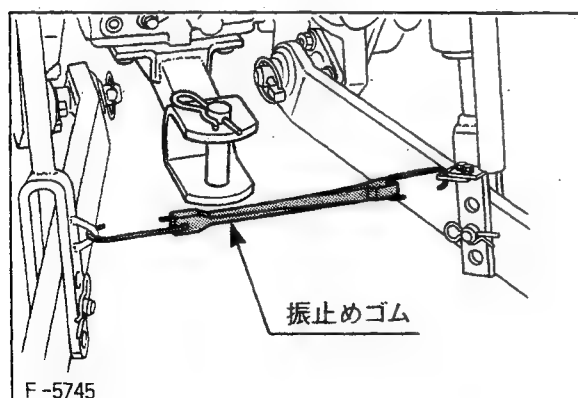
(1)超音波駆動回路ケースの上に重い物を載せたり，強い衝撃を加えないでください。（回路がこわれてしまうことがあります）

(2)超音波センサステーを曲げ照射角を変えないでください。（耕深表示が正しく出ないことがあります。）

(3)超音波センサに泥や草が詰まったときは，速やかに水洗などで取除いてください。
高圧での洗浄は避けてください。

(4)耕深レーダは，オートで使用してください。ポジションで使用すると表示が消えることがあります。

(5)後二輪ホルダの取付け穴位置を変えるときは，超音波センサのハーネスを引きちぎらないように注意してください。

三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)

(1)3点リンクは，JIS 1形です。
(2)195・215・235仕様を御購入の方は，トップリンクアッシを別途購入してください。(60ページ参照)
(3)後輪輪距を広げてください。(24ページ「輪距の調整」参照)

■作業機を取付けないときの注意

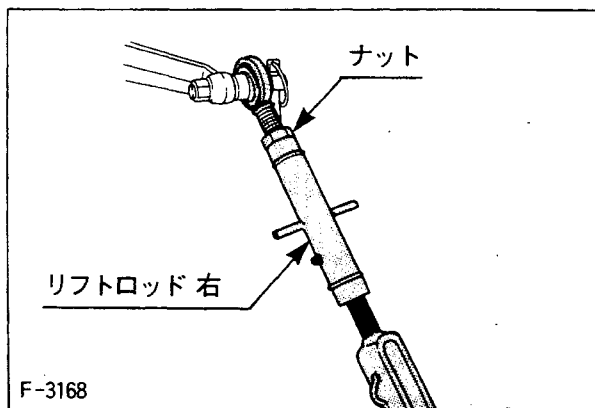
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。

■トップリンクの調整

(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

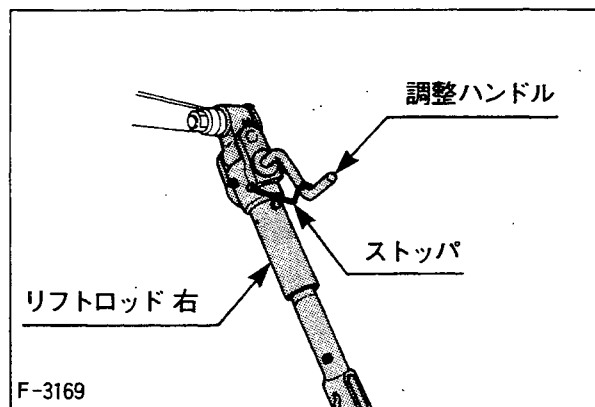
■リフトロッドの調整

◆195・215・235仕様

(1)リフトロッド右を操作して，作業機の水平を合せてください。

(2)調整後は，リフトロッド右をナットで固定してください。

◆255・275・295・315・325仕様

(1)右側の調整ハンドルで，作業機の水平を合せてください。

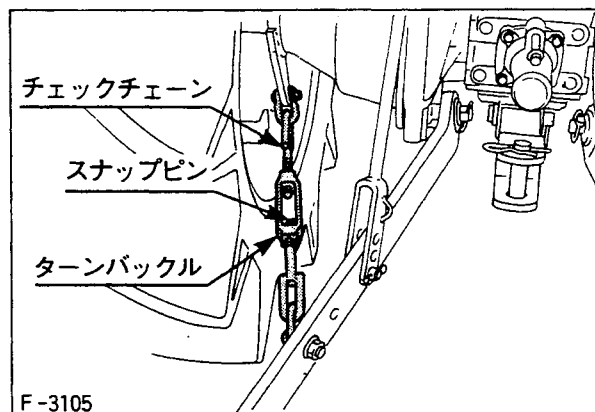
(2)調整後は，ハンドルをストッパで固定してください。

■ロアーリンク取付け穴の選択

一般作業機を使うときは，ロアーリンクの前穴を使ってください。

なお，後穴は特殊3点リンクロータリ用です。

■チェックチェーンの調整

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー，サブソイラ，ディガー，	ゆるめる（作業機が横方向に5～6cm動く程度）
ロータリ，モアー，ヘイレーキ，テッダ，リッジャ，カルチベータ，	軽く締める

■輪距の調整

一般作業機用の三点リンク装置を利用する場合は，下記の輪距に変更して，作業してください。

（33・34ページ参照）

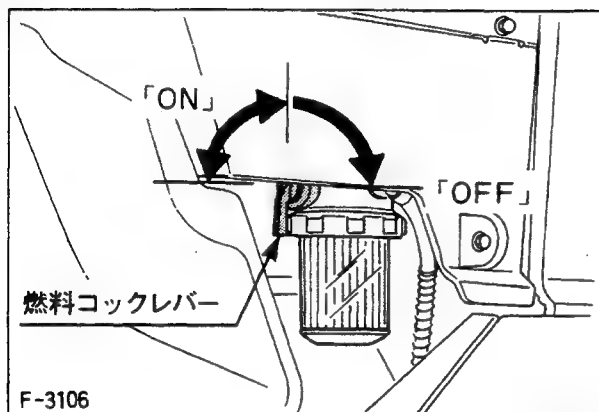
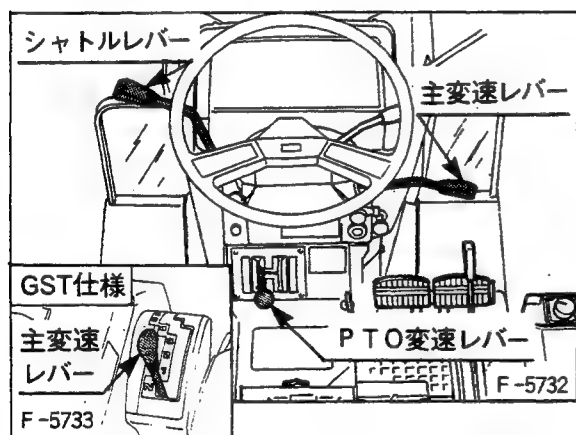
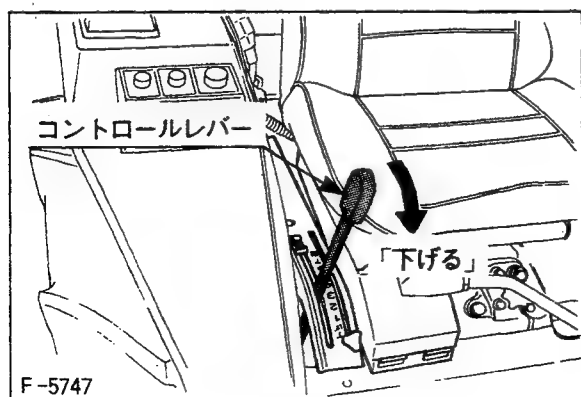
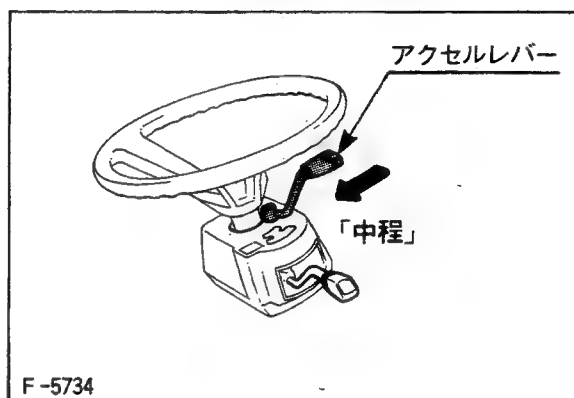
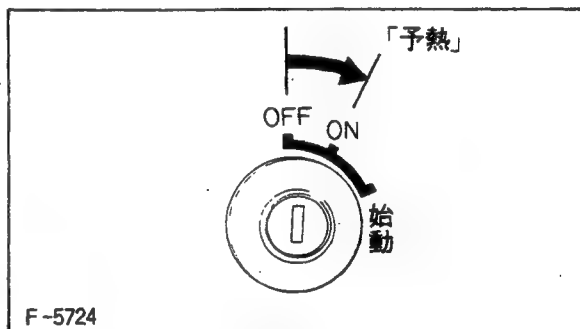
	後輪輪距
195・215・235仕様	広い方の輪距
255 仕様	112cm以上
275 仕様	115cm以上
295・315・325仕様	120cm以上

なお，255・275・295・315の2WD仕様は，前輪の輪距も後輪輪距に合せてください。

上手な運転のしかた

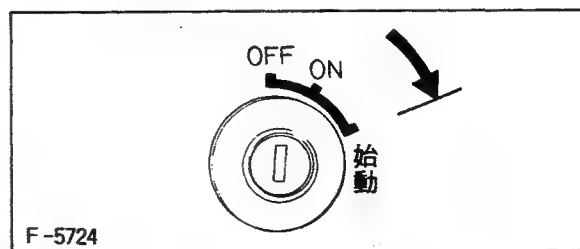
エンジンの始動

■始動のしかた

❶燃料コックを「ON」にします。

❷主変速レバー，シャトルレバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。

❸コントロールレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。

❹アクセルレバーを「中程」まで引きます。

❺メインスイッチにキーを差込み「ON」位置にし，予熱します。グローランプが消灯すれば予熱完了です。

❻クラッチペダルを「踏込み」ます。

注意

- **クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。**

❼キーを「始動」位置に回します。

注意

- **セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。**
  10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

❽エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に「ON」にもどります。

注意

● エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。

❾クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

安全ポイント

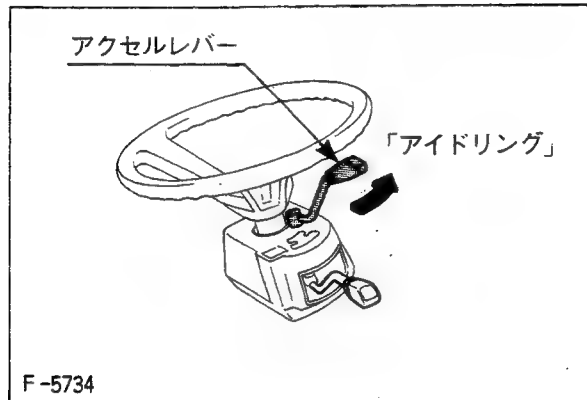
(1)必ず座席に座って始動してください。
エンジンの始動と同時にトラクタが動きだし，また，正常な運転ができなくて危険です。

(2)閉めきった室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
排気ガスは，人体に有害です。
▶換気が不十分であると……
排気ガス臭のため，気分が悪くなったり，目が痛くなったりすることがあります。

エンジンの停止

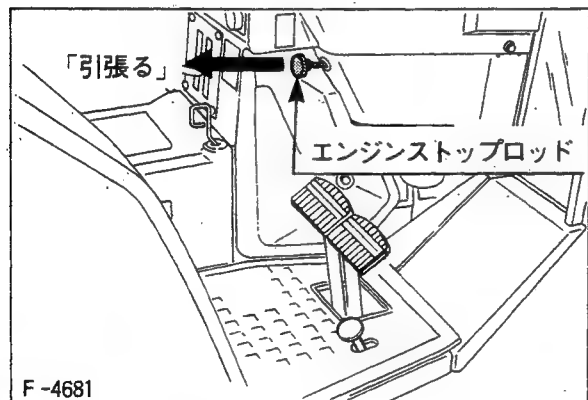
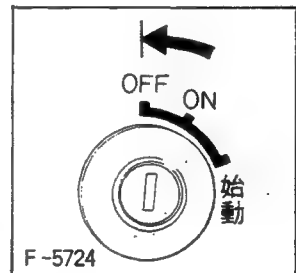
■停止のしかた

❶アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドリング状態にします。

F-5734

❷メインスイッチのキーを「OFF」の位置にすると，エンジンは止まります。

（万一停止しないときは，エンジンストップロッドをいっぱい引張ると止まります。）

F-5724

F-4681

注意

(1)エンジンストップロッドは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。
エンジンストップロッドを引いた状態では，エンジンは始動しません。

(2)エンジンが停止して4～8秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が作動する音です。

❸キーは必ず「抜き」ましょう。

ならし運転(最初の約60時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

(1)急なスタート，急ブレーキは慎んでください。

(2)必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。

(3)運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。

(4)悪路や傾斜地では，速度を落としゆっくりと走行しましょう。

暖機運転

始動後，約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますので御注意ください。

注意

● **暖機運転中は駐車ブレーキを必ず使用しましょう。**

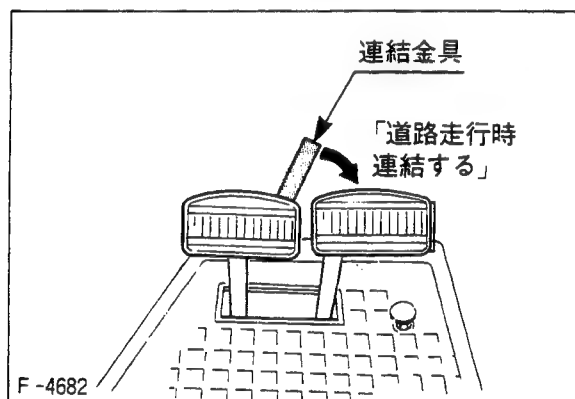
発進・走行

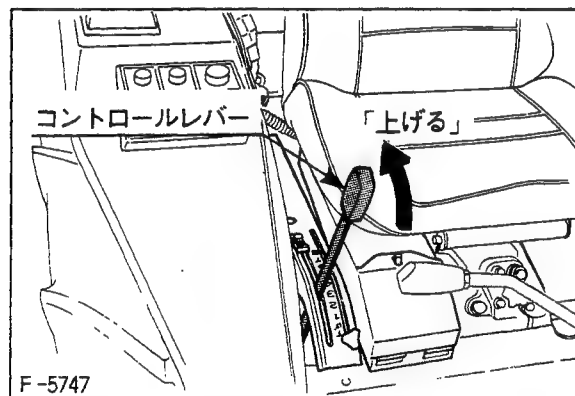
安全ポイント

● **トラクタを動かす前には，前後左右に注意してください。**

▶**もし怠ると……**

傷害事故を引起すことがあります。

❶ブレーキペダルが左右**「連結」**されていることを確認してください。

❷エンジン回転をアイドリングから**「中速」**回転にします。

❸コントロールレバーを**「後方に引き」**作業機を上げます。

以下，仕様により操作が異なります。

【GST仕様以外】

❹クラッチペダルをいっぱいまで「**踏込み**」ます。

❺主変速レバー・マルチレバーを希望する位置に「**入れ**」ます。

❻シャトルレバーを前進又は後進に「**入れ**」ます。

❼クラッチペダルをゆっくり離せば，トラクタが動き始めます。

注意

(1)走行中に変速することはできません。クラッチペダルを必ず踏込んでトラクタを停止させてから，変速を行なってください。
325仕様の主変速3↔4速は，高速シンクロメッシュ付ですから，走行中でも変速できます。

(2)走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態で摩耗が早くなります。

(3)クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。

【GST仕様】

❹主変速レバーを「**1速**」に入れます。

❺シャトルレバーの中立ロックを「**解除**」し，前進又は後進に「**入れ**」ると，トラクタが動き始めます。

❻主変速レバーを1段ずつ変速して，希望する位置まで変速してください。

注意

(1)主変速レバー・シャトルレバーは，走行中にノンクラッチで変速及び前後進することができます。

(2)油圧クラッチの寿命を保つため，次の点に注意してください。

- 作業に合った変速とエンジン回転を選んでください。
- 急激なシフトダウンは避けてください。

安全ポイント

(1)安全のため，急激な変速は避けてください。
変速は1段ずつ行なってください。

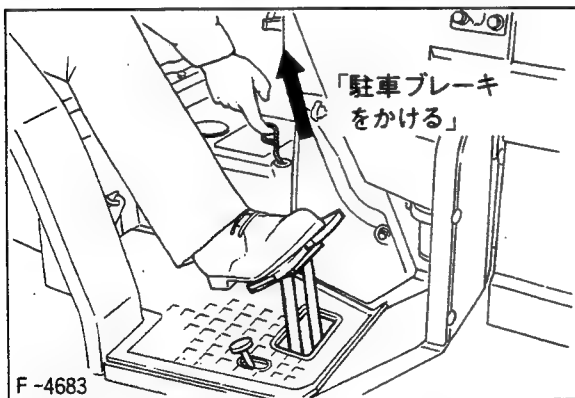
(2)緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。

(3)走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

停車

安全ホイント

(1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は，タイヤに必ず車止めをしておきましょう。
(2)トラクタを停止するときは，草やワラの上に止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると,火災の恐れがあります。
(3)作業を終えてシートをトラクタにかけるときには，マフラ，エンジンが冷えてからにしてください。
(4)停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火する恐れがあります。

❶アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
❸完全に停止してから，シャトルレバー及び主変速レバーを「**中立**」にします。
❹作業機を取付けている場合は，コントロールレバーをゆっくり「**前方に倒し**」作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実に「**ロック**」してください。

❻メインスイッチキーを「**OFF**」にして，エンジンを停止します。

安全ポイント

●GST仕様は坂道で駐車する場合，必ず駐車ブレーキをかけてください。
▶もし変速を入れて駐車ブレーキをかけないと，トラクタが動きだし傷害事故を引起すことがあります。

旋回

旋回するときは，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

安全ホイント

●高速で回ると，横転する危険があります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

坂道での運転

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
(3)下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

安全ホイント

→ 納入品安全説明書8及び14ページ参照

(1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
(2)坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりしないようにしましょう。
(3)下り坂では，エンジンブレーキを活用し，クラッチペダルは踏込まないようにしましょう。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

ほ場への出入り時の注意

(1)ブレーキペダルの左右の連結を確認してください。

(2)耕作地への出入りは,高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。

(3)耕作地への出入りは，斜めに登り降りせず，直角に行なってください。

(4)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作するようにしてください。

(5)4WDは，あぜを上がるとき，4輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

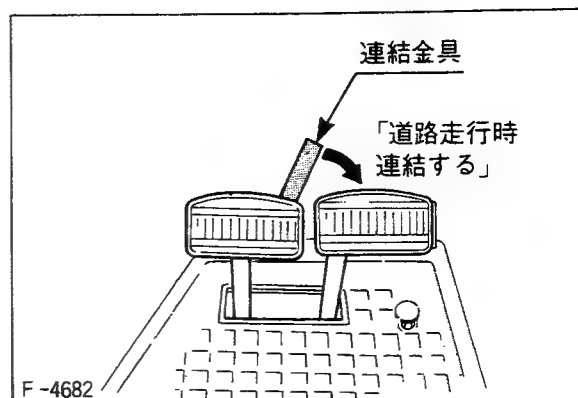
トラックへの積込み積降ろし

トラックへの積込みは，バックで(マルチレバーは1・2速)行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

公道走行中の注意

(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせます。

(2)夜間走行中,対向車とすれちがうときは,ライティングスイッチを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。

(3)左右のブレーキペダルは，必ず「連結」しておいてください。

(4)ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると，「道路運送車両法」に違反することもあるので注意しましょう。

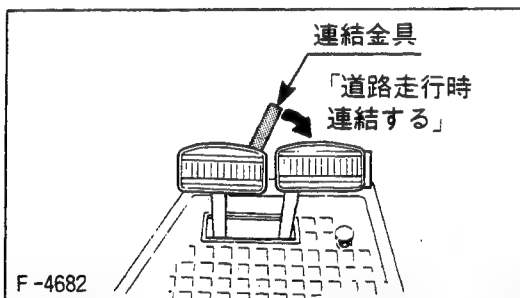
(5)踏切を渡る場合は，必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

注意

(1)作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯光の色などの制限)において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

(2)W仕様は，レインガードキャビン付きでないと公道走行はできません。必ずレインガードキャビンを取付けて走行してください。

安全ポイント

(1)道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
▶もし怠ると……
ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。

(2)道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転を心がけましょう。
▶もし怠ると……
交通事故を引起すことがあります。

(3)運転者のほかは乗せないようにしましょう。
→ 納入品安全説明書4ページ参照
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

(4)溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意しましょう。
→ 納入品安全説明書6ページ参照
▶もし怠ると……
転落による傷害事故を引起すことがあります。

(5)ロータリなど作業機を装着して道路を走行すると，トラクタの前部が軽くなって，ハンドルの切れが悪くなり危険です。
→ 納入品安全説明書6ページ参照

パワーステアリングの取扱い上の注意【パワーステアリング仕様】

(1)パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
また，エンジン停止時は普通の標準ステアリングと同様に作動します。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

(2)ドッキングローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
（ドッキングローダ使用時は，前輪タイヤ空気圧の調圧(35ページ参照)，トラクタ後部にウエイト又はロータリの取付け，前部ウエイト・前輪ウエイトの取外しを行なって，前後バランスを良くして安全に作業をしてください。）

(3)ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

(4)不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

(5)冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

(6)配管などの修理は，ゴミの進入防止のためしないでください。

(7)ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

輪距の調整

■前輪

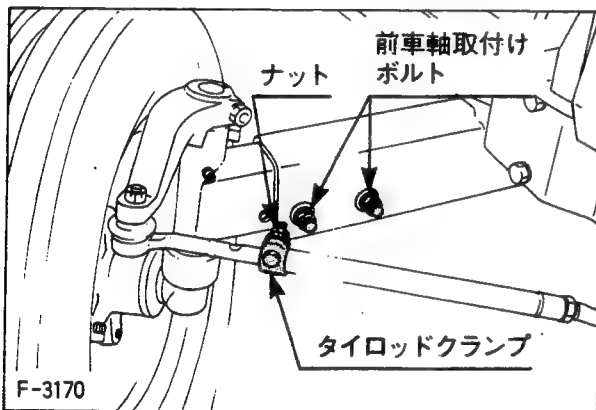
◆195・215・235仕様及び 255・275・295・315・325の4WD仕様

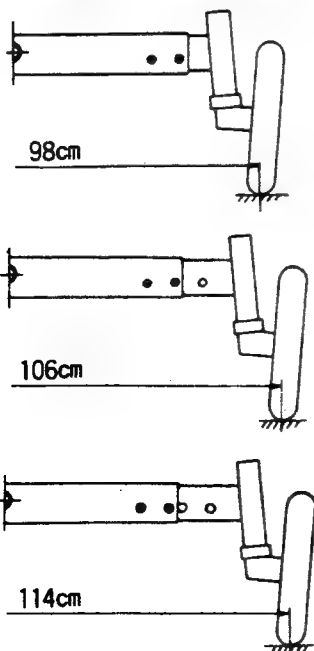
前輪の輪距は変更できません。

◆255・275・295・315の2WD仕様

❶ボルトをゆるめる。

❷ジャッキで前部を持上げ，前輪を浮かす。

❸前車軸取付けボルト及びタイロッドクランプボルトを外す。

❹前車軸左・右を移動させて，希望する位置にし，ボルトを締付ける。（ナットを前車軸側にする）

❺変更した後は，必ずトーインの調整を行なってください。（50ページ「トーインの調整」参照）

●275･295･315仕様

（前輪の輪距は５段階に調節できます。）

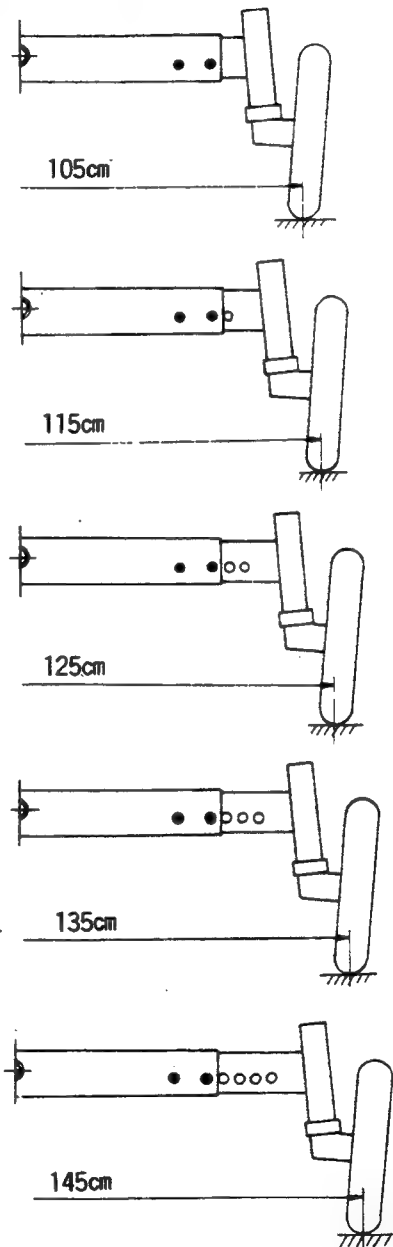
105cm

115cm

125cm

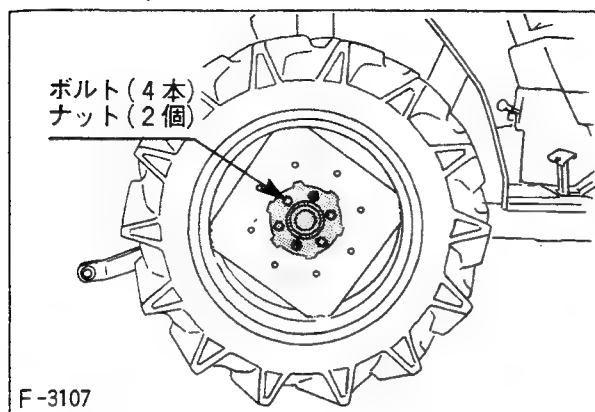
135cm

145cm

■後輪

❶ボルトをゆるめる。

❷ジャッキで左右の後輪を浮かす。

❸ボルト・ナットをゆるめてタイヤをはずし，左右入換える。

F-3107

注意

(1)タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

(2)ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

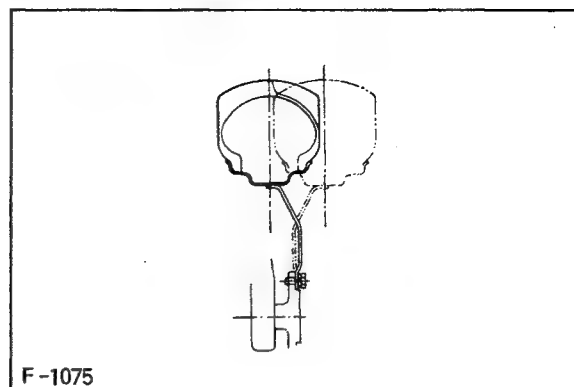
(3)後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

安全ポイント

● けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
最小輪距では，左右のバランスが不安定になります。
▶もし怠ると……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

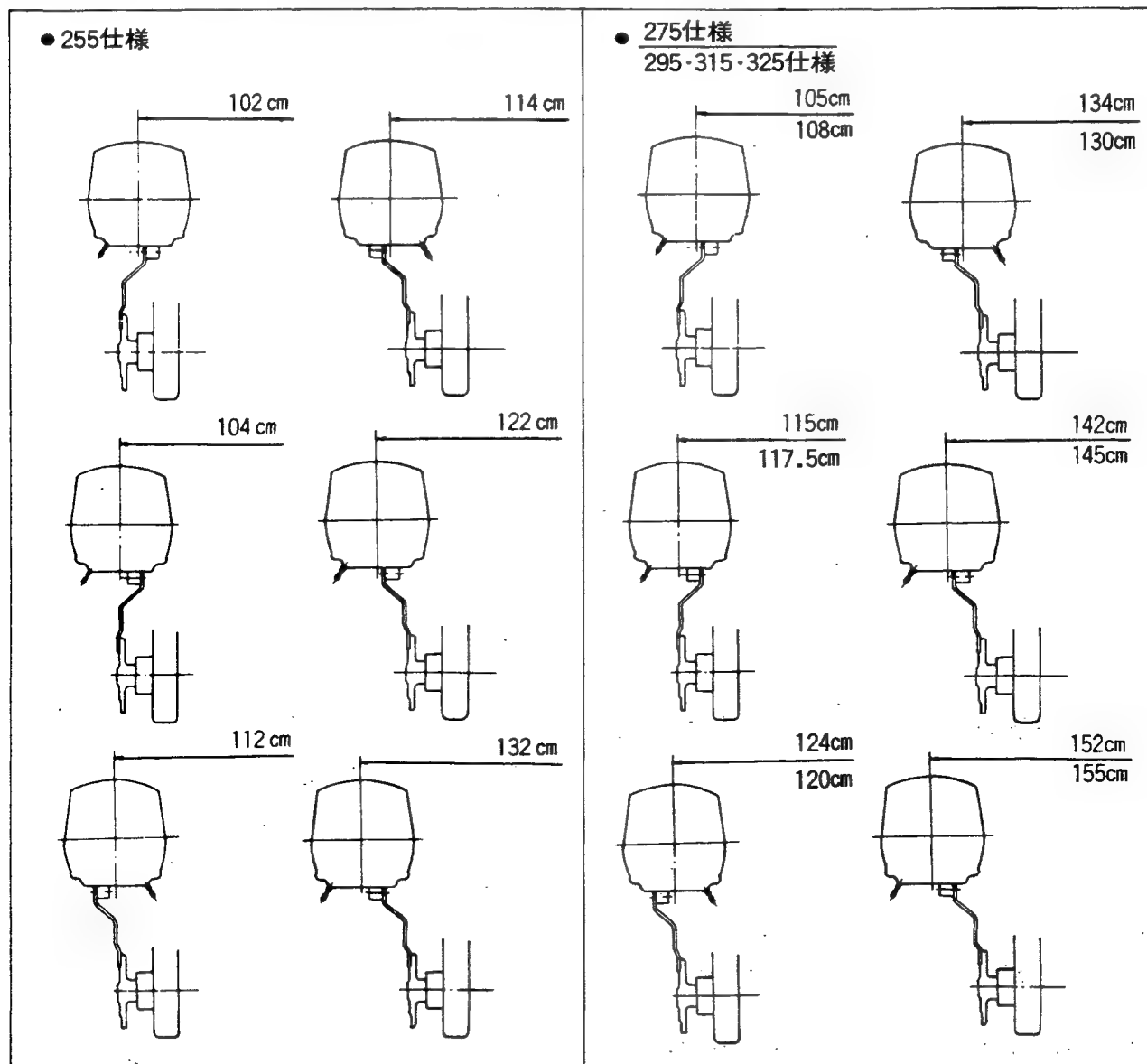
◆195・215・235仕様

後輪の輪距は2段階に調節できます。

F-1075

◆255・275・295・315・325仕様

後輪の輪距は６段階に調節できます。

注意

●255・275・295・315・325仕様はディスクの組替えも合せて行なってください。

作業前の点検について(仕業点検)

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

※印は，次に作業要領が説明してあります。

安全ホイント

●点検をするときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所

(2)トラクタの回りを歩いて

- ●ランプ類の点灯及び汚れ，損傷
- ●ナンバプレートの汚れ，損傷
- ●タイヤの空気圧，き裂，損傷，摩耗……※1
- ●タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- ●倍速ゴムブーツのき裂・損傷【B仕様】……※12
- ●反射器の汚れ，損傷
- ●ミッションオイルの量及び汚れ…………※2
- ●燃料フィルタの水抜き
- ●PTO軸カバーの取付け

(3)ボンネットを開けて

- ●エンジンオイルの量及び汚れ……………※3
- ●冷却水の量，ラジエータキャップのしまり……………………※4
- ●エアークリーナのバキュエータバルブの清掃……………………※5
- ●ファンベルトの張り具合，損傷…………※6
- ●バッテリ，配線，マフラ部の清掃………※11

(4)運転席に座ってエンジンを始動して

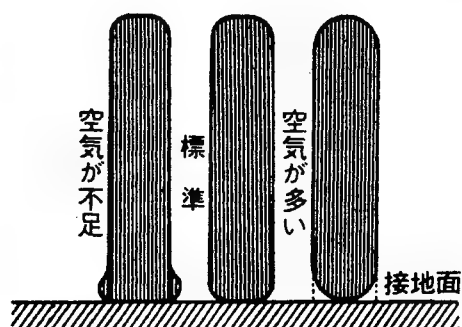
- ●燃料計の作動
- ●燃料は十分か，燃料キャップの締付
- ●イージーチェッカの点滅具合
- ●ヘッドランプの作動
- ●トラクタメータの作動
- ●ウインカランプの点滅
- ●ホーンの作動
- ●バックミラーの写影
- ●ブレーキペダルの遊び……………………※7
- ●ハンドルの遊び・ガタ……………………※8
- ●燃料フィルタの水，沈澱物
- ●コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落
- ●冷却水，オイル漏れ点検
- ●排気ガスの色，異常音……………………※9

(5)エンジンを始動して，徐行しながら

- ●水温計の作動
- ●クラッチペダルの遊び……………………※10
- ●ブレーキの効き，片効き
- ●ハンドルの重さ，振れ，取られ
- ●駐車ブレーキの作動

点検のしかた

1 タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。

◆標準空気圧

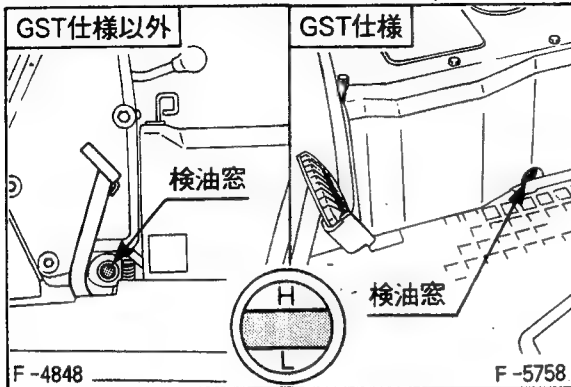
	空気圧(kgf/cm²) 2WD	4WD
前輪	2.4	1.6
後輪	1.0	

●フロントローダなど前輪に荷重がかかる場合，前輪空気圧は次のように調圧してください。

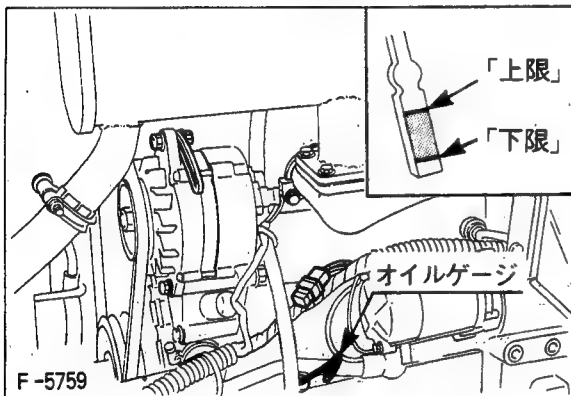
		空気圧(kgf/cm²) 2WD	4WD
前輪	195・215・235仕様	3.2	2.0
	255・275・295・315仕様	2.6	
	325仕様	—	

2 ミッションオイルの量

❶検油窓の「**HとLの間**」にオイルがあるかを調べます。

❷L以下の場合は補給が必要ですが，H以上には入れないでください。（給油は41ページ）

3 エンジンオイルの量

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き「**下限と上限の間**」にオイルがあるかを調べます。

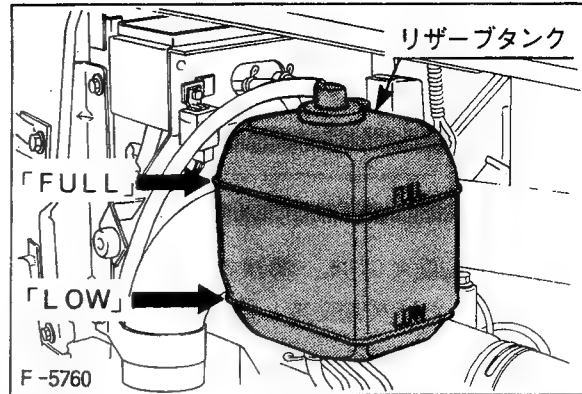
❷下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。（給油は41ページ）

注意

(1)点検するときは，本機を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

(2)オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

4 冷却水の量

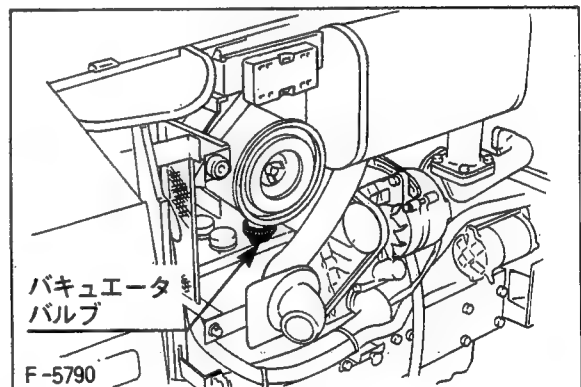
ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「**FULLからLOWの範囲**」であれば正常です。（給水は45ページ）

注意

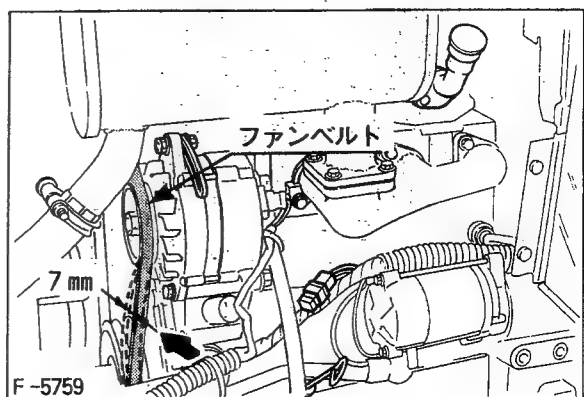
●**ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。**

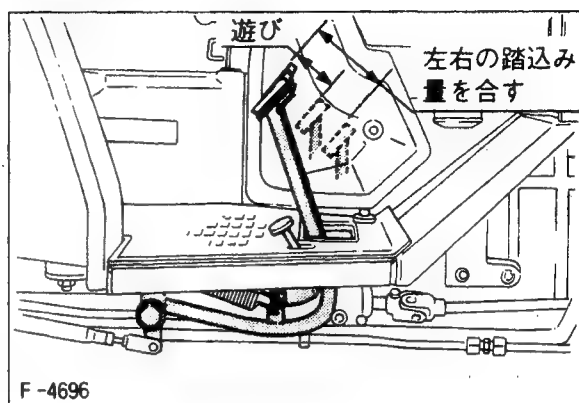
5 エアークリーナのバキュエータバルブの清掃

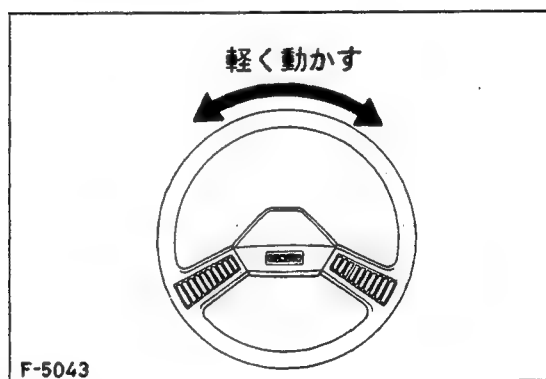
バキュエータバルブを取外して，大きなゴミを取除いてください。

汚れや水分があるときは，布などできれいにふき取ってください。

6 ファンベルトの張り具合

ベルトの調整が悪いと，オーバヒートや充電不足の原因になります。

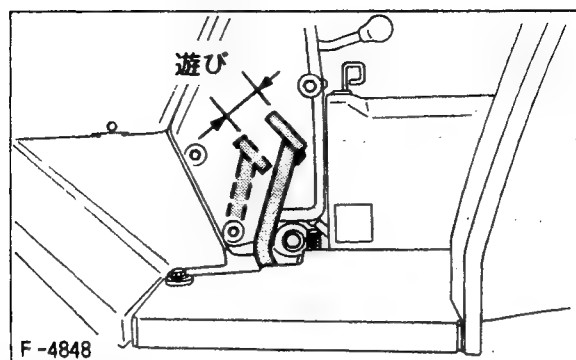
ベルトの中央部を指先で押えて，たわみ量が「約7㎜」程度あるか確認してください。また，き裂やはがれがないかを調べます。（調整は49ページ）

7 ブレーキペダルの遊び

ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
ペダルを踏んで遊び量を「20～30mm」及び左右ブレーキの踏込み量が「不均一」になっていないかを調べます。（調整は48ページ）

8 ハンドルの遊び

ハンドルの調整が悪いと，ハンドルが重くなったり，直進性が悪くなったりします。
ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が「20～50mm」あるか調べます。（調整は49ページ）

9 排気ガスの色

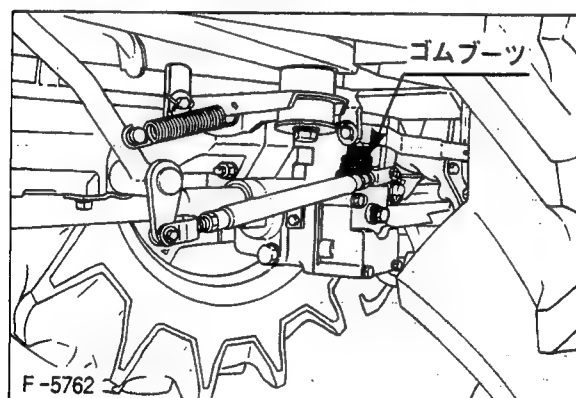
無　色……正常
黒　色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。
青白色……冷機時アイドリング運転では，青白く見えることがあります。

10 クラッチペダルの遊び

遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良，伝動不良を起し，損傷につながります。
クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」あるかを確認してください。（調整は49ページ）

11 配線及びエンジン回りの清掃

バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。毎日作業前に点検しきれいに取除いてください。

12 倍速ゴムブーツの点検【B仕様】

倍速機構にはゴムブーツを使用しています。
き裂・損傷がないか確認してください。

トラクタの簡単な手入れと処置

安全ホイント

●給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷エンジンを止め，❸駐車ブレーキをかけ，❹安全を確認してから行なってください。

▶もし怠ると……傷害事故を引起すことがあります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目		アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参照ページ
			35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
1	倍速ゴムブーツの点検【B仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			37
2	ミッションオイルの交換			◎					○							41
3	エンジンオイルの交換	年間使用時間が100時間以上の場合	◎		○		○		○		○		○			41
		年間使用時間が100時間以内の場合	◎	1　年　ご　と										○		
4	マグネットプラグの清掃【GST仕様】			○					○							41
5	パワーステアリングオイル【325仕様】								○							42
6	ステアリングギヤーボックスオイルの油量【標準ステアリング仕様】			○					○							42
7	ステアリングギヤーケースオイルの油量								○							42
8	前車軸ケースのオイル交換【4WD】			◎					○							43
9	倍速ケースオイルの油量【B仕様】								○							43
10	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換		◎				○				○					44
11	油圧オイルフィルタカートリッジの交換			◎				○				○				44
12	燃料フィルタエレメントの交換										○					44
13	冷却水の交換														○	44
14	ラジエータ内部の洗浄												○			45
15	エアークリーナエレメントの清掃				○		○		○		○		○			46
16	エアークリーナエレメントの交換													○ 6回清掃毎		46
17	油圧・燃料パイプ取付けねじのゆるみ点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			47
18	ラジエータホース締付バンドのゆるみ点検					○			○			○				47
19	燃料パイプの交換														○	47
20	ラジエータホースの交換														○	47
21	油圧パイプ接手の交換														○	47
22	バッテリ液点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
23	車体各部のボルト，ナットのゆるみ，ピン等の脱落			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
24	燃料タンクの清掃												○			—

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参照ページ
		35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
25	グリースの注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			47
26	前輪ハブのグリース注入 【2WD】							○							48
27	ファンベルトの調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
28	クラッチハウジングの水抜き		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50
29	ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			51

◎印はならし運転時の35時間,50時間使用後に必ず行なってください。

給油(水)一覧表

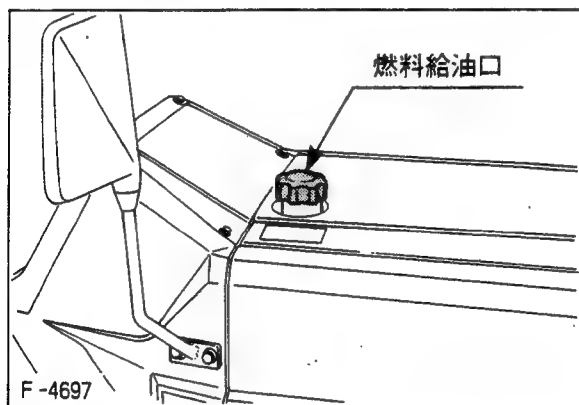
No.	給油(水)項目	容量(ℓ)									使用オイル
		195仕様	215仕様	235仕様	255仕様	255GST仕様	275仕様	295仕様	315仕様	325仕様	
1	燃料	29							36	29	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油(40ページ参照)
2	冷却水	5						7			清水又はクボタ不凍液
3	ウインドウォッシャ【W仕様】	1.0									ウォッシャ液
4	エンジンオイル	5.7 (オイルゲージ上限全量で)						8.5			クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30(58ページ参照)
5	ミッションオイル	26		27			28	29			クボタ純オイルM80B(58ページ参照) 又はクボタ純オイルUDT(油圧駆動用)
6	パワーステアリングオイル 【325仕様】	—								2	クボタ純オイルUDT(58ページ参照)
7	ステアリングギヤーボックスオイル【標準ステアリング仕様】	0.2				—	0.2			—	クボタ純オイルM90(58ページ参照) 又はクボタ純オイルM80B 又はクボタ純オイルUDT
8	ステアリングギヤーケースオイル	0.1									
9	前車軸ケース【4WD】	5.0								6.5	
10	倍速ケース【B仕様】	0.15									クボタ純オイルM80B 又はクボタ純オイルUDT(油圧駆動用) (58ページ参照)
11	油圧コントロールレバー軸	注油									
12	停止ソレノイド部	注油									
13	グリースの注入 •前車軸右・左【2WD】	少量				—	少量			—	シャーシグリース (58ページ参照)
	•クラッチペダル	少量									
	•ブレーキペダル										
	•ペダル軸受										
	•リフトロッド右										
	•クラッチレリーズハブ	分解時に少量補給									
	•シフトガイド【GST仕様】	—				少量	—				
14	前輪ハブ 【2WD】	少量				—	少量			—	ベアリンググリース (58ページ参照)

燃料

燃料には，**「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	＋5以下
1 号	－5以下
2 号	－10以下
3 号	－20以下
特 3 号	－30以下

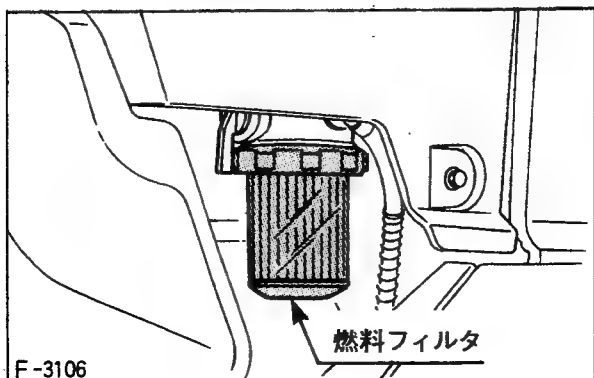
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動性が困難になります。

F-4697

注意

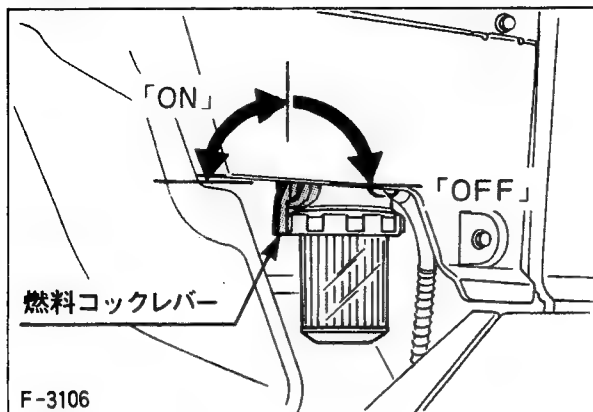
(1)燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
(2)燃料キャップが締まっているか確認してください。

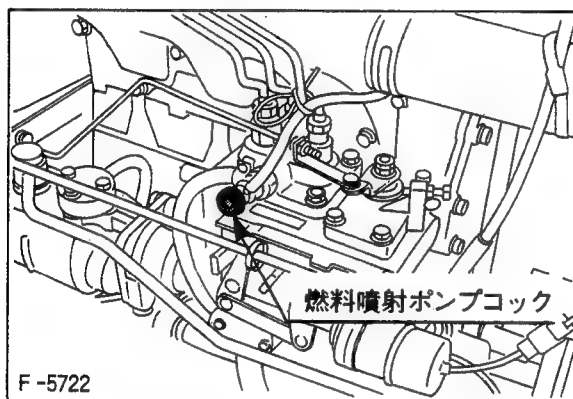
■燃料フィルタ

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈澱します。水・ゴミがたまったらコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

F-3106

空気抜き

❶燃料フィルタのコックを「ON」にする。

F-3106

❷燃料噴射ポンプの上のコックを開く。

F-5722

❸タンクに燃料を満たす。
❹エンジンを始動し，約1分間運転後停止する。
❺燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

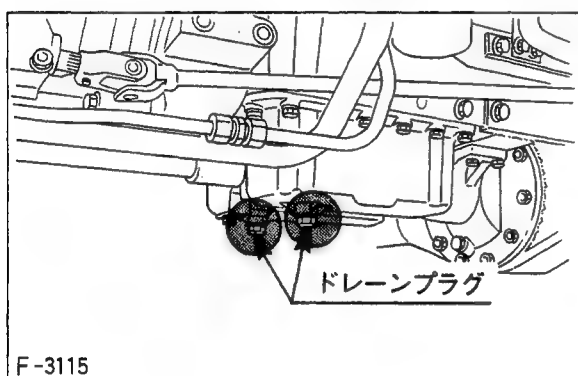
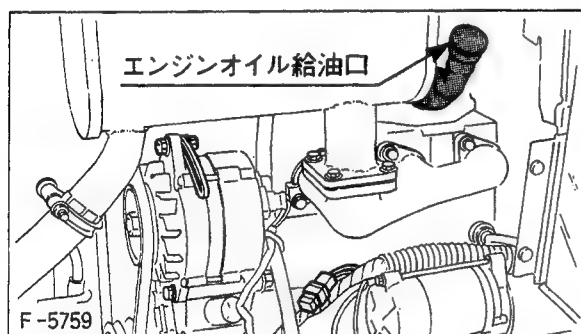
注意

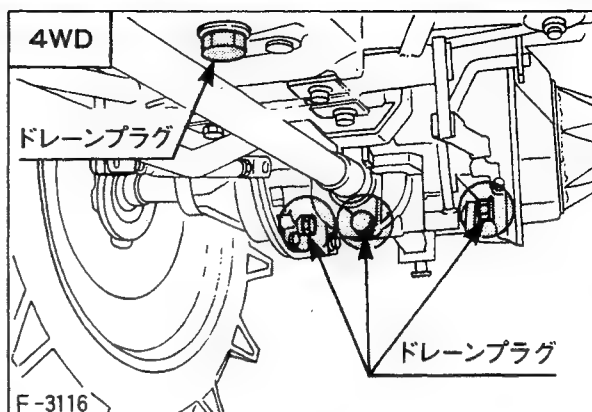
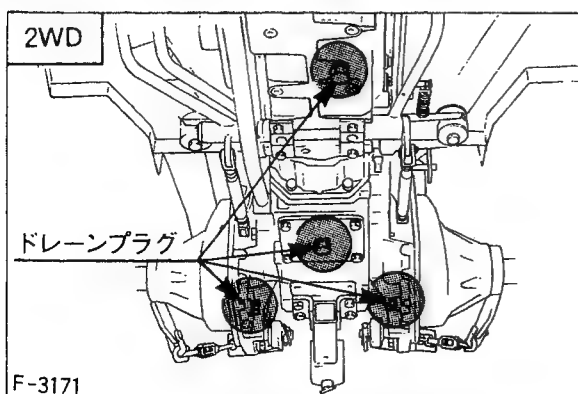
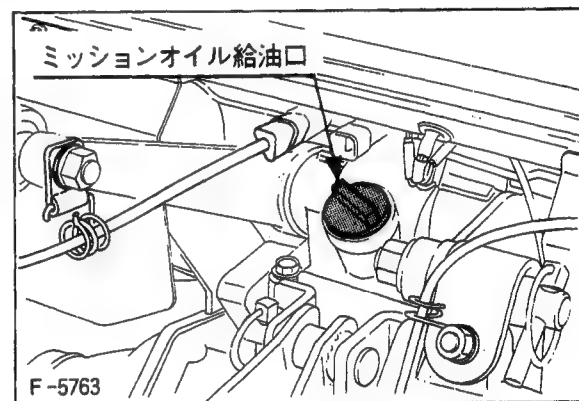
●空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

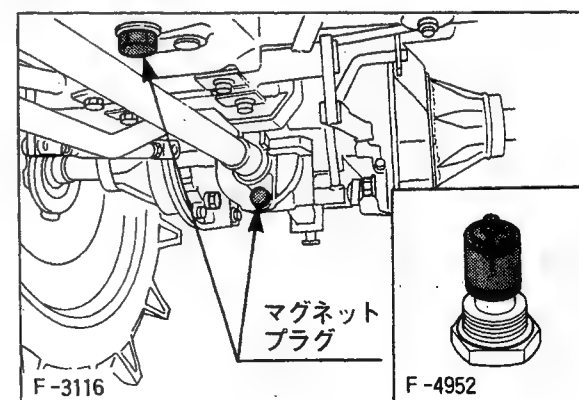
各部への給油と交換

使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず**「クボタ純オイル」**を使用してください。（58ページ参照）

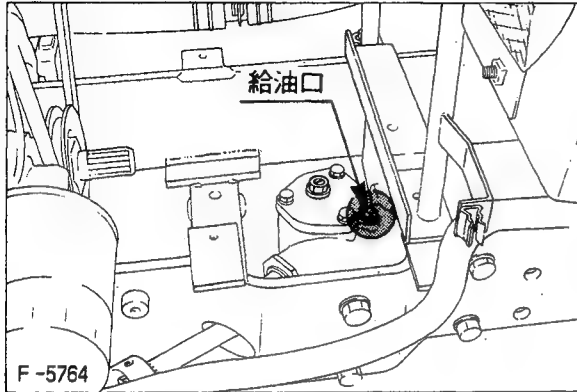
■エンジンオイルの交換

❶ 2つのドレーンプラグを外してオイルを出します。このときオイルが暖まっている方が出やすくなります。ただしヤケドに注意してください。

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと入れやすくなります。

■ミッションオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

❷ミッションオイルを給油口から，規定量まで入れてください。

■マグネットプラグの清掃【GST仕様】

ミッションオイルの交換と同時に，マグネットプラグの鉄粉を取除いてください。

■ステアリングギヤーボックスのオイル量【標準ステアリング仕様】

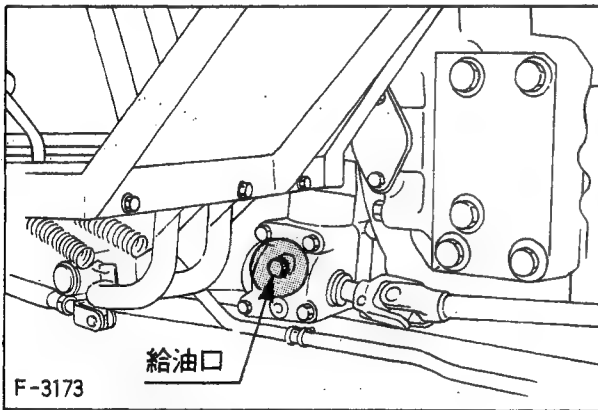
◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

◆オイルの補給

不足している場合は，給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

■ステアリングギヤーケースのオイル量

◆オイルの点検

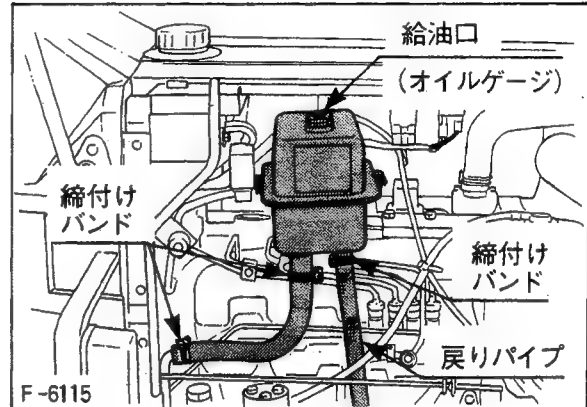
給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

◆オイルの補給

不足している場合は，給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

■パワーステアリングオイルの交換【L_1-325仕様】

❶タンク下のゴムパイプを外して，オイルを出します。

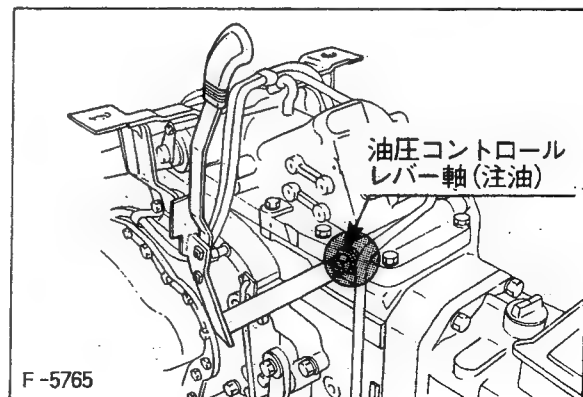
❷パワーステアリングの戻りパイプからもオイルを出します。このときハンドルを2～3回いっぱい切ってください。

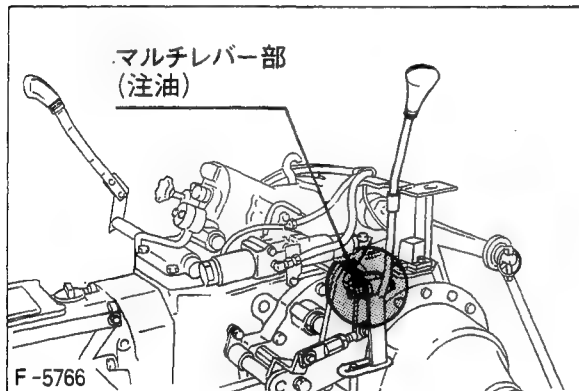
❸給油口から，新しいオイルを入れます。

❹エンジンを始動してハンドルを左右に2～3回いっぱい回した後，エンジンを止め，**オイルゲージのEとFの間までオイルがあるかを確認し**，不足していれば補給してください。
（ゲージはねじ込まない状態で調べてください。）

注意

● **必ず指定のオイル〔クボタ純オイルUDT〕を使用してください。**

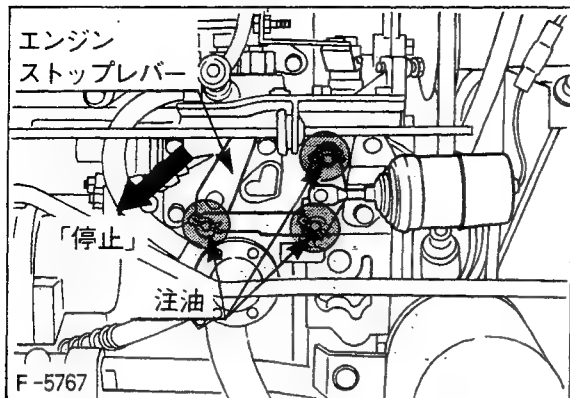
■油圧コントロールレバー軸への注油【MA・MAE仕様を除く】

ギヤーオイルを注油してください。

■マルチレバー部への注油

ギヤーオイルを注油してください。

■停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は，1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。

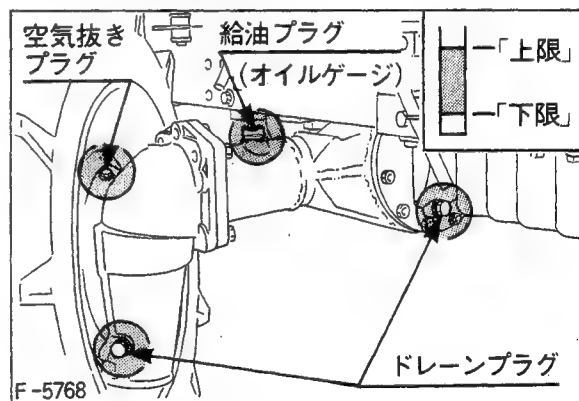
(1)注油は，安全カバー右を外して行なってください。

(2)注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してメインスイッチ「OFF」でエンジンが停止するか確認してください。

注意

- **この部分は，メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが浸入したときは，適宜清掃を行なってください。**

■前車軸ケースのオイル量【4WD】

◆オイルの点検

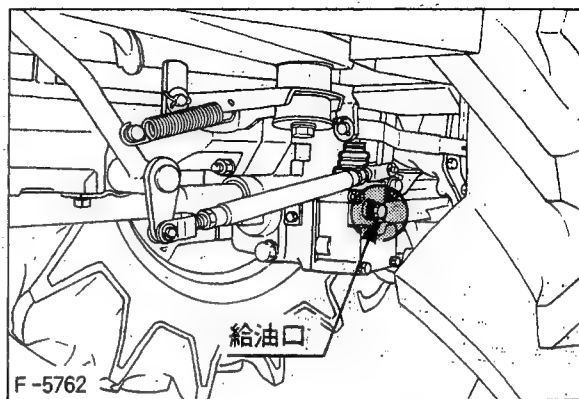
給油プラグを抜き，**オイルゲージのEとFの間まで**オイルがあるかを調べます。オイル面が下がっている場合は，補給が必要です。

◆オイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

❷ギヤーオイルM90又はM80B，UDTを給油口から，規定量入れてください。

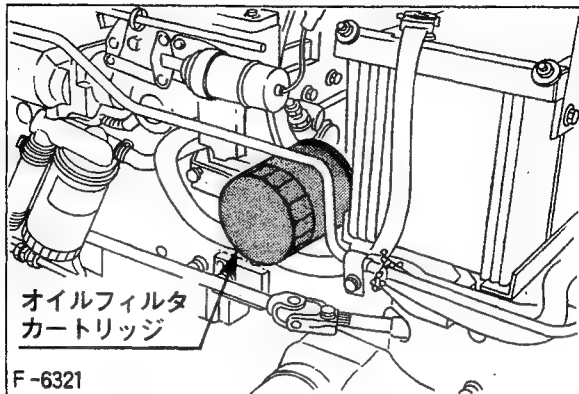
■倍速ケースのオイル量【B仕様】

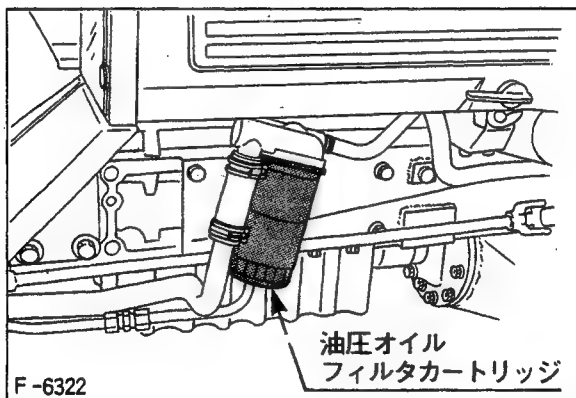
◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

◆オイルの補給

不足している場合は，給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

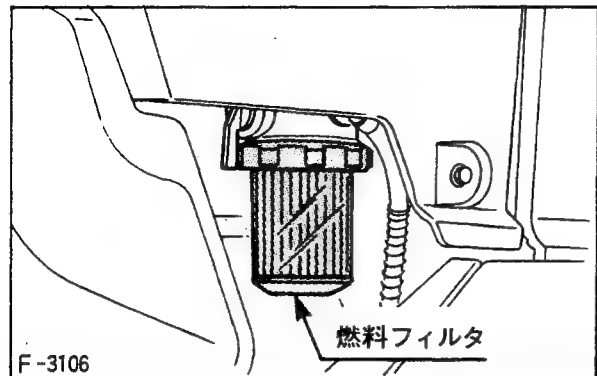
各フィルタの交換及び洗浄

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

❶新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。
❷エンジンオイルを規定量まで補給します。
❸約5分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❹再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

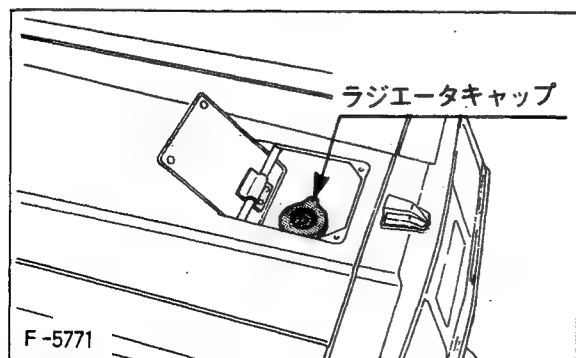
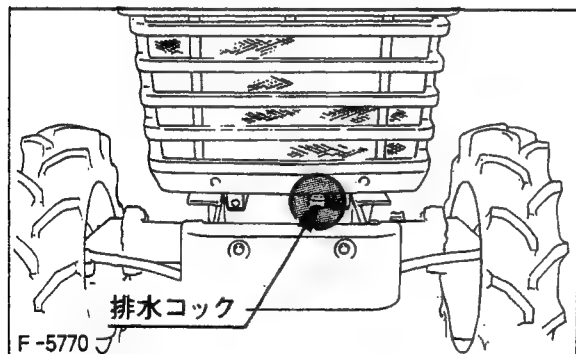
■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

❶新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。
❷約2分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

■燃料フィルタエレメントの交換

❶燃料フィルタのコックを閉じてください。
❷カップ上部のリテーナリングを戻してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

注意
(1)組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
(2)エレメントを交換したのちは，必ず空気抜きを行ないましょう。

冷却水の交換

■交換のしかた

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めてください。
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入し，キャップを確実に締めてください。

■冷却水の補給

通常は補給の必要はありませんがリザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，LOWとFULLのレベルの間まで補給が必要です。
FULL以上は入れないでください。

安全ポイント

- **ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後十分冷えてからにしてください。**
  ▶もし怠ると……
  熱湯によりヤケドすることがあります。

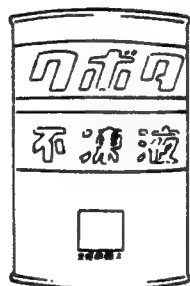
■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

注意

(1)冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
(2)不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

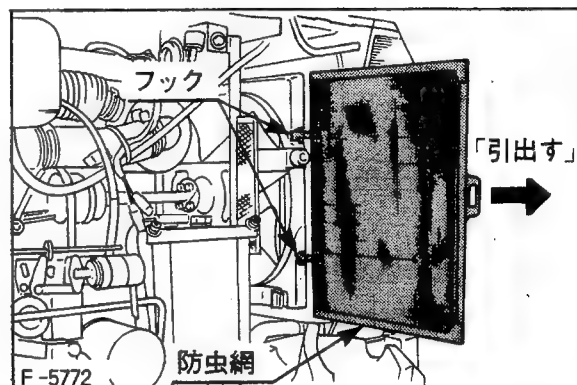
F－1012

(3)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
(4)クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

■防虫網の清掃

安全ポイント

- **エンジンは必ず停止して清掃してください。**

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
フックを外し，防虫網を引出して掃除します。

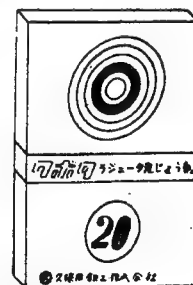
F－5772

■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

注意

- **ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。**

■ラジエータの洗浄

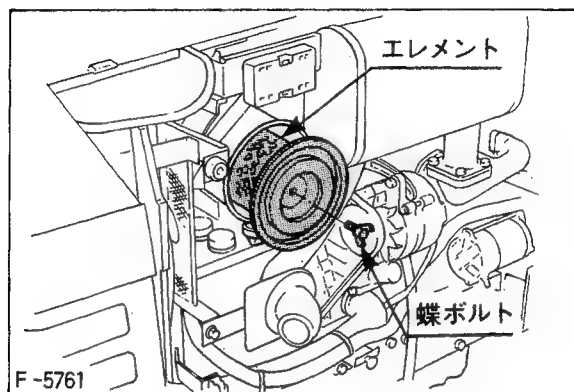
洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

Z－1009

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば，止まります。
(2)水漏れが激しい場合は，お買いあげいただいた販売店・農協に御相談ください。

エアークリーナエレメントの交換

■エレメントの外し方

蝶ボルトを外し，エレメントを取出します。

■エレメントの清掃

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹付けるか，又は軽く手で振ってゴミを取除いてください。

■エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

注意

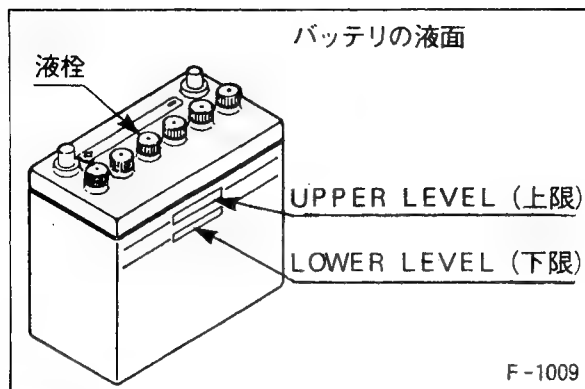
(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用してはいけません。
(2)エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

バッテリ液の点検と補給

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用しておりますので従来品に比べ，液減りの度合がきわめて少なくなっています。側面に2本の線(レベル)がありますので，その間に液面があればよく，少ないときは下記要領で上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上フタの補水キャップ(6個)を外します。2～3㎜の丸棒を補水キャップの穴に入れて上に持上げるとキャップが外れます。
(2)6個の補水穴から蒸留水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。
(3)キャップを元の穴に押込みフタをします。

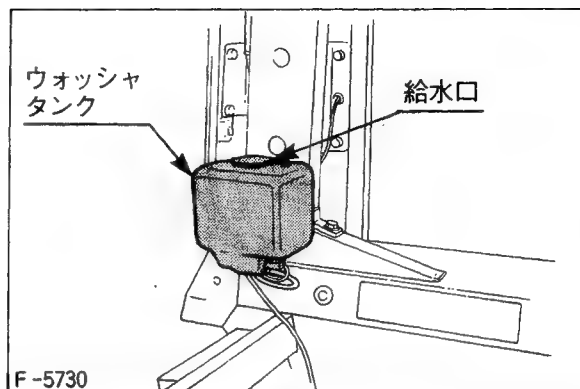
注意

(1)バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多いと液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
(2)バッテリの充電は必ず本体から取外して行なってください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
(3)バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがわないようにしてください。まちがうとバッテリと電気系統が故障します。
(4)バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。
(5)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
コードの接続をまちがわないように注意してください。
(6)バッテリの寿命がなくなり，新品のバッテリと交換する場合には必ず指定のバッテリを使用してください。(54・55ページ参照)
(7)バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

安全ポイント

(1)バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。
▶もし怠ると……
希硫酸によって，ヤケドすることがあります。
(2)バッテリの点検及び取外し時には，エンジンを停止し，メインスイッチを「OFF」にしてください。

ウィンドウォッシャ液の補給【W仕様】

ウィンドウォッシャ液の量が少ない場合，規定量まで補給してください。

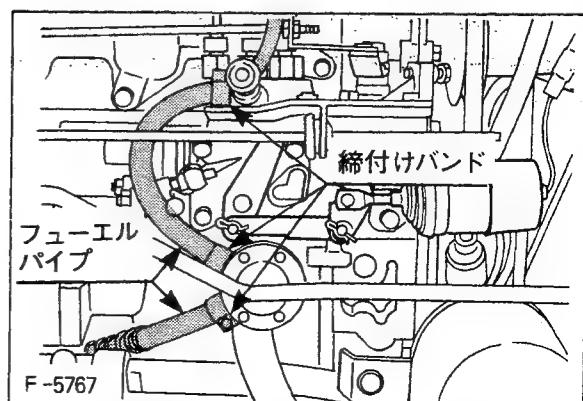
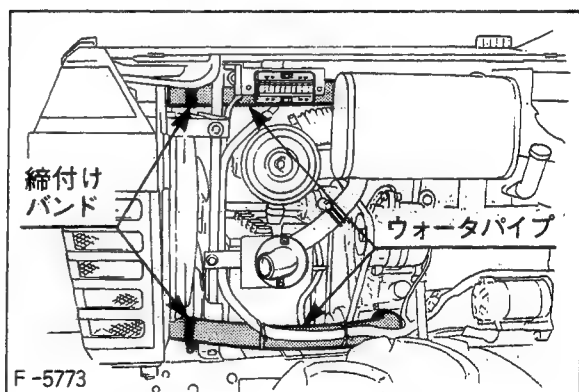
F-5730

パイプ類の点検

燃料パイプやラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプを交換する場合は，必ず空気抜きをする必要があります。

F-5773

F-5767

注意

● 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

安全ポイント

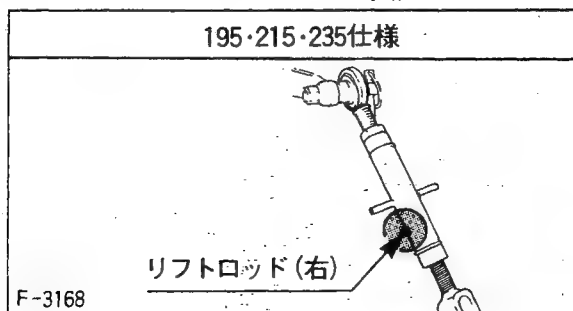
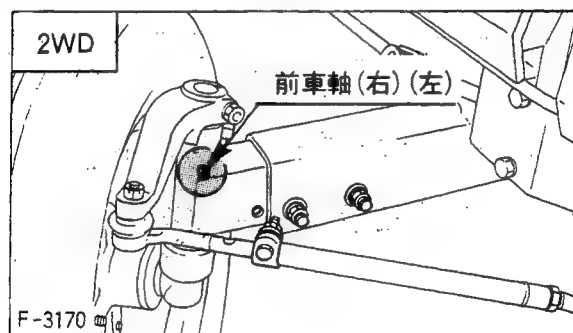
● 燃料パイプ，ウォータパイプの傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検しましょう。
▶もし怠ると……
燃料もれによる火災や傷害事故，熱湯もれによるヤケドなどの事故を引起します。

グリースの注入

通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは1日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

グリースは，**「クボタ推奨グリース」**を使用してください。(58ページ参照)

■各部へのグリース注入

シャーシグリースを少量注入します。

F-3170

F-3168

255·275·295·315·325仕様

B仕様

■前輪ハブ【2WD】

ベアリンググリースを少量注入します。

ブレーキの調整

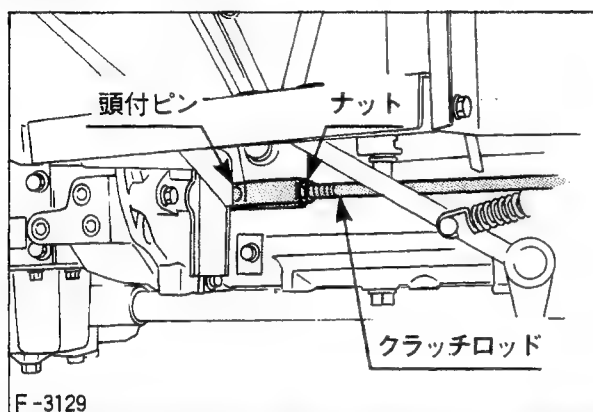
ナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はナット左右各2個を確実に締付けておいてください。

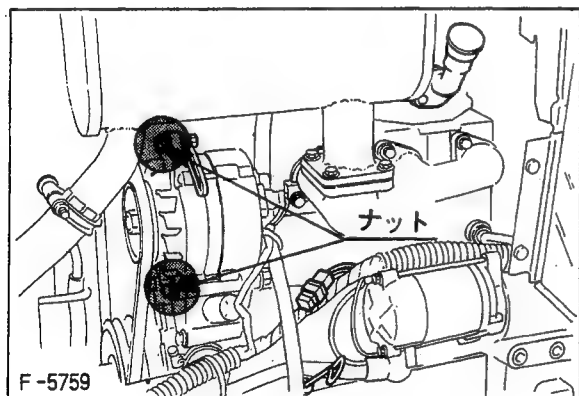
ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキロックが確実に作動するかを確認してください。

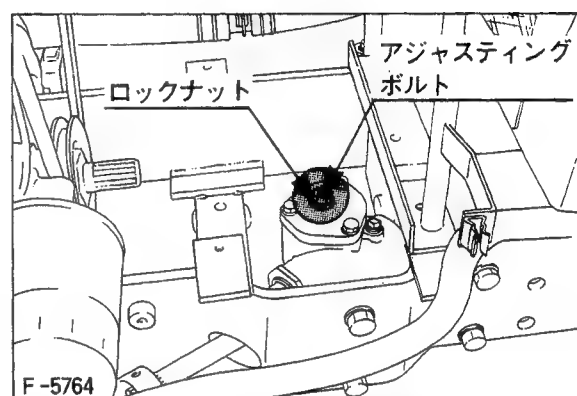
安全ポイント

- 調整時左右のペダルの踏込み量を必ず合せてください。合っていないとブレーキが片ぎきになります。
  ▶もし怠ると……
  傷害事故を引起すことがあります。

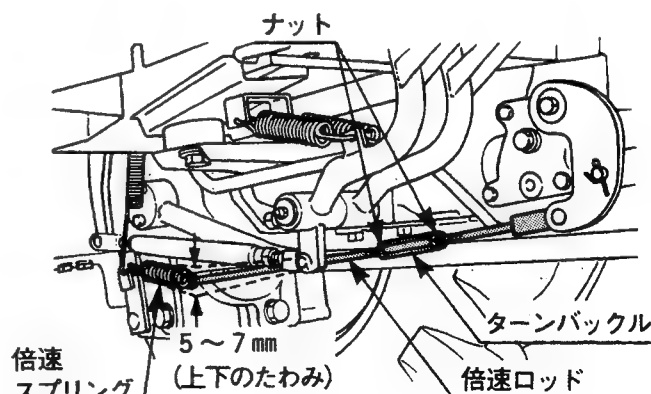
クラッチの調整

ナットをゆるめ頭付ピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
調整後はナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。

ファンベルトの調整

ダイナモを取付けているナット２個とボルト１個をゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
調整後はナット・ボルトを確実に締付けておいてください。

ステアリングハンドルの調整

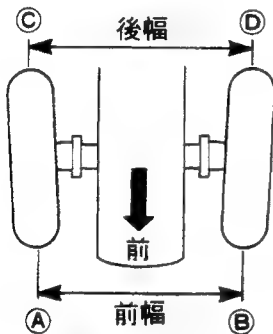
袋ナットを取外してロックナットをゆるめ，ドライバでアジャスティングボルトを回して調整します。
調整後は，ナット及び袋ナットを確実に締付けておいてください。

倍速ロッドの調整【B仕様】

❶前輪駆動レバーを「倍速」の位置にします。
（前輪は必ず直進状態にしておいてください。）
❷ナットをゆるめターンバックルを回して，倍速スプリングの上下のたわみが５～７㎜程度になるように調整します。調整後はナットを確実に締付けてください。
❸倍速ターンレバーの「倍速↔４WD」の切替えがスムーズにできることを確認してください。

F-5585

トーインの点検調整

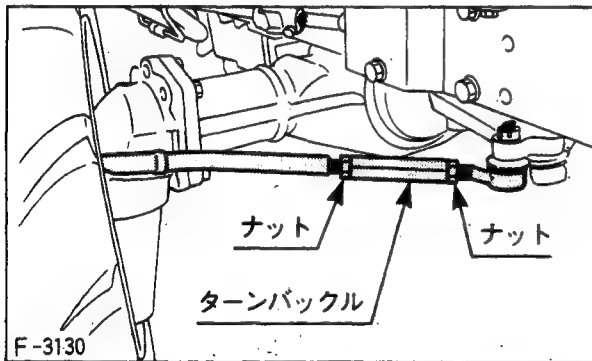
トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

■トーインの点検

前輪の前幅Ⓐ Ⓑと後幅Ⓒ Ⓓを測り，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になっているかを調べます。

F-3197

■トーインの調整

ナットをゆるめ，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になるように調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。

F-3130

注意

● トレッドを調整したときはその都度トーイン調整をしてください。【2WD】

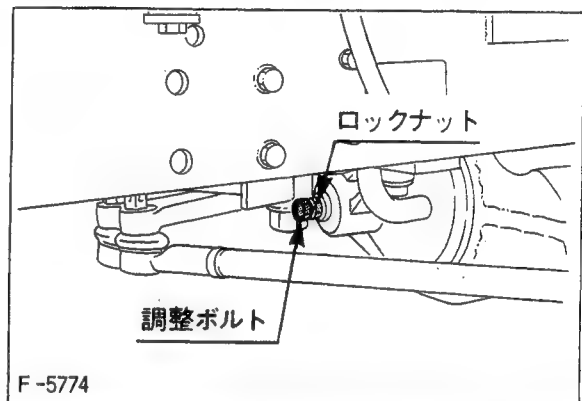
前車軸支持部ガタの点検調整

前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

■支持部ガタの点検

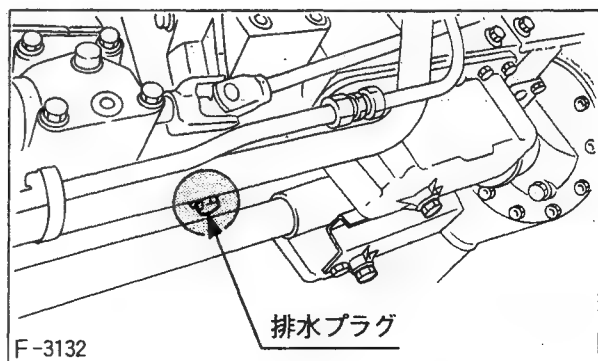
前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

■支持部ガタの調整

ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。

F-5774

クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底の排水プラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

F-3132

電気配線の点検，ヒューズの交換

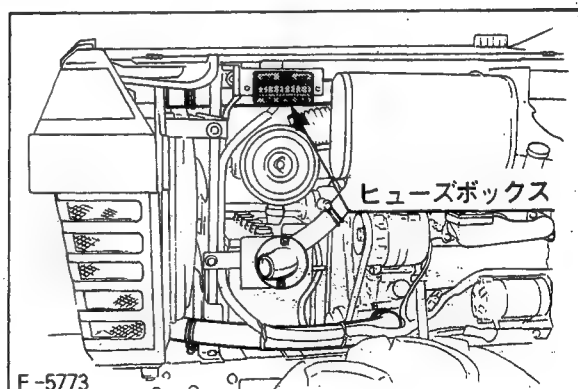
■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

安全ポイント

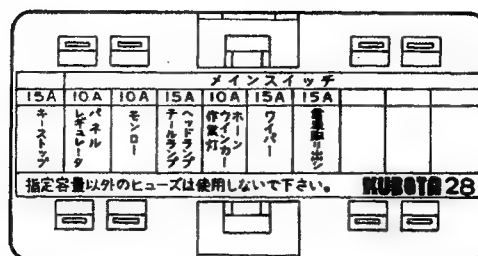
(1)ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
(2)バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

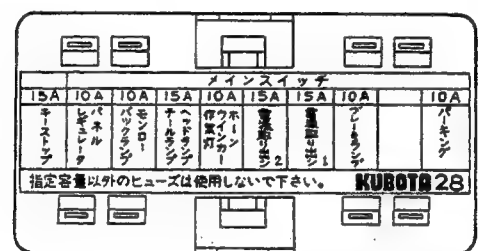
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

F-5773

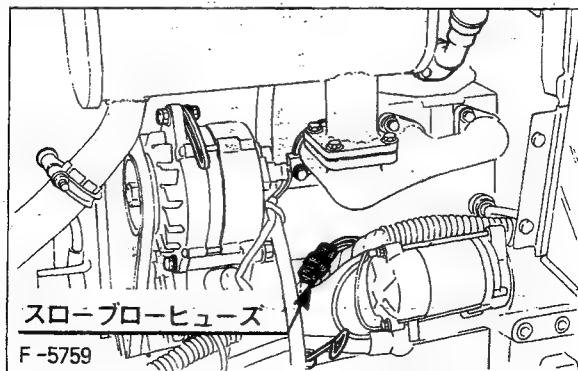
❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

325仕様以外

F-5775

325仕様

F-5900

注意

(1)ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店か農協で点検，修理してください。
(2)トラクタにラジオなどを取付けるときの電源取出しは，販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

■スローブローヒューズの交換

F-5759

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

(5)燃料コックを「OFF」にしておいてください。

(6)冷却水は抜いておいてください。

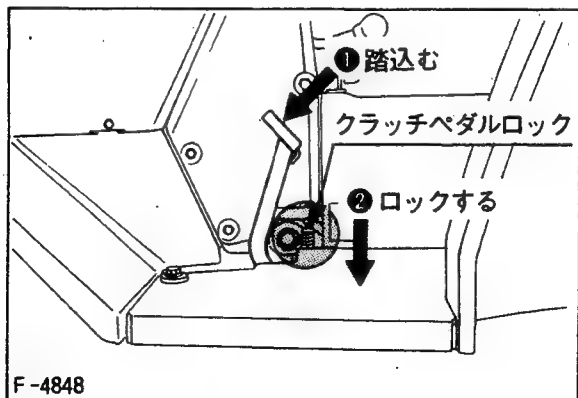
(7)クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

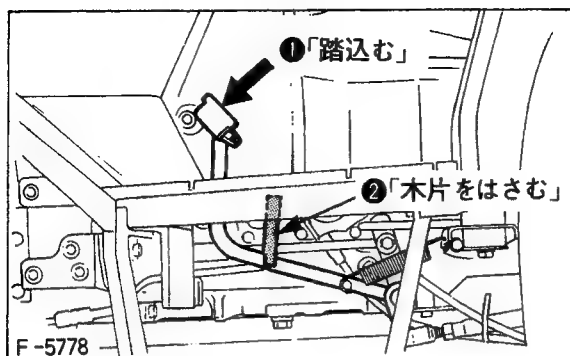
◆クラッチ「切」保持の方法

【GST仕様以外】

❶クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，ロックボタンを手で押下げます。

❷押下げたまま，クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは，「切」の状態で保持されます。

❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，ロックが外れ，「切」保持の状態が解除されます。

【GST仕様】

クラッチペダルをいっぱい踏込み，下図のように木片をかませておいてください。

(8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。

(9)タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。

(10)バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。

(12)後輪の前後に車止めをしておいてください。

(13)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

(14)格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。

(15)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

(16)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

安全ポイント

● シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。

▶もし怠ると……

火災を起す原因になります。

注意

● 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ及び締付バンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●空気抜きをする。(40ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。(冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
	(2)エアークリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終っている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた販売店・農協に御相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

（3点リンク・パワーステアリング・モンローマチック付）

型	式	L_1-195	L_1-195D	L_1-215	L_1-215D	L_1-235	L_1-235D	L_1-255	L_1-255D	L_1-255DF
駆動方式		2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
機体寸法	全長(mm)	2890				2940				2990
	全幅(mm)	1190		1255		1260		1320		
	全高(mm)	1375		1390	1375	1405	1390	1425	1415	
	軸距(mm)	1500				1550				1595
	輪距 前輪(mm)	880	940	960	940	960	940	980〜1140（3段）	1050	
	輪距 後輪(mm)	950, 1070		990, 1110				1020〜1320（6段）		
	最低地上高(mm)	320	275	340	275	345	275	370	315	
重量(kg)		890	975	930	980	955	1010	990	1070	1110
エンジン	名称	クボタ D1302-TV		クボタ D1402-TV		クボタ D1462-TVL		クボタ D1462-TV		
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル								
	総排気量(cc)	1299		1395		1462				
	出力／回転速度(PS/rpm)	19／2500		21／2500		23／2500		25／2600		
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油								
	燃料タンク容量(ℓ)	29								
	始動方式	セルモータ式（グロープラグ付）								
	バッテリ	75D31R(N70Z)12V60AH								
タイヤ	前輪	4.00-12 4PR	6-14 4PR	4.00-15 4PR	6-14 4PR	4.00-15 4PR	6-14 4PR	5.00-15 4PR	7-16 4PR	
	後輪	8.3-24 4PR ニューバランスタイヤ		9.5-22 4PR ニューバランスタイヤ		9.5-24 4PR ニューバランスタイヤ		11.2-24 4PR ニューバランスタイヤ		
車体	クラッチ方式	乾式単板（シングル）				乾式単板（シングル，ダブル）				乾式単板（シングル）
	制動装置	一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）								
	かじ取り方式	ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）								
	差動方式	2ピニオンかさ歯車式（デフロック付）						4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）		
	変速方式	コンスタントメッシュ								GST
変速段数(段)		前進16，後進16（シャトル）								前進8段 後進8段
走行速度(km/h)	前進	0.23〜14.50		0.23〜14.57		0.24〜14.26		0.23〜14.89		1.26〜14.80
	後進	0.20〜11.67		0.20〜11.76		0.23〜12.45		0.22〜13.53		1.26〜13.77
最小旋回半径（ブレーキ使用時）(m)		2.1	2.0	2.1	2.0	2.2	2.0	2.2	2.1	
PTO	回転速度／エンジン回転速度(rpm) シングル	556, 774, 938, 1250／2500						578, 805, 975, 1300／2600		578, 805, 1067, 1300／2600
	回転速度／エンジン回転速度(rpm) シングル逆転	715／2500						744／2600		—
	回転速度／エンジン回転速度(rpm) ダブル	—				588, 716, 1026, 1250／2500		611, 745, 1067, 1300／2600		—
	軸寸法(mm)	JIS 35								
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール								
	装着方式	3点リンク JIS 1形								

（3点リンク・パワーステアリング・モンローマチック付）

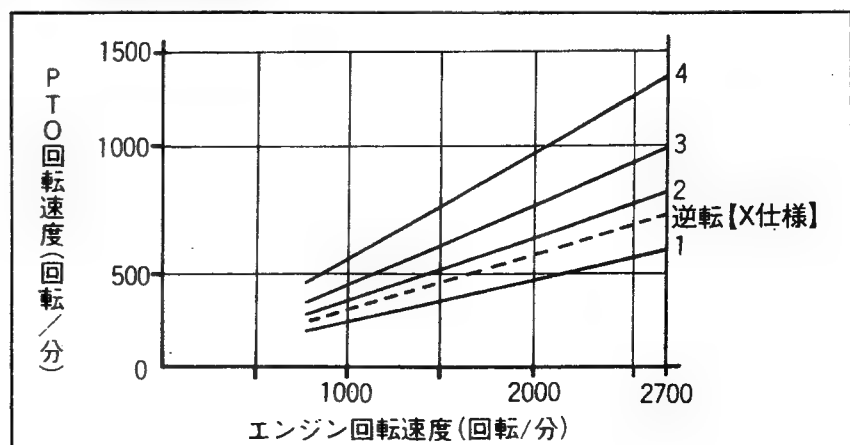
型	式	L_1-275	L_1-275D	L_1-295	L_1-295D	L_1-315	L_1-315D	L_1-325D
駆動方式		2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
機体寸法	全長(mm)	2995		3160				3180
	全幅(mm)	1380		1420				1520
	全高(mm)	1415		1430			1440	2310（安全フレーム付）
	軸距(mm)	1590		1735				
	輪距 前輪(mm)	1050～1450（5段）	1050	1050～1450（5段）	1050	1050～1450（5段）	1090	1190
	輪距 後輪(mm)	1050～1520（6段）		1080～1550（6段）				
	最低地上高(mm)	355	315	365	315	365	340	360
重量(kg)		1045	1115	1155	1190	1155	1230	1390
エンジン	名称	クボタ D1462-TVH		クボタ V1512-TVL		クボタ V1512-TV		クボタ V1702-TV
	形式	水冷4サイクル 3気筒立形ディーゼル		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル				
	総排気量(cc)	1462		1499				1732
	出力／回転速度(PS/rpm)	27／2700		28.5／2700		30.5／2800		32／2700
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油						
	燃料タンク容量(ℓ)	29				36		29
	始動方式	セルモータ式（グロープラグ付）						
	バッテリ	75D31R(N70Z)12V60AH						
タイヤ	前輪	5.00-15 4PR	7-16 4PR	5.00-15 4PR	7-16 4PR	5.00-15 4PR	8-16 4PR	
	後輪	12.4-24 4PR ニューバランスタイヤ		13.6-24 4PR ニューバランスタイヤ		13.6-24 4PR ニューバランスタイヤ		13.6-24 4PR ニューバランスタイヤ, Gタイヤ
車体	クラッチ方式	乾式単板（シングル，ダブル）						
	制動装置	一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）						
	かじ取り方式	ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）						
	差動方式	4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）						
	変速方式	コンスタントメッシュ						コンスタントメッシュ 高速シンクロメッシュ
変速段数(段)		前進16段，後進16段（シャトル）						
走行速度(km/h)	前進	0.24～14.44		0.24～14.68		0.25～14.53		0.25～24
	後進	0.23～12.63		0.22～12.32		0.22～12.21		0.23～20.5
最小旋回半径（ブレーキ使用時）(m)		2.3	2.2	2.4	2.3	2.4	2.3	
PTO 回転速度／エンジン回転速度(rpm)	シングル	600, 836, 1038, 1350／2700				622, 867, 1077, 1400／2800		634, 773, 1108, 1350／2700
	シングル逆転	772／2700				801／2800		693／2700
	ダブル	634, 774, 1107, 1350／2700				607, 740, 1149, 1400／2800		634, 773, 1108, 1350／2700
PTO	軸寸法(mm)	JIS 35						
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール						ポジションコントロール（MA：ドラフトコントロール）
	装着方式	3点リンク JIS 1形						

■走行速度表

マルチレバー	主変速レバー	L_1-195(D)		L_1-215(D)		L_1-235(D)		L_1-255(D)		L_1-275(D)		L_1-295(D)		L_1-315(D)	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	1	0.23	0.20	0.23	0.20	0.24	0.23	0.23	0.22	0.24	0.23	0.24	0.22	0.25	0.22
	2	0.31	0.27	0.32	0.28	0.34	0.32	0.32	0.31	0.34	0.32	0.34	0.30	0.35	0.31
	3	0.38	0.33	0.38	0.33	0.41	0.39	0.39	0.38	0.42	0.40	0.42	0.38	0.43	0.39
	4	0.51	0.44	0.51	0.44	0.54	0.51	0.52	0.51	0.55	0.52	0.54	0.49	0.56	0.51
2	1	0.75	0.65	0.76	0.66	0.74	0.70	0.77	0.75	0.75	0.71	0.77	0.69	0.76	0.68
	2	1.05	0.91	1.05	0.91	1.03	0.97	1.08	1.05	1.05	0.98	1.07	0.96	1.06	0.95
	3	1.27	1.10	1.28	1.11	1.25	1.18	1.31	1.28	1.30	1.22	1.32	1.19	1.31	1.18
	4	1.69	1.47	1.70	1.48	1.66	1.57	1.74	1.70	1.69	1.59	1.72	1.55	1.71	1.54
3	1	1.79	1.56	1.80	1.56	1.91	1.80	1.82	1.78	1.94	1.82	1.91	1.72	1.98	1.79
	2	2.49	2.16	2.51	2.18	2.66	2.51	2.54	2.48	2.70	2.54	2.66	2.40	2.76	2.49
	3	3.02	2.62	3.04	2.64	3.23	3.05	3.07	3.00	3.36	3.15	3.31	2.98	3.43	3.09
	4	4.03	3.50	4.06	3.53	4.30	4.05	4.10	4.00	4.36	4.10	4.30	3.88	4.46	4.02
4	1	5.97	5.19	6.00	5.21	5.87	5.54	6.15	6.01	5.97	5.61	6.08	5.47	6.03	5.43
	2	8.31	7.22	8.36	7.26	8.17	7.70	8.56	8.37	8.32	7.82	8.46	7.63	8.39	7.56
	3	10.07	8.75	10.13	8.80	9.90	9.34	10.37	10.14	10.34	9.71	10.52	9.48	10.43	9.39
	4	14.50	11.67	14.57	11.76	14.26	12.45	14.89	13.53	14.44	12.63	14.68	12.32	14.53	12.21

マルチレバー		主変速レバー	L_1—325D	
			前進	後進
1		1	0.25	0.23
		2	0.35	0.31
		3	0.55	0.49
		4	0.81	0.73
2	低	1	1.2	1.1
	高		1.5	1.3
	低	2	1.7	1.5
	高		2.0	1.8
	低	3	2.7	2.4
	高		3.2	2.9
	低	4	3.9	3.5
	高		4.7	4.2
3		1	7.0	6.3
		2	9.8	8.8
		3	15.4	13.9
		4	24	20.5

主変速レバー	L_1-255DF	
	前進	後進
1	1.26	1.26
2	1.75	1.76
3	2.26	2.27
4	3.48	3.48
5	4.98	4.99
6	6.92	6.94
7	8.94	8.95
8	14.80	13.77

■PTO回転速度表

標準付属品

品　　名	数　量　／　台		備　　考
	195・215 235・255仕様	275・295 315・325仕様	
グリースガン	1	1	
ドライバー	1	1	+，−差換え式
10−12　スパナ	1	1	
14−17　スパナ	1	1	
19−22　スパナ	1	1	
24−27　スパナ	1	1	
17−24　メガネ　レンチ	1	1	
プライヤ	1	1	
ハンマ	—	1	
ジャッキ	—	1	ハンドル含む
エアーゲージ	—	1	
スローブローヒューズ	1	1	
メインスイッチキーアッシ	1	1	キー２コ＋安全憲章
取扱説明書	1	1	
サービスブック	1	1	
納入品安全説明書	1	1	
安全注意ポスタ	1	1	
ＰＴＯ軸カバー	1	1	
ボルト	1	1	ＰＴＯ軸カバー用
平座金	1	1	
バネ座金	1	1	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メ　ー　カ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイルSAE90
日本石油 コスモ石油 共同石油 昭和シェル石油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	クボタ純オイルM80B 又は クボタ純オイルUDT (油圧駆動用)	クボタ純オイルM90

寒冷地用としてミッションオイルにクボタ純オイルUDTをおすすめします。

■パワーステアリングオイル・グリース

メ　ー　カ	パワーステアリングオイル〔タービンオイル32(#90相当)〕	グ　リ　ー　ス	
		シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	クボタ純正ブレーキオイルBP−32(パワーステアリング兼用),スーパーハイランド32	エピノックグリースAPNo. 2	PAN WBグリース
コスモ石油	コスモハイドロHV32	ダイナマックスEPNo. 2	ロードマスターNo. 2
共同石油	共石ハイドラックス32	リゾニックスグリースEPNo. 2	リゾニックスグリースNo. 2
昭和シェル石油	テラスオイルC32	レチナックスCD	サンライトグリースNo. 2
モービル石油	モービルハイドロリックオイル28	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	テレッソ32	シャーシグリースL	リスタンWB 2
出光興産	ダフニーハイドロウリックフルイド32	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	ダイヤモンドハイドフルード32	シャーシグリースNo. 2	ホイールベアリングHDグリースNo. 2
ゼネラル石油	ゼネラルハイドフルード32	シャーシグリースNo. 2	WBグリースNo. 2
キグナス石油	ユニットオイルE32	シャーシグリースNo. 2	MPグリースNo. 2

主な消耗部品一覧表

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	15741-1108-0	10	デンキュウ	31351-3384-0
2	フューエルフィルタアッシ	15521-4301-3	11	デンキュウ【325仕様】	68811-5373-0
3	フィルタエレメント	15521-4316-0	12	デンキュウ	38450-3421-0
4	オイルフィルタカートリッジ	34680-3771-0		デンキュウ【325仕様】	38150-3381-0
	オイルフィルタカートリッジ【キャビン・ハウス・DK・DH・DJ仕様】	34670-3771-0	13	デンキュウ【325仕様】	38150-3382-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	14	デンキュウ【325仕様】	36200-7583-0
6	ヒューズ10A	31351-3363-0	15	デンキュウ【325仕様】	36530-7587-0
7	ヒューズ15A	31351-3364-0	16	デンキュウ【325仕様】	68811-5374-0
8	スローブローヒューズ	34670-3453-0	17	ランプ	38240-3147-0
9	デンキュウ	34670-3387-0		ランプ(倍速ターン・バックアップランプのみ)	38070-3147-0
	デンキュウ【325仕様】	38450-3387-0	18	ランプ	30402-4662-0

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪	997422-1002	ストレーク 取付台アッシ	L_1-195	●片側にストレーク5枚取付け用 ●8.3—24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997522-1002	ストレーク 取付台アッシ	L_1-215	●片側にストレーク5枚取付け用 ●9.5—22用	P18, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997622-1002	ストレーク 取付台アッシ	L_1-235	●片側にストレーク6枚取付け用 ●9.5—24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 6組/台
	997722-1002	ストレーク 取付台アッシ	L_1-255	●片側にストレーク7枚取付け用 ●11.2—24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	997222-1003	ストレーク 取付台アッシ	L_1-275	●片側にストレーク7枚取付け用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	990722-2001	ストレーク 取付台アッシ	L_1-295 L_1-315 L_1-325	●片側にストレーク7枚取付け用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	997462-5002	P18反転 ストレークアッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315 L_1-325	シュー幅　18cm ピン式 構成はR, L各1個	上記の水田車輪取付台アッシ
	995762-6902	P25反転 ストレークアッシ		シュー幅　25cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-7902	P30反転 ストレークアッシ		シュー幅　30cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-8902	P38反転 ストレークアッシ		シュー幅　38cm プレート式 構成はR, L各1個	
3点リンク	34660-7110-4	トップリンク アッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255	一般作業機用	
	34670-7110-4		L_1-275 L_1-295 L_1-315		
	38150-7110-1		L_1-325		
	992512-5001	リンクドローバ	L_1-195 L_1-215	JIS　1形	3点リンクアッシ
ウエイト	992211-2001	前部ウエイトアッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315 L_1-325	28kg 前車軸フレームの前部に取付け	

分類	品　番	品　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
ウエイト	995111-3001	前輪ウエイトアッシ	L_1-195 (4WD用はなし)	7.5kg×4個 4.00−12用	
	997211-3001		L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315 (4WD用はなし)	11kg×4個 4.00−15用 5.00−15用	
	992611-5001	後輪ウエイトアッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235	28kg×6個	
	992611-5111	後輪ウエイト		28kg 992611-5001に必要に応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0kg/cm²)	
	997711-5001	後輪ウエイトアッシ	L_1-255	28kg×6個	
	997711-5111	後輪ウエイト		28kg 997711-5001に必要に応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0kg/cm²)	01173-51680…3コ (ボルト) 04512-50160…3コ (バネ座金)
	992811-5002	後輪ウエイトアッシ	L_1-275 L_1-295 L_1-315	27.5kg×6個	
	992811-5112	後輪ウエイト		992811-5002に必要に応じて追加	
	34670-13023	バンパウエイト　20	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315	20kg, 30kg 前車軸フレームの間に取付け	
	34670-13042	バンパウエイト　30			
その他	990641-5001	強力日よけアッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315	L_1-R195, L_1-R215, L_1-R235, L_1-R255, L_1-R275, L_1-R295, L_1-R315には専用の強力日よけ有り。	幌キャビンアタッチは装着できません。
	990641-4001	サンバイザアッシ		強力日よけアッシ(990641-5001)に追加装着できます。	
	990741-5001	安全フレーム用 日よけ	L_1-325	標準安全フレームに追加装着できます。	
	990338-3001	幌キャビン アタッチアッシ	L_1-195 L_1-215	強力日よけアッシ(990338-5001)を同時購入してください。本アタッチは強力日よけに対する追加アッシです。	上記 強力日よけアッシ(990641-5001)には装着できません。
	990538-3001		L_1-235 L_1-255	強力日よけアッシ(990538-5001)を同時購入してください。本アタッチは強力日よけに対する追加アッシです。	
	990638-3001		L_1-275	強力日よけアッシ(990638-5001)を同時購入してください。本アタッチは強力日よけに対する追加アッシです。	
	990738-3001		L_1-295 L_1-315	強力日よけアッシ(990738-5001)を同時購入してください。本アタッチは強力日よけに対する追加アッシです。	

分類	品　　番	品　　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
その他	990619-1001	作業灯アッシ	L_1-195 L_1-215 L_1-235 L_1-255 L_1-275 L_1-295 L_1-315 L_1-325	12V27W	
	963971-5101	洗車ポンプ		PTO軸に取付け	
	99037-71000	L_1-215 レインガード キャビン　1組	L_1-195 L_1-215	R及びU仕様には装着できません。	
	99057-71000	L_1-255 レインガード キャビン　1組	L_1-235 L_1-255		
	99067-71000	L_1-275 レインガード キャビン　1組	L_1-275		
	99077-71000	L_1-315 レインガード キャビン　1組	L_1-295 L_1-315		
	99037-72000	L_1-215 クリヤウインド　1組	L_1-195 L_1-215	本アタッチはレインガードキャビンに対する追加アッシです。	(99037-71000) レインガードキャビン
	99057-72000	L_1-255 クリヤウインド　1組	L_1-235 L_1-255		(99057-71000) レインガードキャビン
	99067-72000	L_1-275 クリヤウインド　1組	L_1-275		(99067-71000) レインガードキャビン
	99077-72000	L_1-315 クリヤウインド　1組	L_1-295 L_1-315		(99077-71000) レインガードキャビン
	99037-73000	L_1-215 クリヤウインドII 1組	L_1-195 L_1-215	本アタッチはレインガードキャビンに対する追加アッシです。 ● ドアの脱着が可能	(99037-71000) レインガードキャビン
	99057-73000	L_1-255 クリヤウインドII 1組	L_1-235 L_1-255		(99057-71000) レインガードキャビン
	99067-73000	L_1-275 クリヤウインドII 1組	L_1-275		(99067-71000) レインガードキャビン
	99077-73000	L_1-315 クリヤウインドII 1組	L_1-295 L_1-315		(99077-71000) レインガードキャビン

インプルメント一覧表

品番	品名	適用型式								メーカ
		195	215	235	255	275	295	315	325	
70281-00012	R2-STWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70281-00022	R2-STVWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70283-00013	R3-STW$_2$ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70283-00023	R3-STVW$_2$ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00010	R5-STロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00020	R5-STVロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00012	R5-STWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00013	R5-STW$_2$ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00022	R5-STVWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00023	R5-STVW$_2$ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70278-00010	R6-STロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00020	R6-STVロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00012	R6-STWロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00013	R6-STW$_2$ロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00022	R6-STVWロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70273-00023	R6-STVW$_2$ロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70241-00010	RL4-STロータリ(サイド)	○	○							
70241-00020	RL4-STVロータリ(サイド)	○	○							
70241-00110	RL4E-STロータリ(サイド)	○	○							
70241-00120	RL4E-STVロータリ(サイド)	○	○							
70290-00020	RL4F-STVロータリ(サイド)	○	○							
70242-00010	RL5-STロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00020	RL5-STVロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00110	RL5E-STロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00120	RL5E-STVロータリ(サイド)			○	○	○				
70291-00020	RL5F-STVロータリ(サイド)			○	○	○				クボタ
70246-00010	RL6-STロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00020	RL6-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00110	RL6E-STロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00120	RL6E-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70292-00020	RL6F-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70248-00010	RL7-STロータリ(サイド)						○	○	○	
70248-00020	RL7-STVロータリ(サイド)						○	○	○	
70260-00010	RL4X-STロータリ(サイド,正逆転)	○	○							
70260-00020	RL4X-STVロータリ(サイド,正逆転)	○	○							
70262-00010	RL5X-STロータリ(サイド,正逆転)			○	○	○				
70262-00020	RL5X-STVロータリ(サイド,正逆転)			○	○	○				
70295-00020	RL5XF-STVロータリ(サイド,正逆転)	○	○	○						
70263-00010	RL6X-STロータリ(サイド,正逆転)					○	○	○		
70263-00020	RL6X-STVロータリ(サイド,正逆転)					○	○	○		
70267-00010	RL7X-STロータリ(サイド,正逆転)						○	○	○	
70267-00020	RL7X-STVロータリ(サイド,正逆転)						○	○	○	
70862-00000	U195Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)	○	○	○	○					
70864-00000	U275Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)					○				
70866-00000	U295Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)						○	○	△	
70868-00000	U325Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)								◎	
70863-00000	U195-5RF補助ユニット(Aフレーム)	○	○	○	○					
70865-00000	U275-5RF補助ユニット(Aフレーム)					○				
70867-00000	U295-5RF補助ユニット(Aフレーム)						○	○	△	
70869-00000	U325-5RF補助ユニット(Aフレーム)								◎	

【注１】●カバーの種類……STV：畦立機用Vカット付カバー　ST：Vカット無しカバー，W：300延長付，
W2：200延長付

●仕向地……………F：福岡向(砕土タイプ)　●仕様……E：エコノミー(ロアーリンクの装着はピン式)

【注２】◎……L_1-325MA仕様(オートドラフト)　△……L_1-325MA仕様以外

品　番	品　　　名	適　用　型　式								メーカ
		195	215	235	255	275	295	315	325	
75831-08070	TLH275ADグレイタスローダ	○	○	○	○	○				
75831-08080	TLH275AD-SLグレイタスローダ	○	○	○	○	○				
併用アタッチメント										
96261-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)	○	○	○						
99771-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)				○					
TLH275AD用先端アタッチメント										
75722-08070	LBH242ADバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75921-08070	LCBH242AD爪付きバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75931-08060	LWBH242AD広幅バケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75926-08170	LWCBH242AD広幅爪付きバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75792-08070	LMH242ADマニアフォーク(タイン本数6本)	○	○	○	○	○				
75798-08090	LWMH242AD広幅マニアフォーク(タイン本数6本)	○	○	○	○	○				
75752-08070	LHH242ADヘイフォーク(タイン本数7本)	○	○	○	○	○				
75941-08070	LGH242ADグレーダ(排土量0.26m³)	○	○	○	○	○				
75970-08060	LPFH242ADパレットフォーク(フォーク長さ705mm)	○	○	○	○	○				
75986-08070	LFH242ADローディングフック(吊り下げ能力300kg)	○	○	○	○	○				
75985-08070	LBHB242ADビートバケット(容量0.23m³)	○	○	○	○	○				
75936-08080	LWKBH242AD軽質広幅バケット(容量0.17m³)	○	○	○	○	○				
75832-08130	TLH315ADグレイタスローダ						○	○		
75832-08140	TLH315AD-SLグレイタスローダ						○	○		
75832-08150	TLH325ADグレイタスローダ								○	
併用アタッチメント										
99281-15001	後輪ウェイトアッシ(27.5kg×6コ)					○	○	○	○	
TLH315AD用先端アタッチメント										
75723-08040	LBH262ADバケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75922-08040	LCBH262AD爪付きバケット(容量0.16m³)						○	○	○	クボタ
75932-08040	LWBH262AD広幅バケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75926-08180	LWCBH262AD広幅爪付きバケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75793-08040	LMH262ADマニアフォーク(タイン本数6本)						○	○	○	
75798-08100	LWMH262AD広幅マニアフォーク(タイン本数8本)						○	○	○	
75753-08040	LHH262ADヘイフォーク(タイン本数7本)						○	○	○	
75942-08040	LGH262ADグレーダ(排土量0.35m³)						○	○	○	
75970-08070	LPFH262ADパレットフォーク(フォーク長さ805mm)						○	○	○	
75986-08080	LFH262ADローディングフック(吊り下げ能力350kg)						○	○	○	
75985-08080	LBHB262ADビートバケット(容量0.34m³)						○	○	○	
75936-08090	LWKBH262AD軽質広幅バケット(容量0.17m³)						○	○	○	
75820-08160	XLH285ミニグレイタスローダ	○	○	○	○	○	○			
74242-18070	SD403Dスーパディスク	○	○	○	○					
74251-18010	SD423Dスーパディスク	○	○	○	○					
74243-18060	SD603Dスーパディスク				○	○	○	○	○	
74252-18010	SD623Dスーパディスク	○	○	○	○	○	○	○	○	
71991-11111	TV-25トップリンクバイブロ	○	○	○	○	○	○	○	○	
71991-51111	T-110サブソイラ	○	○	○	○	○	○	○	○	
71997-11111	TV-252トップリンクバイブロ	○	○	○	○					
71977-00000	AT305明渠溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	
71978-00000	AT455明渠溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	
78271-29010	SK502S溝掘機	○	○	○	○	○				
71154-00000	DMC1350モーアコンディショナ					○	○	○	○	
78240-06070	TH771トレンチャ					○	○	○	○	
71061-00000	HKLIユアツトリダシL_1キット	○	○	○	○	○	○	○	○	
70424-50000 ロータリ 70424-60000 マルチ	RT1203マルチロータリ	○	○	○						

配線図

■L1ー325仕様以外

◆ワイヤハーネス1

◆ワイヤハーネス２

●配線色表記

W	白	WL	白地に青線	LW	青地に白線
R	赤	RW	赤地に白線	LR	青地に赤線
L	青	RL	赤地に青線	LY	青地に黄線
Y	黄	RY	赤地に黄線	LB	青地に黒線
B	黒	BW	黒地に白線	LG	青地に緑線
G	緑	BL	黒地に青線	YR	黄地に赤線
Br	茶	BR	黒地に赤線	YL	黄地に青線
Or	橙	BY	黒地に黄線	YB	黄地に黒線
Lg	若葉	GW	緑地に白線	YG	黄地に緑線
WG	白地に緑線	GY	緑地に黄線	BrW	茶地に白線
WB	白地に黒線	GB	緑地に黒線	BrR	茶地に赤線
WR	白地に赤線	GR	緑地に赤線		

◆ワイヤハーネス 3

●配線色表記

W	白	WL	白地に青線	LW	青地に白線
R	赤	RW	赤地に白線	LR	青地に赤線
L	青	RL	赤地に青線	LY	青地に黄線
Y	黄	RY	赤地に黄線	LB	青地に黒線
B	黒	BW	黒地に白線	LG	青地に緑線
G	緑	BL	黒地に青線	YR	黄地に赤線
Br	茶	BR	黒地に赤線	YL	黄地に青線
Or	橙	BY	黒地に黄線	YB	黄地に黒線
Lg	若草	GW	緑地に白線	YG	黄地に緑線
WG	白地に緑線	GY	緑地に黄線	BrW	茶地に白線
WB	白地に黒線	GB	緑地に黒線	BrR	茶地に赤線
WR	白地に赤線	GR	緑地に赤線		

■L1－325仕様

◆ワイヤハーネス1

◆ワイヤハーネス2

●配線色表記

W	白	WL	白地に青線	LW	青地に白線
R	赤	RW	赤地に白線	LR	青地に赤線
L	青	RL	赤地に青線	LY	青地に黄線
Y	黄	RY	赤地に黄線	LB	青地に黒線
B	黒	BW	黒地に白線	LG	青地に緑線
G	緑	BL	黒地に青線	YR	黄地に赤線
Br	茶	BR	黒地に赤線	YL	黄地に青線
Or	橙	BY	黒地に黄線	YB	黄地に黒線
Lg	若　葉	GW	緑地に白線	YG	黄地に緑線
WG	白地に緑線	GY	緑地に黄線	BrW	茶地に白線
WB	白地に黒線	GB	緑地に黒線	BrR	茶地に赤線
WR	白地に赤線	GR	緑地に赤線		

◆ワイヤハーネス3

●配線色表記

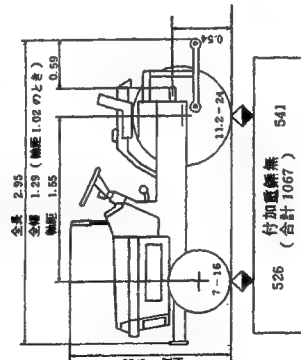
W	白	WL	白地に青線	LW	青地に白線
R	赤	RW	赤地に白線	LR	青地に赤線
L	青	RL	赤地に青線	LY	青地に黄線
Y	黄	RY	赤地に黄線	LB	青地に黒線
B	黒	BW	黒地に白線	LG	青地に緑線
G	緑	BL	黒地に青線	YR	黄地に赤線
Br	茶	BR	黒地に赤線	YL	黄地に青線
Or	橙	BY	黒地に黄線	YB	黄地に黒線
Lg	若葉	GW	緑地に白線	YG	黄地に緑線
WG	白地に緑線	GY	緑地に黄線	BrW	茶地に白線
WB	白地に黒線	GB	緑地に黒線	BrR	茶地に赤線
WR	白地に赤線	GR	緑地に赤線		

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭[illegible]日
生物系特定産業技術
研究推進機構

合格番号　88023　　型 式 名　クボタ L1−255D
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　関
   種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
   呼称出力：18.4 kW {25 PS}
   定格回転数：2600 rpm
   シリンダ内径×行程：87 × 82 mm
   総行程容積：1.462 l
   燃焼室形式：渦流室式
   過給機の有無：無
3. 伝動装置
   主クラッチ形式：乾式単板
   主変速：4段
   副変速：2段
   クリープ変速：2段
   前進：16段（0.2〜13.4 km／h）
   後進：16段（0.2〜13.1 km／h）
4. 主PTO
   規格：6スプライン直径35 mm
   回転数（機関定格のとき）：
   正転　578, 805, 975, 1300 rpm
   逆転　743
   PTOクラッチ形式：普通形
5. 作業機昇降装置
   形式：油圧式
   制御方式：ポジションコントロール
   油圧外部取出口：PS1/4，1個
   作業機装着装置：3点リンク1形
6. 輪　距
   前輪：1.05 m（1段階）
   後輪：1.02〜1.32 m（6段階）
   試験時：前輪 1.05 m，後輪 1.02 m
7. かじ取装置
   形式：インテグラル式

Ⅱ 検査成績

1. PTO性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
17.9 kW {24.3 PS}	293 g/kW·h {216 g/PSh}	578 rpm	12 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
9速	8.43 kN {860 kgf}	3.71 kW {5.05 PS}	1.58 km/h
14速	6.28 kN {640 kgf}	13.2 kW {18.0 PS}	7.60 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 12.26 MPa {125 kgf/cm²} のとき）	
下部リンクピッチ点揚力	フレーム上の揚力
8.24 kN {840 kgf}	6.13 kN {625 kgf}

ポンプ性能（最大出力時）		
流　量	圧　力	出　力
22.4 l/min	12.26 MPa {125 kgf/cm²}	4.58 kW {6.22 PS}

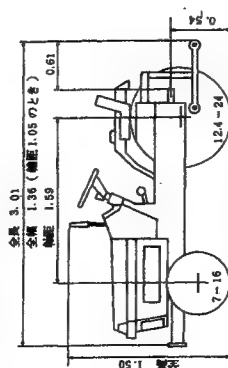
4. 騒音（運転者の耳もと）：88 dB(A)
5. 静的横転倒角：37°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.14 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ 付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅰ類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号　88024　　型式名　**クボタ L1−275D**

依頼者名　久保田鉄工株式会社

住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番４７号

I　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　関
   - 種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
   - 呼称出力：19.9 kW｛27 PS｝
   - 定格回転数：2700 rpm
   - シリンダ内径×行程：87 × 82 mm
   - 総行程容積：1.462 l
   - 燃焼室形式：渦流室式
   - 過給機の有無：無
3. 伝動装置
   - 主クラッチ形式：乾式単板
   - 主変速：４段
   - 副変速：２段
   - クリープ変速：２段
   - 前進：16 段（0.3〜13.6 km／h）
   - 後進：16 段（0.2〜12.7 km／h）
4. 主ＰＴＯ
   - 規格：６スプライン直径 35 mm
   - 回転数（機関定格のとき）：
     - 正転　600, 836, 1038, 1350 rpm
     - 逆転　771
   - ＰＴＯクラッチ形式：普通形
5. 作業機昇降装置
   - 形式：油圧式
   - 制御方式：ポジションコントロール
   - 油圧外部取出口：PS1/4，１個
   - 作業機装着装置：３点リンク１形
6. 輪　距
   - 前輪：1.05 m（１段階）
   - 後輪：1.05〜1.52 m（６段階）
   - 試験時：前輪 1.05 m，後輪 1.05 m
7. かじ取装置
   - 形式：インテグラル式

II　検査成績

1. ＰＴＯ性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
19.0 kW {25.8 PS}	298 g/kW·h {219g/PSh}	589 rpm	12 %

図１　ＰＴＯ性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
９速	9.41 kN {960 kgf}	4.61 kW {6.27 PS}	1.76 km/h
14速	6.57 kN {670 kgf}	14.5 kW {19.7 PS}	7.96 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 11.77 MPa {120 kgf/cm²} のとき）	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
8.58 kN {875 kgf}	6.62 kN {675 kgf}

ポンプ性能（最大出力時）

流　量	圧　力	出　力
23.3 l/min	11.77 MPa {120 kgf/cm²}	4.57 kW {6.21 PS}

4. 騒音（運転者の耳もと）：88 dB(A)
5. 静的横転倒角：38°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.17 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

III　付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年３月５日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第１類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

生物系特定産業技術研究推進機構

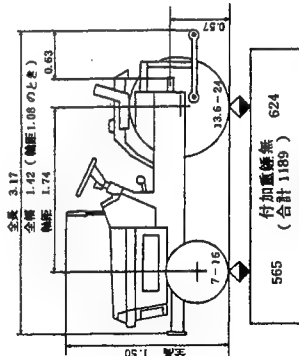
4輪駆動

合格番号　88025　　型 式 名　クボタ L1—295D

依頼者名　久保田鉄工株式会社

住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　　関
   - 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
   - 呼称出力：21.0 kW｛28.5 PS｝
   - 定格回転数：2700 rpm
   - シリンダ内径×行程：76.3×82 mm
   - 総行程容積：1.499 l
   - 燃焼室形式：渦流室式
   - 過給機の有無：無
3. 伝動装置
   - 主クラッチ形式：乾式単板
   - 主変速：4段
   - 副変速：2段
   - クリープ変速：2段
   - 前進：16段（0.2～13.6 km/h）
   - 後進：16段（0.2～12.2 km/h）
4. 主ＰＴＯ
   - 規格：6スプライン直径35 mm
   - 回転数（機関定格のとき）：
     - 正転　600, 836, 1038, 1350 rpm
     - 逆転　771
   - ＰＴＯクラッチ形式：普通形
5. 作業機昇降装置
   - 形式：油圧式
   - 制御方式：ポジションコントロール
   - 油圧外部取出口：PS1/4，1個
   - 作業機装着装置：3点リンク1形
6. 輪　　距
   - 前輪：1.05 m（1段階）
   - 後輪：1.08～1.55 m（6段階）
   - 試験時：前輪1.05 m，後輪1.08 m
7. かじ取装置
   - 形式：インテグラル式

Ⅱ　検査成績

1. ＰＴＯ性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
20.2 kW ｛27.5 PS｝	287 g/kW·h ｛211 g/PSh｝	600 rpm	2 %

図1　ＰＴＯ性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
9速	10.00 kN ｛1020 kgf｝	4.80 kW ｛6.53 PS｝	1.73 km/h
14速	7.06 kN ｛720 kgf｝	15.4 kW ｛21.0 PS｝	7.88 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 11.77 MPa｛120 kgf/cm²｝のとき）	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
8.58 kN ｛875 kgf｝	6.62 kN ｛675 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）		
流　量	圧　力	出　力
23.3 l/min	11.77 MPa ｛120 kgf/cm²｝	4.57 kW ｛6.21 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：90 dB（A）
5. 静的横転角：37°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.35 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ　付　　記

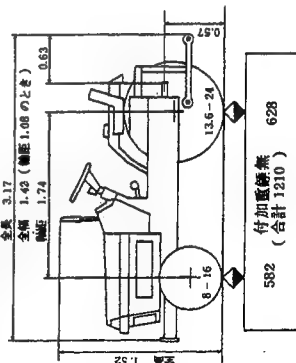
本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第1類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和63年11月29日
生物系特定産業技術研究推進機構
4輪駆動

合格番号　88026　　型式名　クボタ L1－315D
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　関
   - 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
   - 呼称出力：22.4 kW｛30.5 PS｝
   - 定格回転数：2800 rpm
   - シリンダ内径×行程：76.3×82 mm
   - 総行程容積：1.499 l
   - 燃焼室形式：渦流室式
   - 過給機の有無：無
3. 伝動装置
   - 主クラッチ形式：乾式単板
   - 主変速：4段
   - 副変速：2段
   - クリープ変速：2段
   - 前進：16段（0.3～13.4 km/h）
   - 後進：16段（0.2～12.1 km/h）
4. 主PTO
   - 規格：6スプライン直径35 mm
   - 回転数（機関定格のとき）：
     - 正転　622. 867, 1077, 1400 rpm
     - 逆転　800 rpm
   - PTOクラッチ形式：普通形
5. 作業機昇降装置
   - 形式：油圧式
   - 制御方式：ポジションコントロール
   - 油圧外部取出口：PS1/4，1個
   - 作業機装着装置：3点リンク1形
6. 輪　距
   - 前輪：1.09 m（1段階）
   - 後輪：1.08～1.55 m（6段階）
   - 試験時：前輪 1.09 m，後輪 1.08 m
7. かじ取装置
   - 形式：インテグラル式

Ⅱ　検査成績

1. PTO性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
21.0 kW ｛28.6 PS｝	294 g/kW·h ｛216g/PSh｝	622 rpm	6 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
9速	10.00 kN ｛1020 kgf｝	5.00 kW ｛6.80 PS｝	1.80 km/h
14速	7.55 kN ｛770 kgf｝	16.2 kW ｛22.0 PS｝	7.70 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 12.16 MPa｛124 kgf/cm²｝のとき）	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
8.83 kN ｛900 kgf｝	6.82 kN ｛695 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）		
流　量	圧　力	出　力
24.1 l/min	12.16 MPa ｛124 kgf/cm²｝	4.88 kW ｛6.64 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：90 dB(A)
5. 静的横転倒角：38°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.38 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ　付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅰ類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和…日 生物系特定産業技術研究推進機構

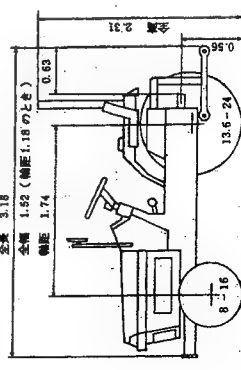
4輪駆動

合格番号 88027　型式名 クボタ L1−325D

依頼者名 久保田鉄工株式会社

住　所 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法(m)・質量(kg)

2. 機　関
   - 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
   - 呼称出力：23.5 kW {32 PS}
   - 定格回転数：2700 rpm
   - シリンダ内径×行程：82×82 mm
   - 総行程容積：1.732 l
   - 燃焼室形式：渦流室式
   - 過給機の有無：無
3. 伝動装置
   - 主クラッチ形式：乾式複板
   - 主変速：4段
   - 副変速：2段
   - クリープ変速：2段
   - 前進：16段(0.3〜22.7 km/h)
   - 後進：16段(0.2〜20.5 km/h)
4. 主PTO
   - 規格：6スプライン直径35 mm
   - 回転数(機関定格のとき)：
     - 正転　634, 773, 1108, 1350 rpm
     - 逆転　693
   - PTOクラッチ形式：普通形(正転2,4速，逆転1速)
     二段踏込(正転1,3速)
5. 作業機昇降装置
   - 形式：油圧式
   - 制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   - 油圧外部取出口：PS1/4，1個
   - 作業機装着装置：3点リンク1形
6. 輪　距
   - 前輪：1.19 m(1段階)
   - 後輪：1.18〜1.55 m(5段階)
   - 試験時：前輪 1.19 m，後輪 1.18 m
7. かじ取装置
   - 形式：インテグラル式

Ⅱ 検査成績

1. PTO性能(最大出力時)

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
22.0 kW {29.9 PS}	301 g/kW·h {221g/PSh}	635 rpm	10 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能(コンクリート上)

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
9速	10.79 kN {1100 kgf}	3.99 kW {5.43 PS}	1.33 km/h
13速	9.51 kN {970 kgf}	16.4 kW {22.3 PS}	6.19 km/h
14速	6.86 kN {700 kgf}	16.9 kW {23.0 PS}	8.86 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力(圧力 12.45 MPa {127 kgf/cm²} のとき)	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
9.12 kN {930 kgf}	7.16 kN {730 kgf}

ポンプ性能(最大出力時)		
流　量	圧　力	出　力
23.3 l/min	12.45 MPa {127 kgf/cm²}	4.84 kW {6.58 PS}

4. 騒音(運転者の耳もと)：91 dB(A)
5. 静的横転倒角：39°
6. 最小旋回半径(ブレーキ使用時)：2.48 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ 付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針(昭和62年3月5日農林水産大臣公表)に定められたトラクターの第1類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88016	型式名	クボタSF—20
	依頼者名	久保田鉄工株式会社
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
	製造者名	依頼者に同じ
	住所	

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名　クボタL1—215D　クボタL1—205D　クボタL1—205　クボタL1—195D
クボタL1—185D　クボタL1—185　クボタL1—20D　クボタL1—20
クボタL1—18D　クボタL1—18

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	クボタ L1—215D	クボタ L1—18
種類	4輪駆動	2輪駆動
質量(フレーム付き) kg	1090	995
軸距 mm	1500	1500
機関出力／回転数 kW〔PS〕／rpm	15.4〔21〕／2500	13.2〔18〕／2500

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，取付金具を介してクランクケース部とフライホイールハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		97.0 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		138.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		81.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		— cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		42.0 cm
戸口の幅	（上部）	— cm
	（中部）	— cm
	（下部）	— cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	132.0 cm
	（最高位ステップから）	151.0 cm
	（最低位ステップから）	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	195.0 cm
	（排気管上端まで）	cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	115.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		27.5 cm

※ 1. クボタ L1—215D，タイヤサイズ： 前輪6－14，後輪9.5－22装着時
2. トラクターシートの銘柄型式： 難波プレス工業，N 43261

3. 主要材料
主フレーム：STKR41， SS41， SPHC
装着ブラケット：SS41， SPHC
組立・装着ボルト：S43C

4. 主な装備
シートベルト（2点式）

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は 1090 kg。

所要吸収エネルギー： 後部負荷：1.53 kJ〔156kgf・m〕 前部負荷：1.05 kJ〔107kgf・m〕
側部負荷：1.91 kJ〔195kgf・m〕
圧壊力： 21.80 kN〔2223kgf〕

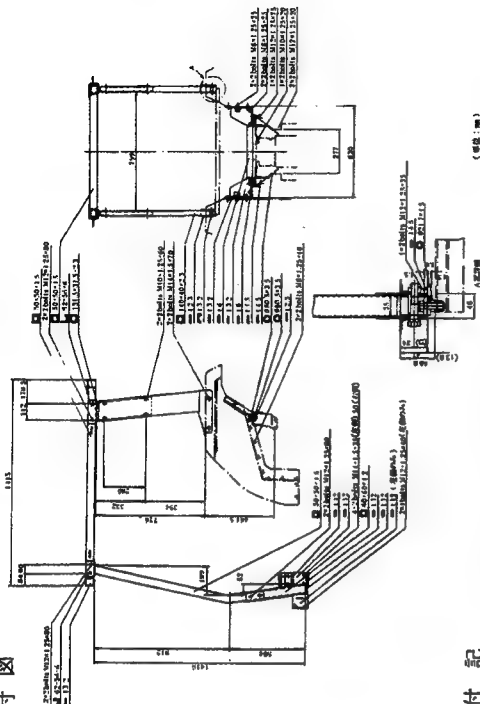
2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：右側 －4.5cm，左側 1.5cm　前部（後方へ）：右側 4.5cm，左側 －1.0cm
側部（左側方へ）：前側 3.5cm，後側 11.5cm　上部（下方へ）：前部 右側0.5cm，左側0.5cm　後部 右側1.5cm，左側0.5cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差： 10.5 cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km／h に近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）
91 dBA〔クボタ L1—215D〕　87 dBA〔クボタ L1—18〕

Ⅳ 付図

Ⅴ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 86028）であり，装着トラクター2型式（クボタ L1—215D，クボタ L1—195D）の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。
強度試験；分解調査

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

合格番号　88017　　型 式 名　クボタＳＦ—24

依頼者名　久保田鉄工株式会社

住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

製造者名　依頼者に同じ

住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型 式 名

クボタＬ1—255ＤＦ	クボタＬ1—255Ｄ	クボタＬ1—Ｒ245	クボタＬ1—245Ｄ
クボタＬ1—245	クボタＬ1—235Ｄ	クボタＬ1—Ｒ225	クボタＬ1—225Ｄ
クボタＬ1—225	クボタＬ1—215Ｄ	クボタＬ1—Ｒ205	クボタＬ1—195Ｄ
クボタＬ1—Ｒ185	クボタＬ1—Ｒ24	クボタＬ1—24Ｄ	クボタＬ1—24
クボタＬ1—Ｒ22	クボタＬ1—22Ｄ	クボタＬ1—22	クボタＬ1—Ｒ20
クボタＬ1—Ｒ18			

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型　式　名	クボタ Ｌ1—255ＤＦ	クボタ Ｌ1—Ｒ18
種　　類	4輪駆動	4輪駆動
質量（フレーム付き）kg	1215	1125
軸　　距 mm	1595	1550
機関出力／回転数 kW｛PS｝／rpm	18.4｛25｝／2600	13.2｛18｝／2500

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の４柱式であり，取付金具を介してクランクケース部とフライホイールハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。なお，装着可能トラクターのうち座席及びステアリングホイール等を反転移動できるものに対応するためフレーム上部を伸ばすことができる。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：96.5(110.5)cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：139.0(166.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：81.5(81.5)cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：—(—)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：—(—)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：—(—)cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：42.0(30.5)cm
戸口の幅	（上部）	：—(—)cm
	（中部）	：—(—)cm
	（下部）	：—(—)cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：133.0(161.5)cm
	（最高位ステップから）	：—(—)cm
	（最低位ステップから）	：—(—)cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：199.5(228.5)cm
	（排気管上端まで）	：—(—)cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：115.0(115.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：25.0(18.0)cm

※ 1. クボタ Ｌ1—Ｒ245，タイヤサイズ：前輪７—16，後輪11.2—24　装着時

2. トラクターシートの銘柄型式：　　プレス工業，Ｎ43260

3. （ ）内は座席及びステアリングホイル等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

3. 主要材料

主フレーム：ＳＴＫＲ41，ＳＳ41，ＳＰＨＣ

装着ブラケット：ＳＳ41，ＳＰＨＣ

組立・装着ボルト：Ｓ43Ｃ

4. 主な装備

シートベルト（２点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1220kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.71kJ｛174kgf・m｝前部負荷：1.11kJ｛113kgf・m｝

：側部負荷：2.14kJ｛218kgf・m｝

圧　壊　力：24.40kN｛2488kgf｝

2) 試験後のフレームの永久変位※

後部（前方へ）：右側—4.5(—4.0)cm，左側 1.0(—2.0)cm

前部（後方へ）：右側 4.5(3.5)cm，左側—0.5(1.0)cm

側部（左側方へ）：前側 4.0(8.0)cm，後側 11.0(9.5)cm

上部（下方へ）：前部 右側 0.5(0)cm，左側 0(0.5)cm；後部 右側 1.5(0.5)cm，左側 0.5(1.0)cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差※：10.5(10.0)cm

2. フレーム内の騒音（7.5km/hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）※

91dBA〔クボタＬ1—255ＤＦ〕　89(88)dBA〔クボタＬ1—Ｒ18〕

※（ ）内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

Ⅳ　付図

Ⅴ　付記

本フレームは，既合格機（合格番号86029）であり，装着トラクター５型式（クボタ Ｌ1—255ＤＦ，クボタ Ｌ1—255Ｄ，クボタ Ｌ1—235Ｄ，クボタ Ｌ1—215Ｄ，クボタ Ｌ1—195Ｄ）の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。

強度試験，分解調査

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号　88018　型式名　**クボタ　SF－26M**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名　クボタL1－275D　クボタL1－R265　クボタL1－265D　クボタL1－265
　　　　　クボタL1－R26　クボタL1－26D　クボタL1－26

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型　式　名		クボタ　L1－275D	クボタ　L1－26
種　類		4輪駆動	2輪駆動
質量（フレーム付き）	kg	1275	1190
軸　距	mm	1590	1685
機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	19.9{27}／2700	19.1{26}／2600

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，取付金具を介してクランクケース部，フライホイールハウジング部とクラッチハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。なお，装着可能トラクターのうち座席及びステアリングホイール等を反転移動できるものに対応するためフレーム上部を伸ばすことができる。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		97.5(112.0)cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		138.5(165.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		81.5(81.5)cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		－(－)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		－(－)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		－(－)cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		42.5(22.5)cm
戸口の幅	（上部）	－(－)cm
	（中部）	－(－)cm
	（下部）	－(－)cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	132.0(160.5)cm
	（最高位ステップから）	151.0(179.5)cm
	（最低位ステップから）	－(－)cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	199.5(228.0)cm
	（排気管上端まで）	－(－)cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	115.0(115.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		27.0(15.0)cm

※ 1.　クボタ　L1－275D，タイヤサイズ：　前輪7－16，後輪12.4－24　装着時
　2.　トラクターシートの銘柄型式：　難波プレス工業，N 43260
　3.　( )内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

3. 主要材料
主　フ　レ　ー　ム：　STKR41，SS41，SPHC
装着ブラケット：　SS41，SPHC
組立・装着ボルト：　S43C

4. 主な装備
シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
1) 水平負荷試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1305kg。
所要吸収エネルギー：後部負荷：1.83kJ{186kgf・m}　前部負荷：1.15kJ{118kgf・m}
　　　　　　　　　　：側部負荷：2.28kJ{233kgf・m}
圧　　壊　　力：26.10kN{2661kgf}
2) 試験後のフレームの永久変位※
後部　（前方へ）：右側 －3.0(－3.0)cm，左側 2.5(0)cm
前部（後方へ）：右側 4.0(3.0)cm，左側 －2.0(1.5)cm
側部（左前方へ）：前側 4.5(8.0)cm，後側 13.5(12.0)cm
上部（下方へ）：前部　右側 0(0)cm，左側 1.0(1.0)cm
　　　　　　　　後部　右側 1.0(0)cm，左側 1.5(2.0)cm
3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差※：10.0(9.5)cm

2. フレーム内の騒音（7.5km/hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）※
90(90)dBA〔クボタ　L1－275D〕　89 dBA〔クボタ　L1－26〕
※（　）内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

Ⅳ　付図

Ⅴ　付記

本フレームは，既合格機（合格番号86030）であり，装着トラクター1型式（クボタ　L1－275D）の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88019　型式名　**クボタ SF−28M**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名　クボタL1−315D　クボタL1−295D　クボタL1−R285
　　　　　クボタL1−285D　クボタL1−285　クボタL1−R28
　　　　　クボタL1−28D　クボタL1−28

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型　　式　　名		：クボタL1−315D	クボタL1−285
種　　　　類		：4輪駆動	2輪駆動
質量（フレーム付き）	kg	：1390	1290
軸　　　　距	mm	：1735	1735
機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	：22.4{30.5}／2800	20.6{28}／2700

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，取付金具を介してクランクケース部,フライホイールハウジング部とクラッチハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。なお，装着可能トラクターのうち座席及びステアリングホイール等を反転移動できるものに対応するためフレーム上部を伸ばすことができる。

2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：95.0(110.0)cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：136.0(163.5)cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：81.5(81.5)cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：−(−)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：−(−)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：−(−)cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：40.0(20.0)cm
戸口の幅	（上部）	：−(−)cm
	（中部）	：−(−)cm
	（下部）	：−(−)cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：131.0(158.5)cm
	（最高位ステップから）	：151.0(178.5)cm
	（最低位ステップから）	：−(−)cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：199.0(227.5)cm
	（排気管上端まで）	：−(−)cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：114.0(114.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：23.5(21.0)cm

※ 1 クボタL1−315D，タイヤサイズ：前輪8−16，後輪13.6−24 装着時
2 トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N43260
3 ( )内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

3. 主要材料
主フレーム：　STKR41，SS41，SPHC
装着ブラケット：　SS41，SPHC
組立・装着ボルト：　S43C

4. 主な装備
シートベルト（2点式）

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1350kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.89 kJ{193 kgf·m}　前部負荷：1.18 kJ{120 kgf·m}
　　　　　　　　　：側部負荷：2.36 kJ{241 kgf·m}
圧　　壊　　力：27.00 kN{2753 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位※

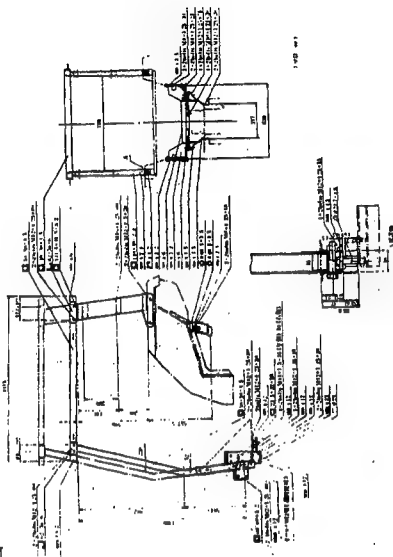
後部（前方へ）：{右側 −2.5(−2.0)cm / 左側 3.0(−1.0)cm}　前部（後方へ）：{右側 3.5(2.0)cm / 左側 −2.0(1.0)cm}

側部（左側方へ）：{前側 4.5(8.5)cm / 後側 13.0(11.5)cm}　上部（下方へ）：前部{右側 −1.0(−1.0)cm / 左側 0.5(1.5)cm}
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　後部{右側 0 (−0.5)cm / 左側 1.0(2.0)cm}

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差※：9.5(9.0)cm

2. フレーム内の騒音（7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）※
93(92)dBA〔クボタL1−315D〕　92dBA〔クボタL1−285〕
※（ ）内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し，フレームを伸ばした状態。

Ⅳ 付図

Ⅴ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号86063）であり，装着トラクター2型式（クボタL1−315D，クボタL1−295D）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

昭和63年11月 日
生物系特定産業技術研究推進機構
安全フレーム

合格番号　88028　型式名　クボタ SF325
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名
　クボタ L1－325 D

2. 主要諸元

型　式　名	：	クボタ L1－325 D
種　　類	：	4輪駆動
質量(フレーム付き) kg	：	1360
軸　　距 mm	：	1735
機関出力／回転数 kW{PS}／rpm	：	23.5{32}／2700

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法
　供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

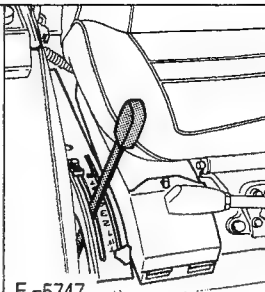
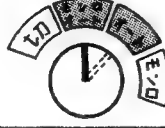
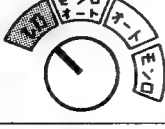
2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	123.0 cm
フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	162.5 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：	89.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	－ cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	－ cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	－ cm
戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	－ cm
	（下部）	：	－ cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	－ cm
	（最高位ステップから）	：	－ cm
	（最低位ステップから）	：	－ cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（フレーム上端まで）	：	230.5 cm
フレームの全幅		：	102.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	38.5 cm

※ 1. クボタ L1－325 D，タイヤサイズ： 前輪 8－16， 後輪 13.6－24 装着時
　2. トラクターシートの銘柄型式： 難波プレス工業， N 92071

3. 主要材料
　主フレーム： STKR41， SM50B
　装着ブラケット： SM50B
　組立・装着ボルト： S43C， SCM435
4. 主な装備
　シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
　1) 水平負荷試験は，フレームの後方左側，前方右側，側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1400 kg。
　　所要吸収エネルギー： 後部負荷：1.96 kJ{200 kgf・m}　前部負荷：1.20 kJ{122 kgf・m}
　　　　　　　　　　　　側部負荷：2.45 kJ{250 kgf・m}
　　圧　壊　力： 28.00 kN{2855 kgf}
　2) 試験後のフレームの永久変位
　　後部 （前方へ）：{ 右側 －1.0 cm / 左側 1.0 cm　　側部（左側方へ）：10.5 cm
　　上部 （下方へ）：{ 右側 －1.0 cm / 左側 1.0 cm
　3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：12.0 cm
2. フレーム内の騒音（7.5 km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）
　93 dBA〔クボタ L1－325 D〕

Ⅳ　付図

Ⅴ　付記

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作方法	操作調整箇所			
			オート感度切換えスイッチ オート耕深調節ダイヤル 作業切換えスイッチ F-5749			F-5747
			作業切換えスイッチ	オート耕深調節ダイヤル	オート感度切換えスイッチ	コントロールレバー
浅起し（5～8cm）		オート【MA仕様】				「最下位置」
		ポジションコントロール		—	—	
一般耕うん（8～15cm）		オート【MA仕様】				
		ポジションコントロール		—	—	
深起し（15cm以上）		オート【MA仕様】				
		ポジションコントロール		—	—	
代かき（10～12cm）	一般ほ場	オート【MA仕様】				
	湿田ほ場	オート【MA仕様】				ポジション範囲内 「希望耕深になる位置」
	一般湿田	ポジションコントロール		—	—	「最下位置」
畝立て		ポジションコントロール		—	—	

**※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合せて適宜調整してください。**

操作調整箇所				
【RL仕様】 ㊤ ㊥ ㊦ F-5611	【R仕様】 ㊤ ㊦ F-5791	G-3279	G-3285	㊤ ㊥ ㊦ G-3275
後2輪上下調節		後2輪ハンドル	スナップピン	フラップカバー
後2輪を外します	後2輪を外します	—	●上方のスナップピン 上から3段目にセット 割りピン スナップピン	㊦の位置
㊤の位置	㊤の位置	希望耕深になるよう調整		㊥又は㊦の位置
後2輪を外します	後2輪を外します	—		㊥の位置
㊦の位置（必要に応じて㊥の位置）	㊦の位置	希望耕深になるよう調整		
後2輪を外します	後2輪を外します	—		●荒起し ㊦の位置 ●細土耕うん ㊥又は㊤の位置
㊦の位置	㊦の位置	希望耕深になるよう調整		
後2輪を外します	後2輪を外します	—	●下方のスナップピン 接地圧条件に合せてセット	㊥又は㊦の位置 ㊦の位置
㊤の位置	㊤の位置	希望耕深になるよう調整		㊥又は㊦の位置
後2輪を外します	後2輪を外します	希望耕深になるよう調整	●カバーを上げスナップピンでセット	フラップカバーを外します

■オートドラフトコントロールによる作業要領【L1－325MA仕様】

作業内容	操作調整箇所		
	オート耕深調節ダイヤル 作業切換えスイッチ F-5845		F-5747
	作業切換えスイッチ	オート／ドラフト耕深調節ダイヤル	コントロールレバー
浅起し			
一般耕うん			
深起し			

◆感度調整要領

ほ場状態	操作調整箇所	
	① ② ③ ④ F-3902	オート感度切換えスイッチ F-5845
	トップリンクホルダの位置	オート感度切換えスイッチ
やわらかいほ場	①又は②の位置	
一般のほ場	②又は③の位置	
かたいほ場	③の位置	

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本　　　社	大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区手稲東3北3丁目2番地2	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚方製造所	枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺部品センター	堺市築港新町3丁8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪市浪速区敷津東1-2-47	〒556-91	電(06)	648-2111
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原570	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　34670—1921—8